

永 教 学 7 0 4 号
令和元年 1 2 月 2 5 日

永平寺町学校のあり方検討委員会 委員長様

永平寺町教育委員会
教育長 室 秀 典

永平寺町内小中学校のこれからのあり方について（諮問）

永平寺町学校のあり方検討委員会設置要綱（令和元年永平寺町教育委員会告示第 3 号）第 2 条の規定により、次に掲げる事項について答申頂きたく、諮問いたします。

諮問事項

永平寺町内の小中学校のこれからについて

- （1）望ましい教育環境のあり方
- （2）地域と連携した学校づくりのあり方

諮問理由

少子化の進行を含めた社会情勢の変化は、教育環境にさまざまな影響を及ぼすことが懸念されます。

永平寺町内の小中学校において、将来にわたって質の高い教育を維持するため、児童生徒にとってどのような教育環境が必要かを総合的に議論し、望ましい学校のあり方について答申頂きたいと存じます。

永平寺町教育委員会告示第 3 号

永平寺町学校のあり方検討委員会設置要綱を次のように定める。

令和元年 8 月 1 日

福井県吉田郡永平寺町教育委員会 教育長 室 秀 典

永平寺町学校のあり方検討委員会設置要綱

(目的)

第 1 条 永平寺町内の小中学校のこれからのあり方について検討し、望ましい学校教育環境の整備に資するため、永平寺町学校のあり方検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、永平寺町教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次の事項について協議し、教育委員会に答申するものとする。

- (1) 望ましい教育環境のあり方
- (2) 地域と連携した学校づくりのあり方

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 議会代表
- (3) 永平寺町校長会代表
- (4) 保護者代表
- (5) 地域代表
- (6) 住民代表
- (7) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は第 2 条に規定する答申をもって終了する。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は学識経験者のうちから委員の互選により選出し、副委員長は委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員の委嘱後最初の会議は、教育委員会が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員長は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見等を聴取することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

■検討委員会名簿（R1.12）

	区 分	氏 名	団体名等	備 考
1	学識経験者	淵本 幸嗣	福井大学連合教職大学院 教授	
2		木村 優	福井大学連合教職大学院 准教授	
3	議会代表	江守 勲	町議会議員	
4		奥野 正司	町議会議員	
5	町校長会代表	大谷 峰雄	町校長会代表（小学校）	
6		大西 泰弘	町校長会代表（中学校）	
7	保護者代表 （松岡・永平寺・上志比、それぞれの地区で女性1名以上を選出）	佐々木 幸絵	松岡小学校育友会代表	
8		石本 十盛	吉野小学校PTA代表	
9		松岡 由浩	御陵小学校育友会代表	
10		大久保 幹夫	志比小学校PTA代表	
11		松山 由紀	志比南小学校PTA代表	
12		末永 治幸	志比北小学校PTA代表	
13		黒田 陽子	上志比小学校PTA代表	
14		戸枝 宏介	松岡中学校PTA代表	
15		川端 正治	永平寺中学校PTA代表	
16		赤井 常治	上志比中学校PTA代表	
17	地域代表	金元 直栄	吉野地区振興連絡協議会代表	
18		前川 高廣	御陵振興連絡協議会代表	
19		川崎 直文	志比北振興連絡協議会代表	
20		反保 昌宏	上志比地区振興連絡協議会代表	
21		堀江 俊子	松岡公民館代表	
22		松原 武範	永平寺公民館代表	
23		大道 正一	志比南公民館代表	
24	住民代表	寺前 紀美子	一般公募	

事務局

氏 名	所属・役職	備 考
多田 和憲	学校教育課・課長	
田邊 尚紀	学校教育課・指導主事	
寺岡 孝純	学校教育課・課長補佐	

■検討委員会名簿（R2.4）

	区 分	氏 名	団体名等	備 考
1	学識経験者	淵本 幸嗣	福井大学連合教職大学院 教授	委員長
2		木村 優	福井大学連合教職大学院 准教授	副委員長
3	議会代表	江守 勲	町議会議員	
4		奥野 正司	町議会議員	
5	町校長会代表	大谷 峰雄	町校長会代表（小学校）	
6		大西 泰弘	町校長会代表（中学校）	
7	保護者代表 （松岡・永平寺・上志比、それぞれの地区で女性1名以上を選出）	佐々木 幸絵	松岡小学校育友会代表	
8		石本 十盛	吉野小学校PTA代表	
9		松岡 由浩	御陵小学校育友会代表	
10		大久保 幹夫	志比小学校PTA代表	
11		松山 由紀	志比南小学校PTA代表	
12		末永 治幸	志比北小学校PTA代表	
13		黒田 陽子	上志比小学校PTA代表	
14		戸枝 宏介	松岡中学校PTA代表	
15		川端 正治	永平寺中学校PTA代表	
16		赤井 常治	上志比中学校PTA代表	
17	地域代表	金元 直栄	吉野地区振興連絡協議会代表	
18		前川 高廣	御陵振興連絡協議会代表	
19		川崎 直文	志比北振興連絡協議会代表	
20		反保 昌宏	上志比地区振興連絡協議会代表	
21		堀江 俊子	松岡公民館代表	
22		松原 武範	永平寺公民館代表	
23		大道 正一	志比南公民館代表	
24	住民代表	寺前 紀美子	一般公募	

事務局

氏 名	所属・役職	備 考
多田 和憲	学校教育課・課長	
稲葉 雄治	学校教育課・指導主事	
寺岡 孝純	学校教育課・課長補佐	

■検討委員会名簿（R3.4）

	区 分	氏 名	団体名等	備 考
1	学識経験者	淵本 幸嗣	福井大学連合教職大学院 教授	委員長
2		木村 優	福井大学連合教職大学院 教授	副委員長
3	議会代表	江守 勲	町議会議員	
4		奥野 正司	町議会議員	
5	町校長会代表	齋藤 浩和	町校長会代表（小学校）	
6		前川 秀幸	町校長会代表（中学校）	
7	保護者代表 （松岡・永平寺・上志比、それぞれの地区で女性1名以上を選出）	佐々木 幸絵	松岡小学校育友会代表	
8		角井 麻美	吉野小学校PTA代表	
9		多田 治男	御陵小学校育友会代表	
10		大久保 幹夫	志比小学校PTA代表	
11		松山 由紀	志比南小学校PTA代表	
12		末永 治幸	志比北小学校PTA代表	
13		黒田 陽子	上志比小学校PTA代表	
14		戸枝 宏介	松岡中学校PTA代表	
15		小林 孝文	永平寺中学校PTA代表	
16		赤井 常治	上志比中学校PTA代表	
17	地域代表	金元 直栄	吉野地区振興連絡協議会代表	
18		前川 高廣	御陵振興連絡協議会代表	
19		川崎 直文	志比北振興連絡協議会代表	
20		反保 昌宏	上志比地区振興連絡協議会代表	
21		堀江 俊子	松岡公民館代表	
22		松原 武範	永平寺公民館代表	
23		嵐 博行	志比南公民館代表	
24	住民代表	寺前 紀美子	一般公募	

事務局

氏 名	所属・役職	備 考
多田 和憲	学校教育課・課長	
稲葉 雄治	学校教育課・指導主事	
山口 健二	学校教育課・課長補佐	

教育の振興に関する大綱

令和 2 年 3 月

永平寺町

永平寺町教育目標

地域の豊かな自然、伝統ある歴史や文化の中で、自信と誇りを持ち、心豊かで、生きがいと活力ある社会をめざし、次の目標を定める。

(永平寺町のめざす教育の姿)

◎ふるさとの自然や伝統を尊び、ふるさとを愛する人を育てる。

◎自ら学び考え行動し、活力あるまちづくりを目指す人を育てる。

◎生命を尊び、思いやりの心を持って社会に貢献できる人を育てる。

◎スポーツや体験活動に親しみ、心身ともに健康な人を育てる。

◎家庭や地域の教育力の充実を図り、共に生きる社会を築く人を育てる。

永平寺町教育施策

教育目標を実現するため次の施策を定め、教育行政を推進する。

学校教育の充実

義務教育を取り巻く社会環境は、少子高齢化やグローバル化、技術革新などにより、大きく変化してきています。これに伴い、永平寺町においては、児童・生徒が地域への関心を持ち、難しいことにでも挑戦しようとする意欲を育むことが大切になってきています。

こうした状況において、子どもたちが夢や希望を実現し、地域の担い手として活躍していくためには、「高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造し、未来を切り開いていく力」が求められています。児童・生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、自分の可能性に挑戦しようとするたくましい精神を育むとともに、難しい課題であっても、多様な人々と関わることで考えを深め、協働しながら乗り越えていこうとする豊かな人間性を育成していくことが不可欠です。

このため、教育課程の改善を図ることで、「確かな学力」を身につけさせるとともに、学校内外の教育環境の整備を進めることで、学校・家庭及び地域社会の連携を深め、明るい開かれた学校づくりに努めます。そして、ふるさと永平寺町を誇りに思える魅力ある学校づくりを目指します。

ふるさと永平寺町を誇りに思える魅力ある学校づくりを目指して、「礼の心」を重んじ、夢や希望を持って粘り強く学び、行動力のある児童生徒を育成します。

1. 「豊かな心」の育成

よりよい人間関係を築くには、社会性や規範意識など豊かな人間性を身につけることが大切です。多様な人々の存在を認め、自分に関わるすべての人に感謝の気持ちを持ち、ともに高め合っていこうとする心を「礼の心」と捉えます。この「礼の心」を、特別な教科道徳はもちろんのこと、教科、および特別活動など教育活動全体を通して重んじることで、自他の個性を生かし、協働して課題を解決しようとする態度を育みます。

さらに、ふるさと永平寺の先人や歴史、自然、伝統・文化、産業について体験したり調べたりする活動を充実させることや、地域での奉仕活動や体験活動を推進することで、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする気持ちを養います。

- (1) 「礼の心」を重んじた道徳教育の推進
- (2) 助け合い褒め合う活動の推進

(3) ふるさと学習とボランティア活動の推進

2.「確かな学力」の育成

自分に自信を持ち、粘り強く学ぶことができるように、個性を重視し、一人一人の学力を伸ばす教育を推進します。基礎基本の定着はもちろんのこと、自分のよさに気付かせ、それを伸ばしていけるように支援を進めます。また、自分なりの「問い」を持ちながら学びを進めることができるよう、子どもたちの自由な発想を大切にしていきます。そのために、学びの基本となる語彙力や読み解く力、目的意識・相手意識を明確にした表現力を育成し、創造力を高めていきます。また、国際感覚を持った人材を育成するために、英語教育の充実や ICT 活用など、今日的課題に対応した取り組みを、時代に合わせて柔軟に進めていきます。

- (1) 一人一人を大切にした学習の推進
- (2) 主体的・対話的で深い学びの推進
- (3) 今日的課題への積極的な取り組みの推進

3.「健やかな体」の育成

子どもたちが生涯にわたり健康でたくましく生きていけるよう、学校体育や保健指導を充実させるとともに、望ましい生活習慣の確立を図ります。また、豊かな感性や想像力を育むために、芸術・スポーツに親しむ機会を充実させます。

- (1) 体育・保健・食育などの学習の強化推進
- (2) 基本的な生活習慣の習得の推進

4. 特別支援教育の充実

特別な教育的支援を必要とする児童・生徒も含め、全ての子どもたちがよりよい教育を受けるためには、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が必要です。そこで、まず、教職員の研修により、児童生徒が抱える困難さに対する正しい認識と理解を深めるとともに、指導における専門性を高めます。次に、交流学习や道徳教育を通して、心の教育の推進を図るとともに、よりよい人間関係を築くためのソーシャルスキル教育を充実させます。さらに、専門性をもつ外部機関との連携を強めることで校内支援体制を充実させ、個に応じた支援体制を構築します。

- (1) 気がかりな児童・生徒理解を深める研修の充実
- (2) 個に応じた校内支援体制の充実

5. 教師の指導力向上

教員は、教科の内容を教えるだけでなく、児童生徒に夢や希望を与える存在でなければなりません。そこで、体系的な研修を通して自身の資質能力を高め、「育てたい人間像」を問い続ける教師集団を目指します。

また、豊かな人間性で児童生徒を迎え入れられるような信頼関係作りの構築に取り組みます。そのためにも、心身ともに健康で「笑顔」で子どもと向き合えるよう業務改善を進めていきます。

- (1) アクティブ・ラーニングにおける指導方法・評価方法等の研究の推進
- (2) 教職員・児童生徒、ともに笑顔あふれる学校づくりの推進
- (3) 幼小中における教員相互の研修など「つながり合う教育」の推進
- (4) 業務改善および教職員の働き方改革

6. 家庭・地域・学校・専門機関との連携

家庭や地域と一体となった教育力の向上が必要とされる今日、学校はもとより、家庭・地域それぞれが、子どもの成長に関わる存在としての役割や責任を自覚し、チームとして教育に携わっていくことが重要です。特に、いじめや不登校は「いつ、どんな場面でも、どの子にも起こりうる」という共通理解のもと、連絡を密にして、未然防止と早期発見、早期対応に組織的に取り組みます。

情報技術が急速に進展する今日、子どもたちの安全を見守り、より良い生活リズムをつくりあげるには、家庭の協力が不可欠です。家庭との連携を深め、仮想社会ではなく、直接人と人が向き合い、対話を重視する生活環境をつくりあげます。

家庭教育についての関心と理解を深めるため、専門機関と連携した相談体制や情報発信を促進します。

- (1) 児童・生徒の居場所づくり・絆づくりの促進
- (2) 家庭と連携したスマートルールの促進
- (3) 家族との対話を重視した良い生活リズムの確立
- (4) 教育相談体制の充実

社会教育の推進

SNS 等の発達や各種の民間企業などによる学習サービスも充実してきており、自分の趣味趣向に合った情報収集や体験が容易となってきています。しかし、そういった時代だからこそ、人と人とのつながりや学び合いによる体験ができる地域づくりが重要となっています。

心身ともに健康で充実した生活を送るため、また地域の人たちや仲間とともに笑顔で会話が交わせる明るい地域づくりを進めるため、情報の提供や活動の場や体制づくりに努めます。

笑顔あふれる連携と協働のまちづくりを目指して、自ら学び行動する人を応援し、心豊かなゆとりで満ちた人づくりと、地域を支え未来へとつなぐ人づくりを進めます。

1. 生涯学習の充実

町民が心豊かで生きがいある人生を送るために、生涯を通した学習活動によって自らの個性を伸ばし、その成果を地域等で活かせる環境づくりが必要です。そのために、その活動や学びの場となる公民館や図書館などの機能や体制を強化するとともに、各種講座の育成も図り「学び合い」ができる環境を整えます。また、ライフステージや住民ニーズに応じた講座や教室などの開催により、学びのきっかけづくりを図ります。

- (1) 公民館機能の強化
- (2) 図書館の充実
- (3) 学習機会の提供

2. 生涯スポーツの充実

幼児から高齢者に至るまでの全ての人々が健康で豊かな生活を送るためには、適切なスポーツ活動が重要な要素であり、その環境づくりは不可欠です。そのステージとなる体育施設の保持、提供とともに、多様化するニーズにも対応しつつ、各種の団体等とも連携しながら、社会体育活動の推進を図ります。

- (1) スポーツ機会の提供と施設整備
- (2) スポーツ団体との協働
- (3) 障がい者スポーツの推進

3. 地域文化の振興

文化芸術は、豊かな感性や想像力を育み、生活にゆとりや潤いを与えます。よって、町内の文化芸術活動に関する団体との連携を図り、発表、体験、鑑賞できる機会を提供していきます。また、町内の文化財の整備、保存、活用に努めます。

- (1) 文化活動の発表の場の提供
- (2) 文化財の保護と活用

4. 家庭教育の充実

子どもたちを育てる基本は家庭であるため、各種機関とも連携しながら、子育て支援に関する情報や交流の場を提供します。

- (1) 子育て支援と交流の場の提供
- (2) 家庭教育に関する学習機会の提供

5. 地域を支え未来へつなぐ人づくり

地域の教育力が低下しつつある現代にあって、家庭や地域、学校が連携して関わり、見守り、育てていくことが重要です。子どもたちに安全・安心な環境づくりを進めるとともに、地域全体の教育力を高めていきます。また、明日の社会を担う青少年などにさまざまな体験活動を提供していきます。

近年は、青年層の地域活動や社会教育活動への参画が少ないことも大きな課題となっています。ニーズを把握しながら、青年の活動機会の創出をし、地域や団体の中において青年層が参画できる環境づくりを進めます。

- (1) 安全・安心な環境づくり
- (2) 青少年の体験活動機会の提供
- (3) 若者の地域参画促進

6. 共に生きる社会づくり

誰もが住みやすい環境を整えるために、人にやさしいまちづくりを進めるとともに、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みます。また、地域をつくる主人公はそこに住む住民であることから、自治会のほか地域の各種団体活動の支援を行います。

- (1) 人権意識・男女共同参画意識の高揚など共生社会の推進
- (2) 地域活動の推進
- (3) 各種団体活動の支援
- (4) 国際理解・国際交流の充実

つながる

第二次
永平寺町
総合振興計画

2017～2026

感動

清流

平成29年3月

第3節 将来像実現に向けた計画の体系

将来像の実現に向けて、7つの分野別の基本目標を掲げ、施策の展開を図ります。





第1章 豊かな人間性と 文化を育む、 ゆとりに満ちた 人づくり

- 第1節 子育て支援の充実
- 第2節 家庭・地域の教育力の向上
- 第3節 生涯学習の充実
- 第4節 生涯スポーツの推進
- 第5節 学校教育環境の充実
- 第6節 地域文化の振興

第5節 学校教育環境の充実

現状と課題

小学校から中学校までの義務教育期間は、子どもたちの知力や体力が大きく発達し、個性と人格を形成するうえでもきわめて重要な時期にあたります。

本町では、特色のある教育、児童生徒の現状にあった教育活動、地域と連携した行事、また地域参加型の授業も実施しています。様々な支援を必要とする児童・生徒に対し、学校教育支援員を配置して、学校生活上の介助や学習活動の支援をしています。

社会情勢が日々変化し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わってきている中で、心身ともに健全な子どもを育てるため、感謝する心や感動する心、思いやりの心などを育む道德教育や、郷土を知り郷土を愛する教育をより一層充実させていくことも必要です。

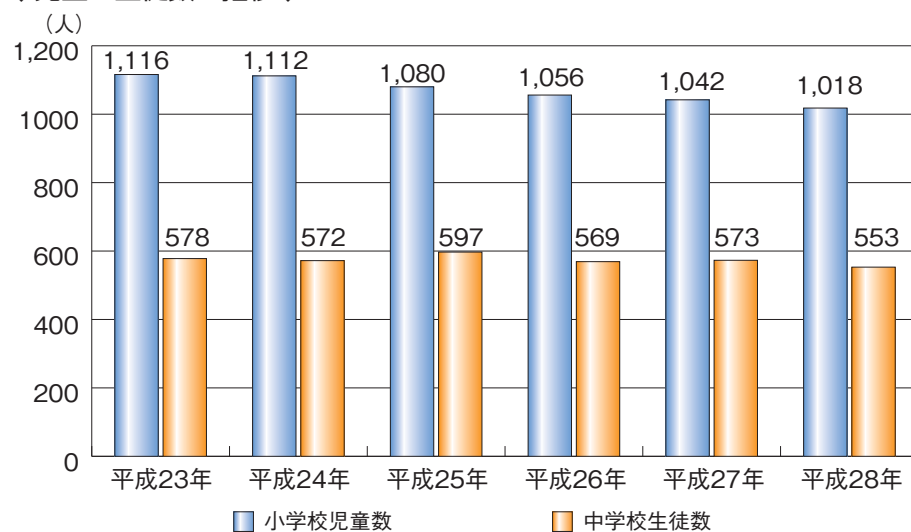
教育施設の整備については、校舎や体育館の老朽化、耐震力のない学校施設において耐震補強工事を行い、安心安全な教育環境の整備を図りました。これからは、小・中学校の児童・生徒の減少など教育環境の変化に対応した教育施設の整備を計画的に行うことが重要です。

◆町内の小・中学校一覧表◆

区 分	学校名
小学校（7校）	松岡小学校
	吉野小学校
	御陵小学校
	志比小学校
	志比南小学校
	志比北小学校
	上志比小学校
中学校（3校）	松岡中学校
	永平寺中学校
	上志比中学校

資料：庁内担当課

◆児童・生徒数の推移◆



資料：庁内担当課

施策の展開

(1) 教育内容の充実

子どもたちに学ぶ楽しさを実感させ、基礎的な知識と基本的な技術に基づく確かな学力を身につけさせるため、学習指導の工夫と改善を図るとともに、子どもたちの特性に応じて授業を実施するなど、きめ細かな教育を推進します。

教育活動全般を通して「礼の心」を重んじた道德教育を推進するとともに、家庭や地域との連携を図りながら地域での奉仕活動、ボランティア活動、体験学習などを充実し「豊かな心」、「郷土を愛する心」を育てます。

また、家庭における学習習慣の定着を図るなど、学校と家庭が一体となった教育を推進します。

- 「礼の心」を重んじた教育の充実
- 確かな学力の向上
- 豊かな心、郷土を愛する心の育成

(2) ふるさとに学ぶ教育の充実

子どもたちが本町の風土や文化、産業などを学び、体験できる機会を充実するとともに、地域の行事への参加を通して地域社会との交流や連携を深め、子どもたちの郷土への理解や誇りを育みます。

学校が主体性を持って地域に根ざした特色ある教育活動を展開するとともに、家庭・地域とのコミュニケーションを大切にして、地域と共に歩む学校づくりを進めます。

また、教職員一人ひとりの指導力向上を図るための大学と連携した取組みを進めます。

- 地域に根ざした特色ある教育活動の展開
- 地域と進める体験活動の充実
- 教師の指導力向上支援事業の充実
- 家庭・地域・学校協議会の充実
- 学校開放日の設定

(3) 教育施設の整備

学校施設の長期保全再生計画を基本に、老朽化や児童・生徒数の変化など、教育環境の変化に応じて施設の整備、充実を図ります。

- 各学校施設改修工事の実施
- 非構造部材耐震工事の実施

◆目標指標

指標の内容	当初値 (H28)	目標値 (H33)	目標値 (H38)
学校教育環境の充実への取組みに関する町民満足度	63.5%	65.0%	70.0%

2019年12月25日 永平寺町学校のあり方検討委員会

これからの社会と教育のあり方について

福井大学連合教職大学院 准教授 木村優



内閣府HPより

Society 5.0

ソ サ エ テ イ

それは、
いつもの毎日にやってくる、
半歩先の未来。

» 5.0ってなに？



内閣府HPより

世界を動かすデジタル化

プログラマー

When I grow up I would like to be: a computer programmer

Please draw a picture of what you want to do when you grow up. If you draw more than one picture, please say which one is your top choice. You can use text as part of your picture if you wish.



PLEASE DRAW IN THIS BOX ONLY

Do you personally know anyone who does this job? ☒ YES ☐ NO

If yes, who are they? my dad

コンピュータ技術者

When I grow up I would like to be: Computer mechanic

Please draw a picture of what you want to do when you grow up. If you draw more than one picture, please say which one is your top choice. You can use text as part of your picture if you wish.



PLEASE DRAW IN THIS BOX ONLY

Do you personally know anyone who does this job? ☐ YES ☒ NO

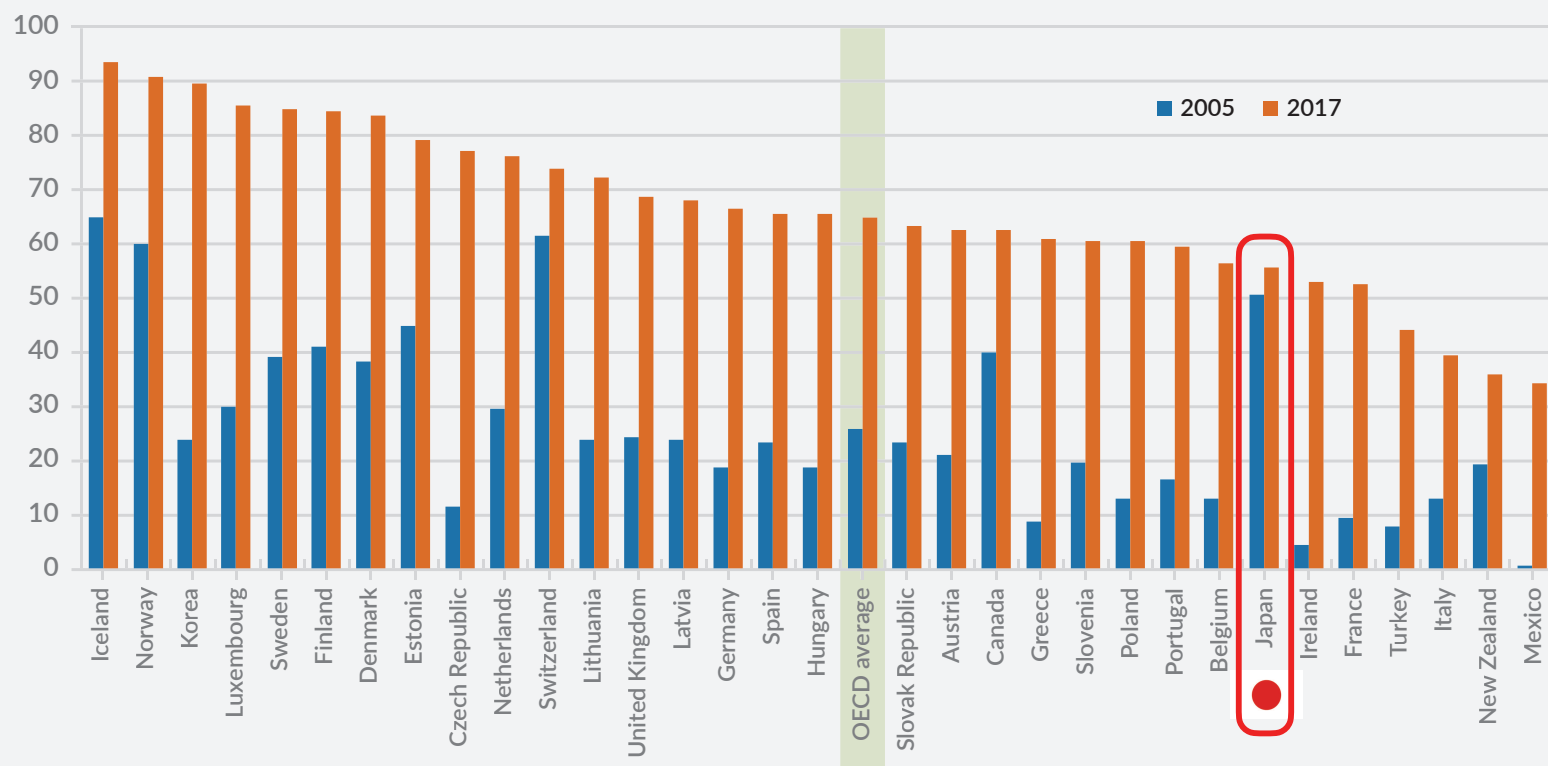
If yes, who are they? I like computers and I know they had a job for making them or else computers would not exist.

If no, how do you know about this job? I like computers and I know they had a job for making them or else computers would not exist.

OECD 2019 公益財団法人日本国際教育支援協会 訳『トレンド、データや子供たちの絵からみる未来の教育と職業』
<http://www.oecd.org/education/Envisioning-the-Future-of-Education-and-Jobs-Japanese.pdf>

ニュースをオンラインで読む人が急増、本当？

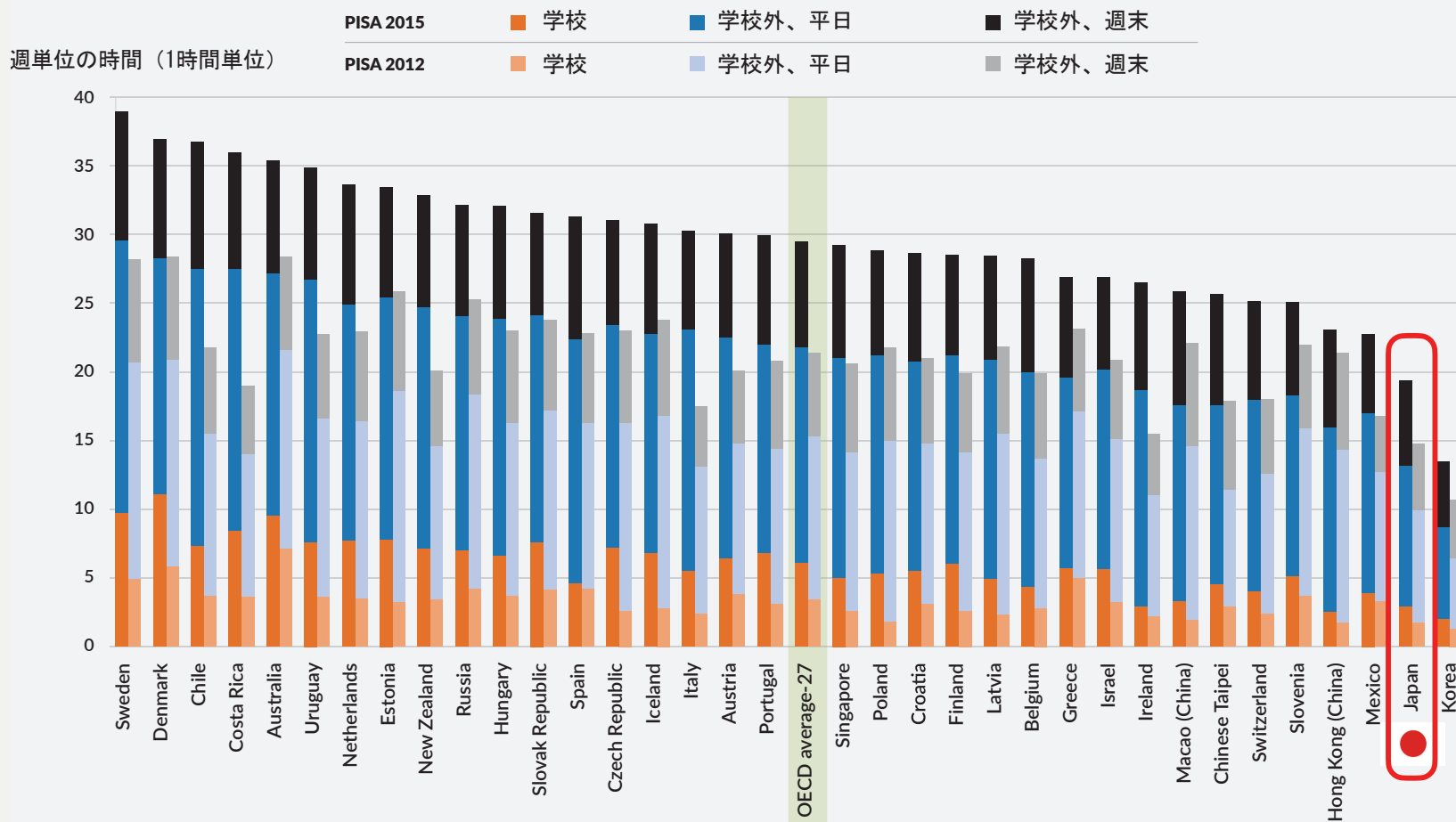
個人がオンラインでニュースを読んだり、ダウンロードしたりするパーセンテージ 2005年と2017年比較



注: 連続してデータを収集できなかった国々については、直近年の数値を表示。

出典: Trends Shaping Education, OECD 2019 (OECD data).

生徒がインターネットに費やす時間

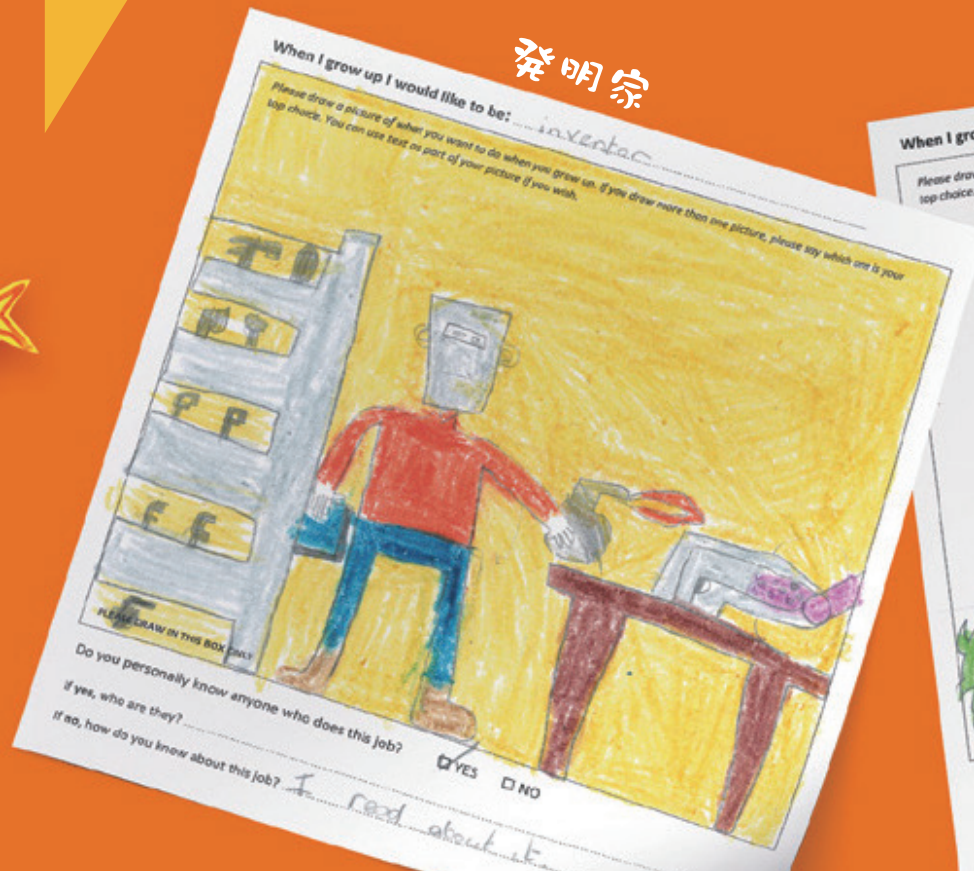


注：週単位の平均時間を算出する為、回答を中間値にし（例 1日31－60分は1日45.5分）、学校がある平日なら5を乗じ、週末なら2を乗じた。PISA 2012年とPISA2015年の比較できるデータがある国々のみが表示されている。

出典: OECD, PISA 2015 Database.

新しい可能性を生む第四次産業革命

発明家



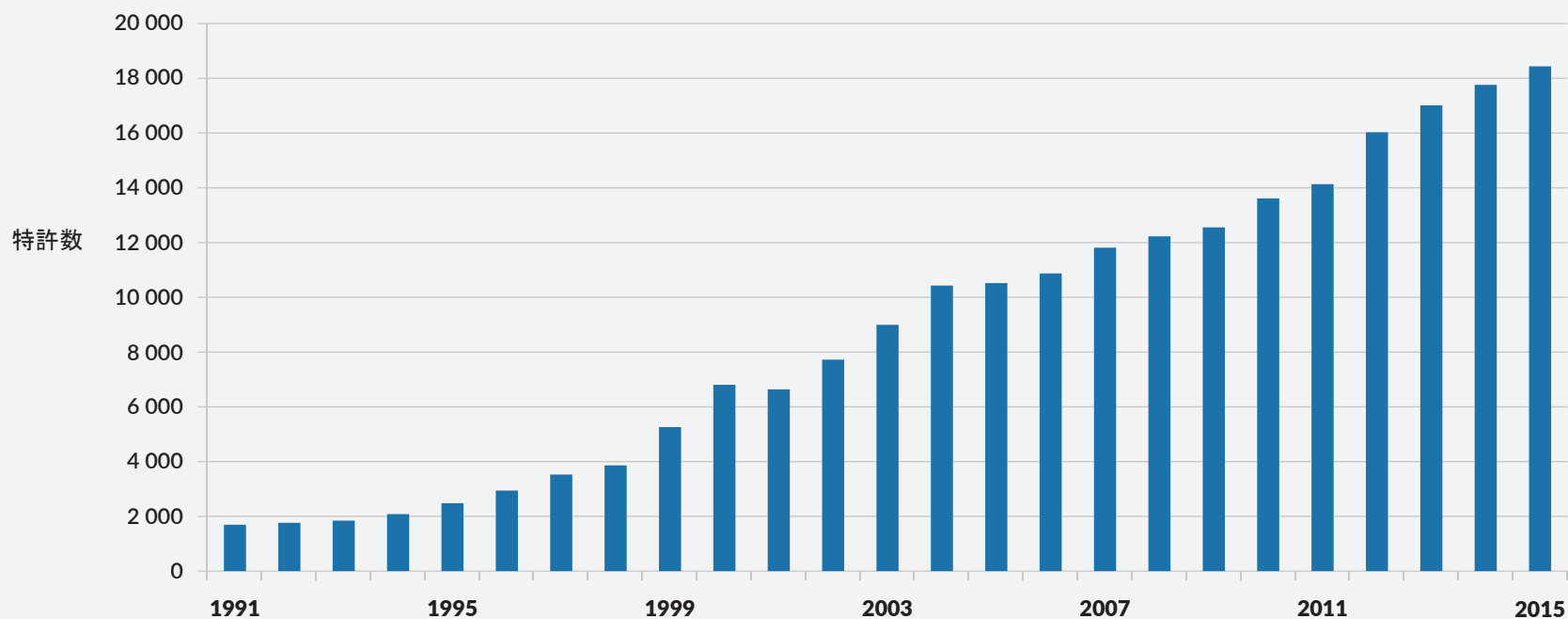
ロボット技術者



OECD 2019 公益財団法人日本国際教育支援協会 訳『トレンド、データや子供たちの絵からみる未来の教育と職業』
<http://www.oecd.org/education/Envisioning-the-Future-of-Education-and-Jobs-Japanese.pdf>

AI技術の成長

AI技術の特許数 1991年-2015年



注: データはAIのIP5特許に分類されるものの数で、申請日や申請者の国を基に標準化。AIとはInaba and Squicciarini (2017)によるICT特許分類カテゴリーにある「ヒューマンインタフェース」と「認知と理解力」を示す。2014年と2015年の数値は、各年で取得可能なデータを基に推計。

出典: Trends Shaping Education, OECD 2019 (OECD data).

男女における理系キャリアの夢

OECD加盟国平均

生徒が職業として志すのは・・・

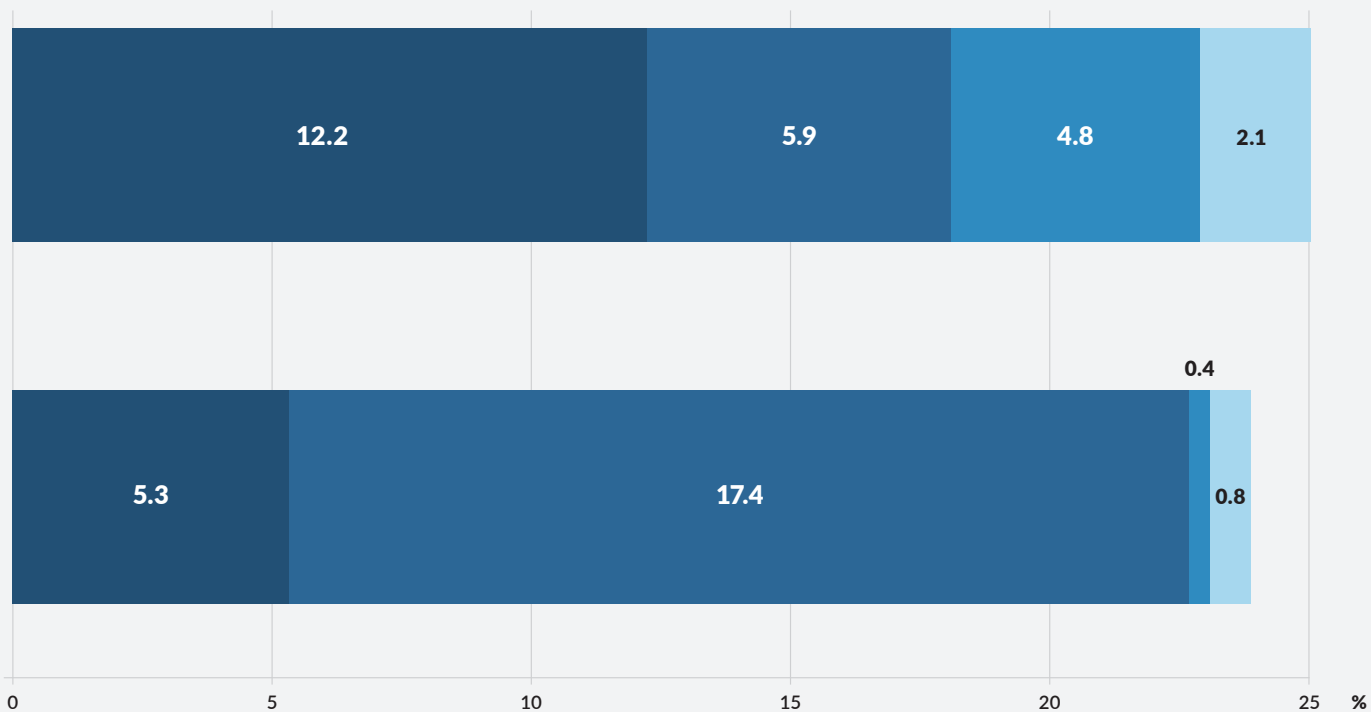
■ ... 理学・工学専門職

■ ... 医療専門職

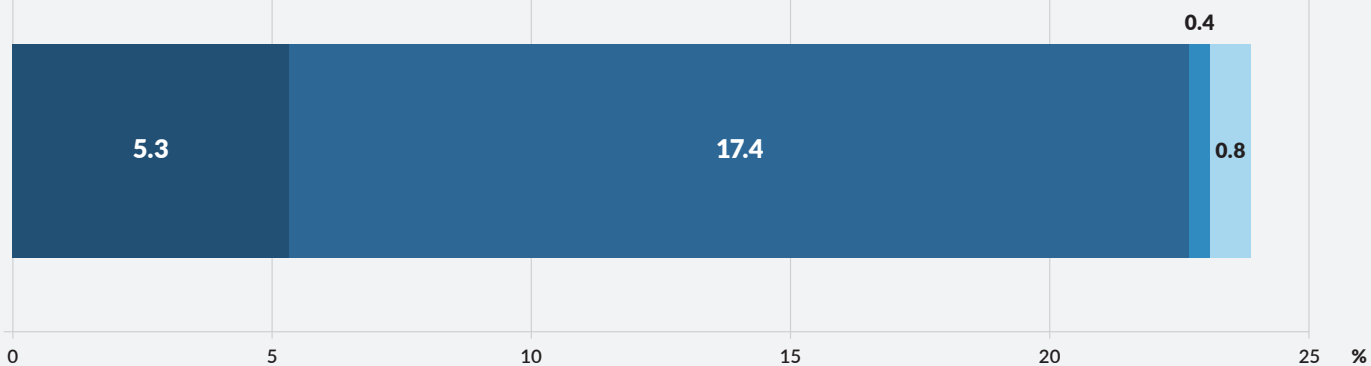
■ ... ICT専門職

■ ... 科学系技術者もしくは関連する専門職

男



女



出典: OECD, PISA
2015 Database, Tables
I.3.11a-d.

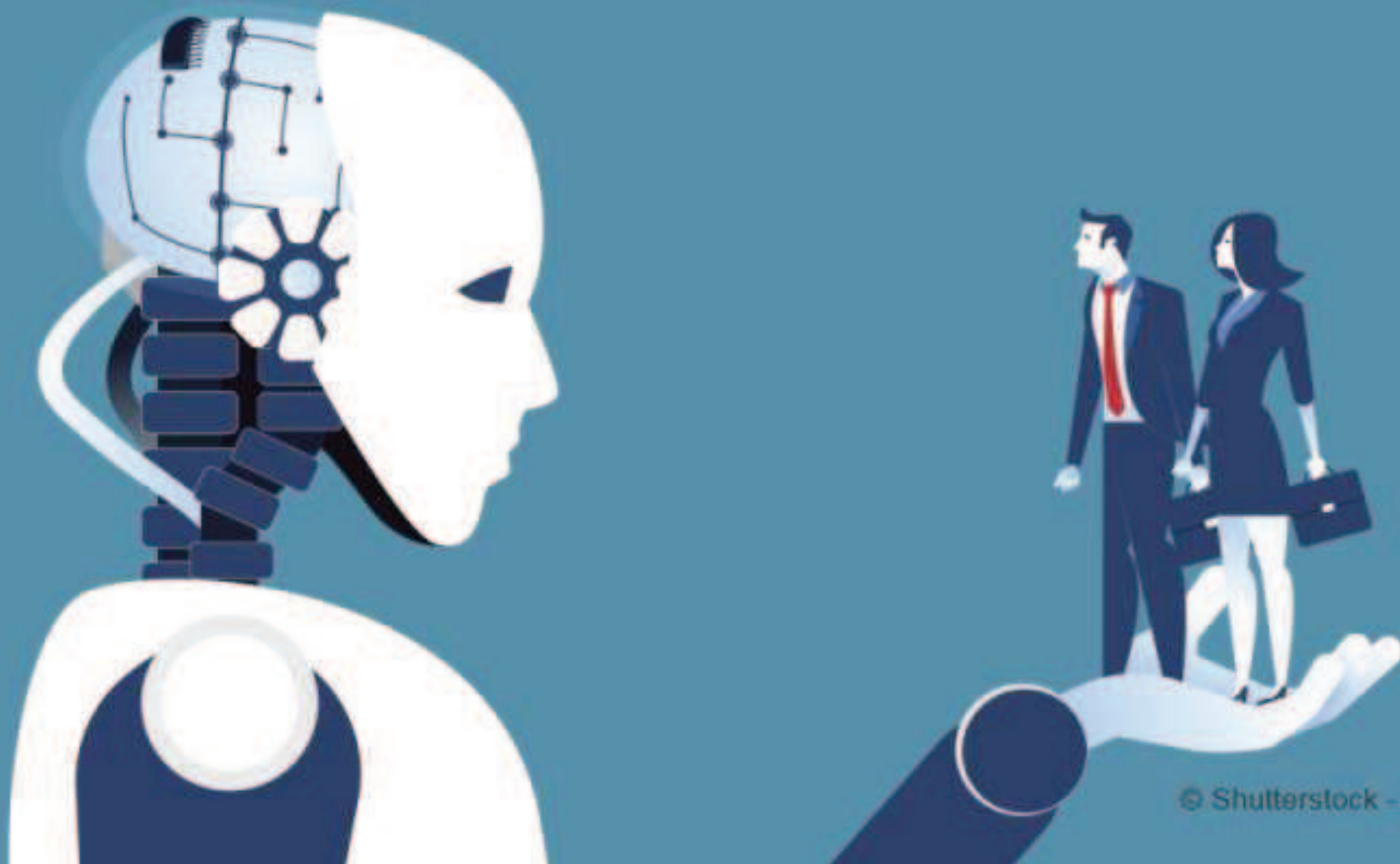
Society 5.0

ソ サ エ テ イ

それは、
いつもの毎日にやってくる、
半歩先の未来。

» 5.0ってなに？





現代ビジネス 「オックスフォード大学が認定 あと10年で『消える職業』『なくなる仕事』」

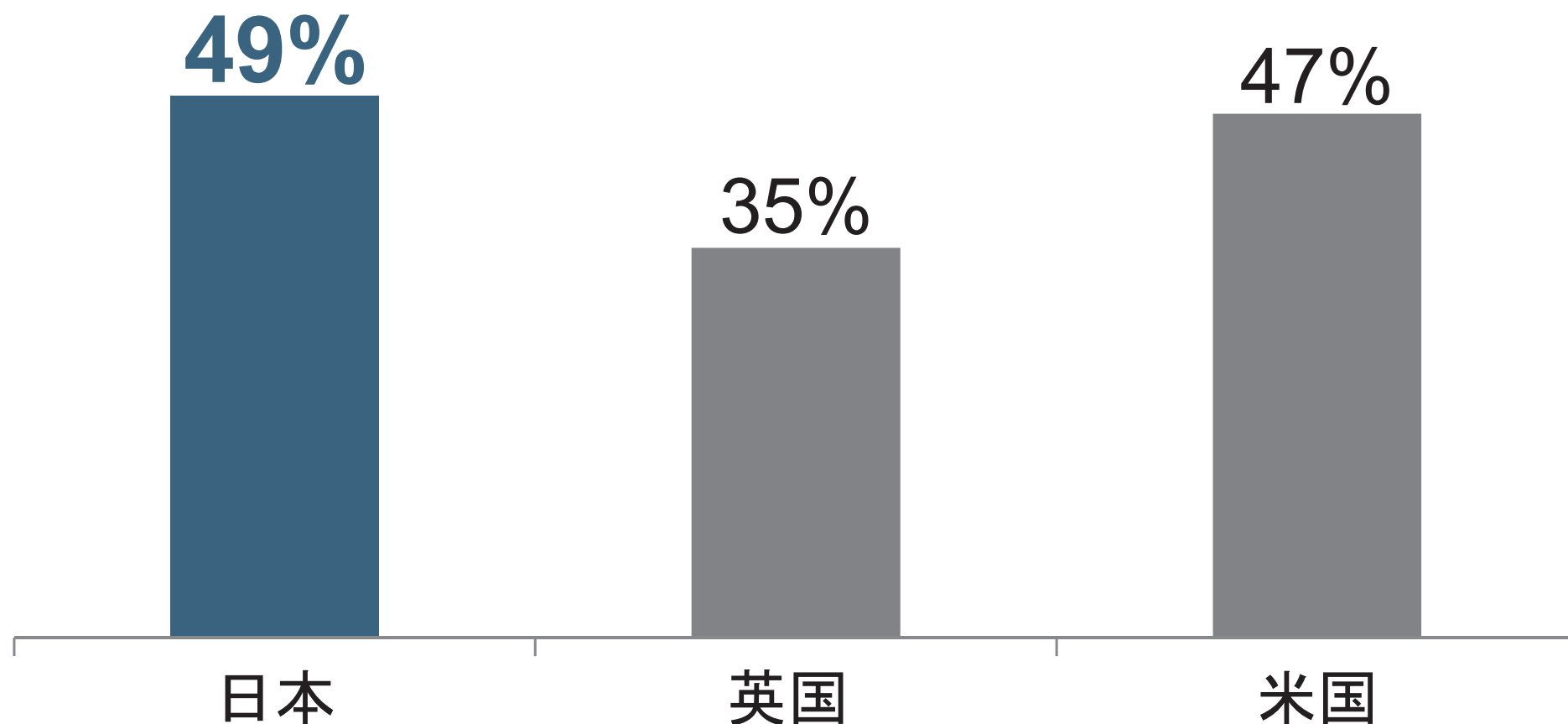
<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/40925>

主な「消える職業」 「なくなる仕事」

銀行の融資担当者	図書館員の補助員
スポーツの審判	データ入力作業員
不動産ブローカー	彫刻師
レストランの案内係	苦情の処理・調査担当者
保険の審査担当者	簿記、会計、監査の事務員
動物のブリーダー	検査、分類、見本採取、 測定を行う作業員
電話オペレーター	映写技師
給与・福利厚生担当者	カメラ、撮影機器の修理工
レジ係	金融機関のクレジットアナリスト
娯楽施設の案内係、チケットもぎり係	メガネ、コンタクトレンズの技術者
カジノのディーラー	殺虫剤の混合、散布の技術者
ネイリスト	義歯制作技術者
クレジットカード申込者の承認・ 調査を行う作業員	測量技術者、地図作製技術者
集金人	造園・用地管理の作業員
バラリーガル、弁護士助手	建設機器のオペレーター
ホテルの受付係	訪問販売員、路上新聞売り、露店商人
電話販売員	塗装工、壁紙張り職人
仕立屋(手縫い)	
時計修理工	
税務申告書代行者	

高い確率（66%以上）
で、AIやロボットに置
き換えられる職業

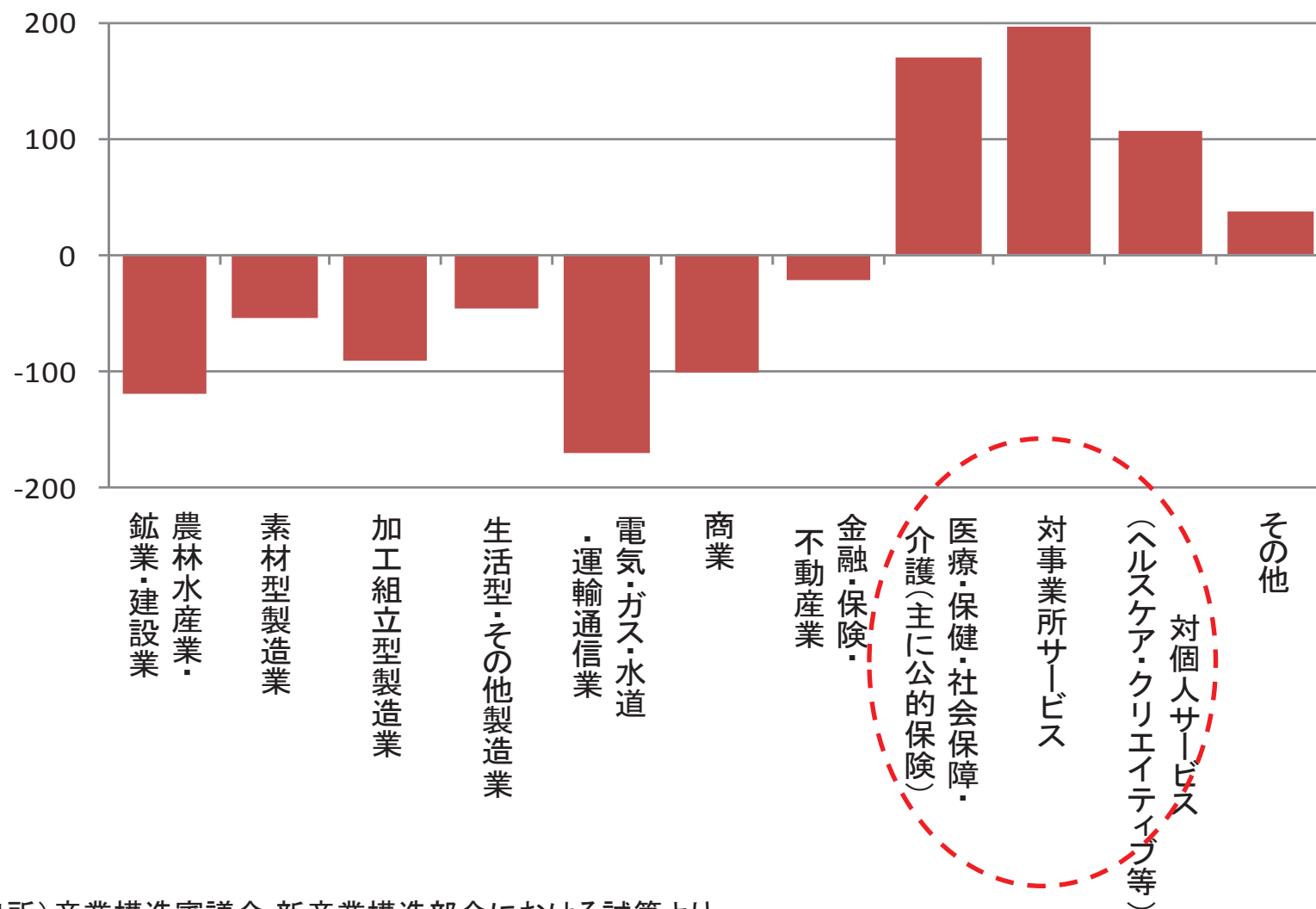
人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合



(株) 野村総合研究所・上田 恵陶奈 『AIと共存する未来：AI時代の人材』 2017年12月5日第3回労働政策審議会労働政策基本部会

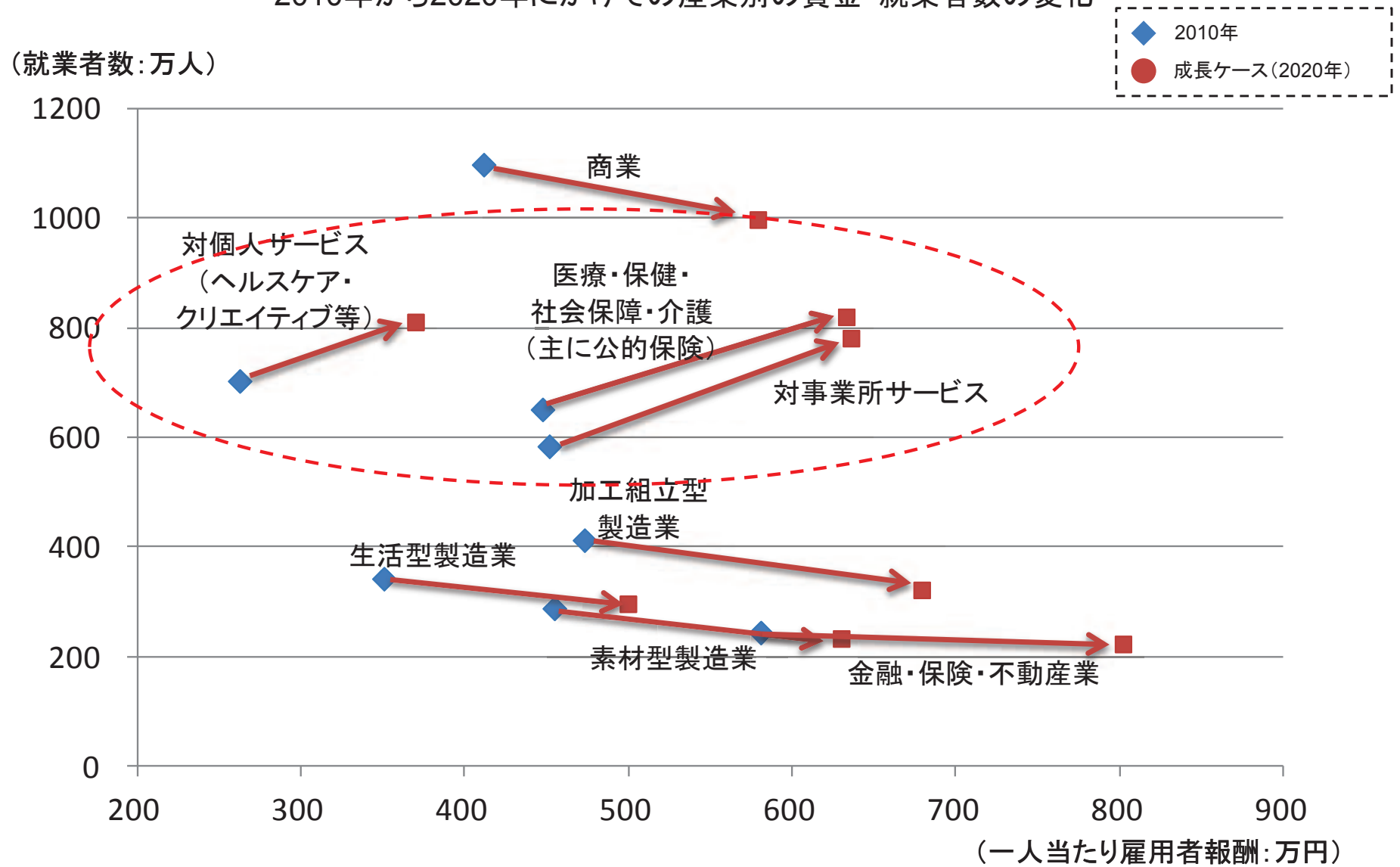
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12602000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Roudouseisakutantou/0000186905.pdf

2010年から2020年にかけての産業別の就業者数の変化
(就業者数の変化:万人)



(出所)産業構造審議会 新産業構造部会における試算より

2010年から2020年にかけての産業別の賃金・就業者数の変化



＜金額集計：単純平均＞

－2019年9月18日現在－

区 分	2019 年 年 末 妥 結					2018年年末	2019年夏季
	社 数	金 額	平均年齢	対 前 年 同 期 比	対前期比	実 績 額	実 績 額
	社	円	歳	%	%	円	円
全 産 業	212	747,808	38.8	△ 0.1	0.3	748,734	745,670
製 造 業	163	776,818	38.7	△ 0.6	0.1	781,457	776,318
水 産 ・ 食 品	10	766,987	38.4	△ 1.7	5.5	780,031	727,167
織 維	4	632,094	38.1	0.2	0.6	630,833	628,283
紙 ・ パ ル プ	7	622,122	40.2	0.2	0.5	620,638	619,307
化 学	28	819,751	38.7	△ 0.6	0.2	824,950	818,041
(医 薬 品)	(2)	(837,788)	(36.5)	(0.2)	(0.0)	(836,478)	(837,787)
ゴ ム	5	782,108		0.0	0.5	782,081	777,892
ガ ラ ス ・ 土 石	7	857,724	38.6	1.8	△ 4.6	842,237	898,888
鉄 鋼	15	716,857	39.0	△ 4.8	0.0	753,310	716,857
非 鉄 ・ 金 属	8	743,425	39.0	△ 9.3	0.0	819,244	743,425
機 械	18	735,945	36.9	3.3	0.0	712,531	735,945
電 気 機 器	27	784,946	39.4	0.9	0.0	777,868	784,835
輸 送 用 機 器	27	839,998	38.8	△ 0.2	0.2	841,367	838,278
(造 船)	(2)	(733,380)	(35.6)	(13.7)	(0.0)	(645,179)	(733,380)
(自 動 車)	(10)	(941,071)	(39.5)	(0.1)	(△ 0.6)	(939,952)	(946,342)
精 密 機 器	3	729,158	38.6	△ 0.8	△ 2.8	735,060	750,158
そ の 他 製 造	4	798,102	39.6	△ 0.3	△ 3.6	800,264	827,827
非 製 造 業	49	651,305	39.0	1.8	1.2	639,879	643,718
建 設	6	771,379	35.4	2.4	△ 3.1	753,066	796,049
商 業	19	553,432	39.3	1.0	4.9	547,974	527,549
陸 運	2	757,212	39.4	0.9	0.3	750,120	754,712
情 報 ・ 通 信	6	814,000		2.2	0.0	796,750	814,000
電 力	9	733,889	39.4	2.8	0.3	713,889	731,333
サ ー ビ ス	7	538,149	40.1	1.3	0.0	531,201	538,149

〔注〕 ()内の業種は、その業種における内数(〔図表4〕も同じ)。△はマイナスを表す(〔図表2～4〕も同じ)。
調査・集計要領、その他注記事項は、2～3ページ参照。

2019年年末賞与・一時金の妥結水準集計 (東証第1部上場企業212社)

一般財団法人 労務行政研究所

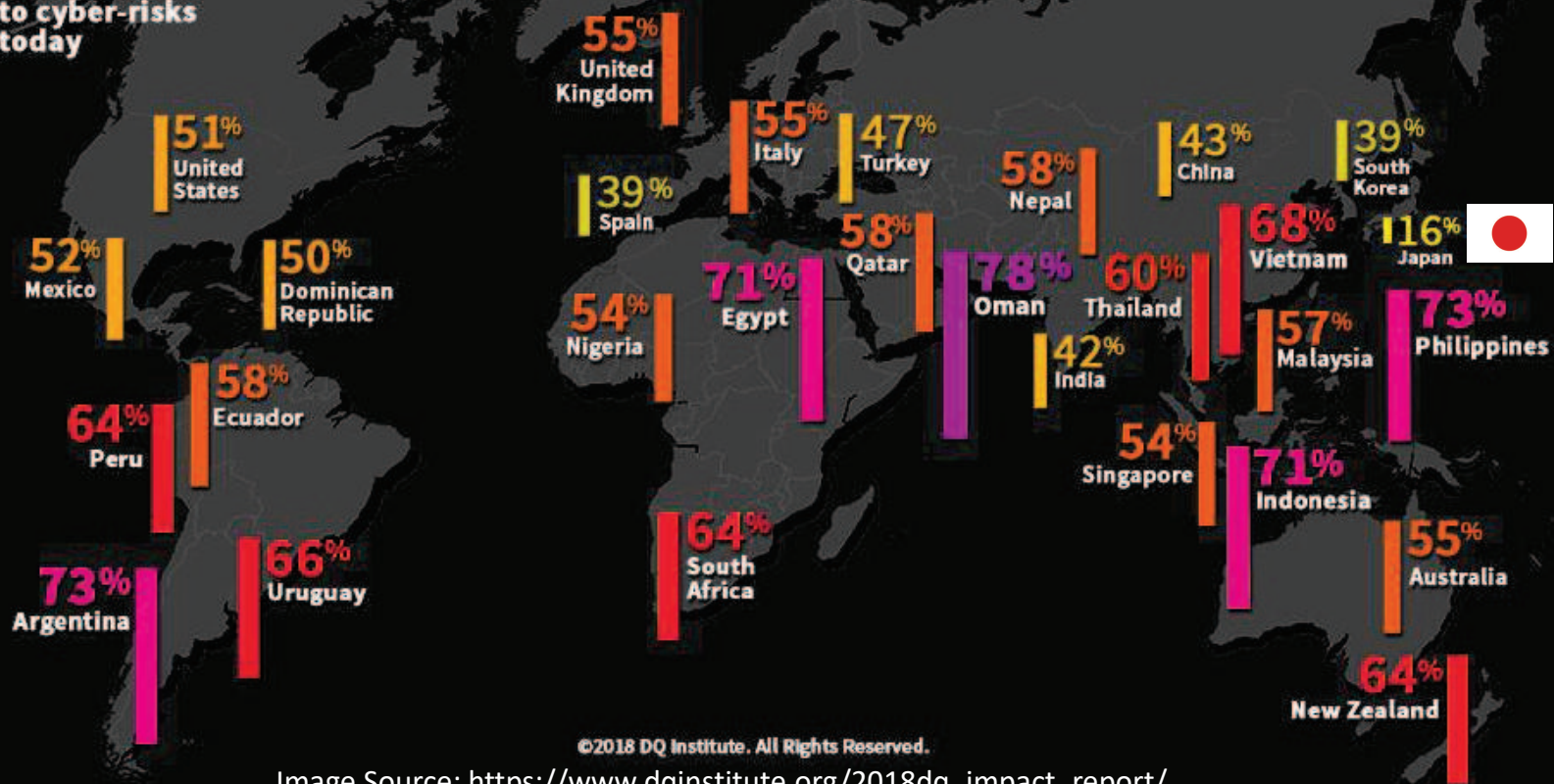
<https://www.rosei.or.jp/research/pdf/000076828.pdf>

△ボーナス減少(マイナス)

インターネットを通して
危険にさらされている
8歳から12歳の子どもの割合

56%

of 8-12 year
olds online
are exposed
to cyber-risks
today

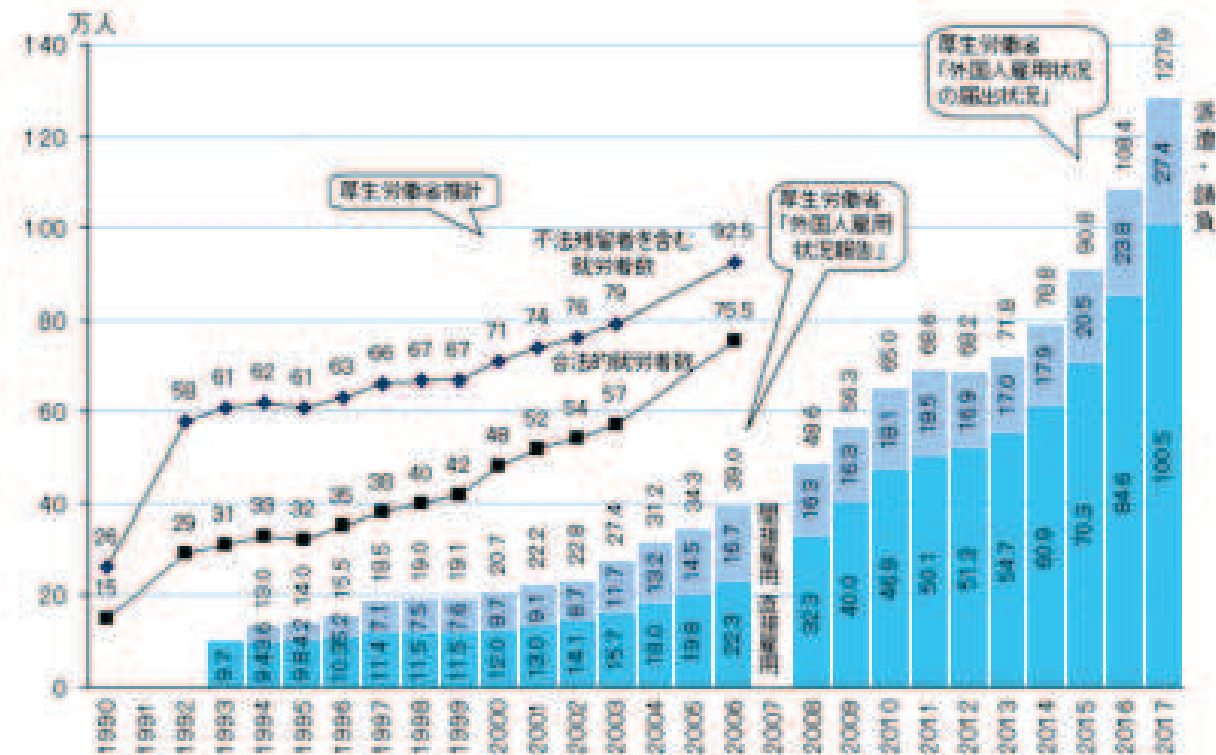


©2018 DQ Institute. All Rights Reserved.

Image Source: https://www.dqinstitute.org/2018dq_impact_report/



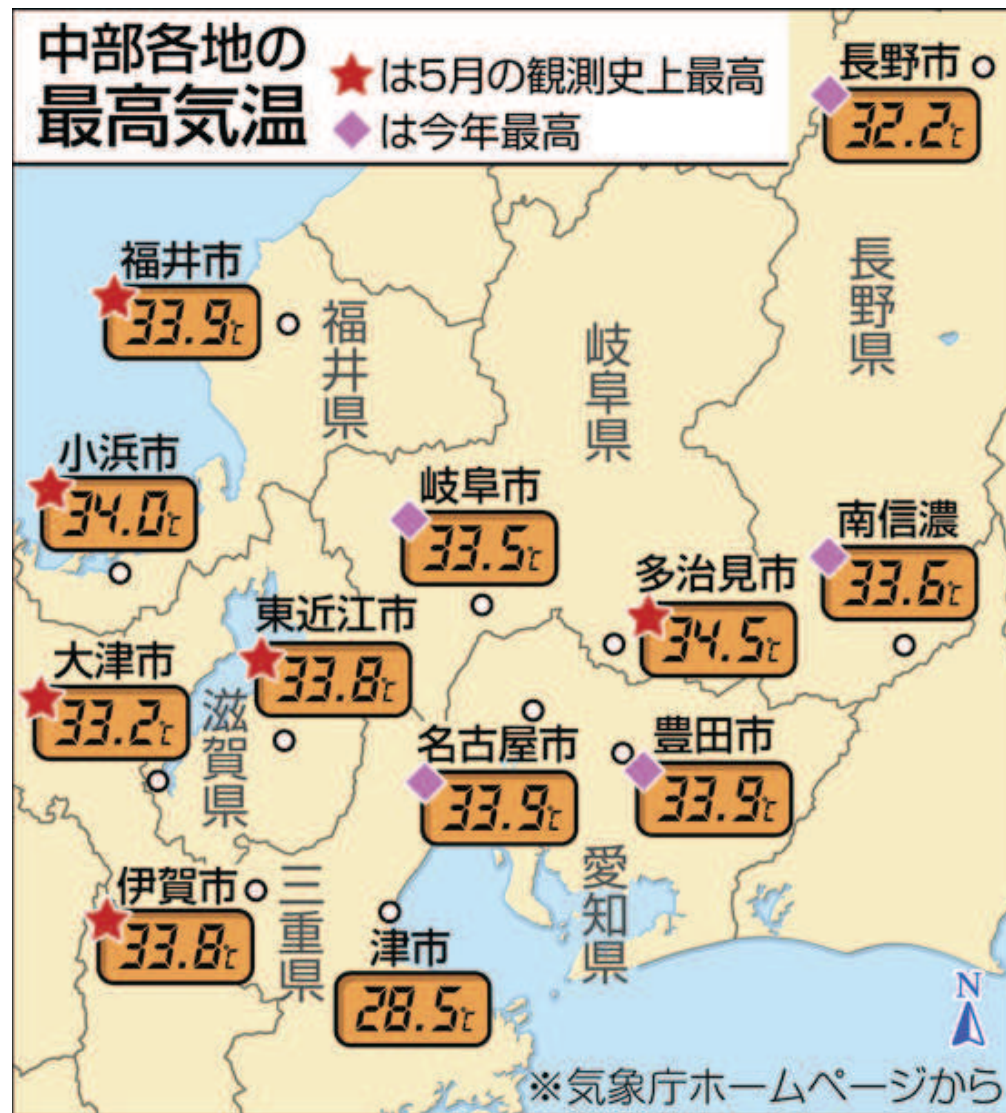
外国人労働者数の推移



- (注) 厚生労働省研究会推計の外国人労働者は、「外交」、「公用」、「研修」及び「永住者」(特別永住者を含む。)以外が対象。外国人雇用状況報告も同様。外国人雇用状況の届出状況では特別永住者、外交、公用以外。
- ・厚生労働省推計: 不法残留者以外の不法就労も相当あるがこの推計結果には含まれていない。
 - ・外国人雇用状況報告: 従業員50人以上規模の事業所については全事業所、また、従業員49人以下規模の事業所については一部の事業所(各地域の実情や行政上の必要性に応じて選定)を対象に、公共職業安定所が報告を求めているもの。間接雇用とは労働者派遣、請負等により事業所内で就労している者。
 - ・外国人雇用状況の届出状況: 全ての事業主に届け出義務
- (資料) 2003年までの厚生労働省推計は厚生労働省「外国人労働者の雇用管理のあり方に関する研究会」資料(2004.1.16)他(原則、年末現在)。2008年は厚生労働省職業安定局「6月の外国人労働者問題啓発月間の実施について」(2008.5.30)、棒グラフは厚生労働省「外国人雇用状況報告」(各年6月1日現在)、及び「外国人雇用状況の届出状況について」(10月末現在)



<https://www.sankei.com/column/news/180728/clm1807280005-n1.html>



<https://www.chunichi.co.jp/article/front/list/CK2019052602000061.html>



<https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/gallery/281331?ph=1>

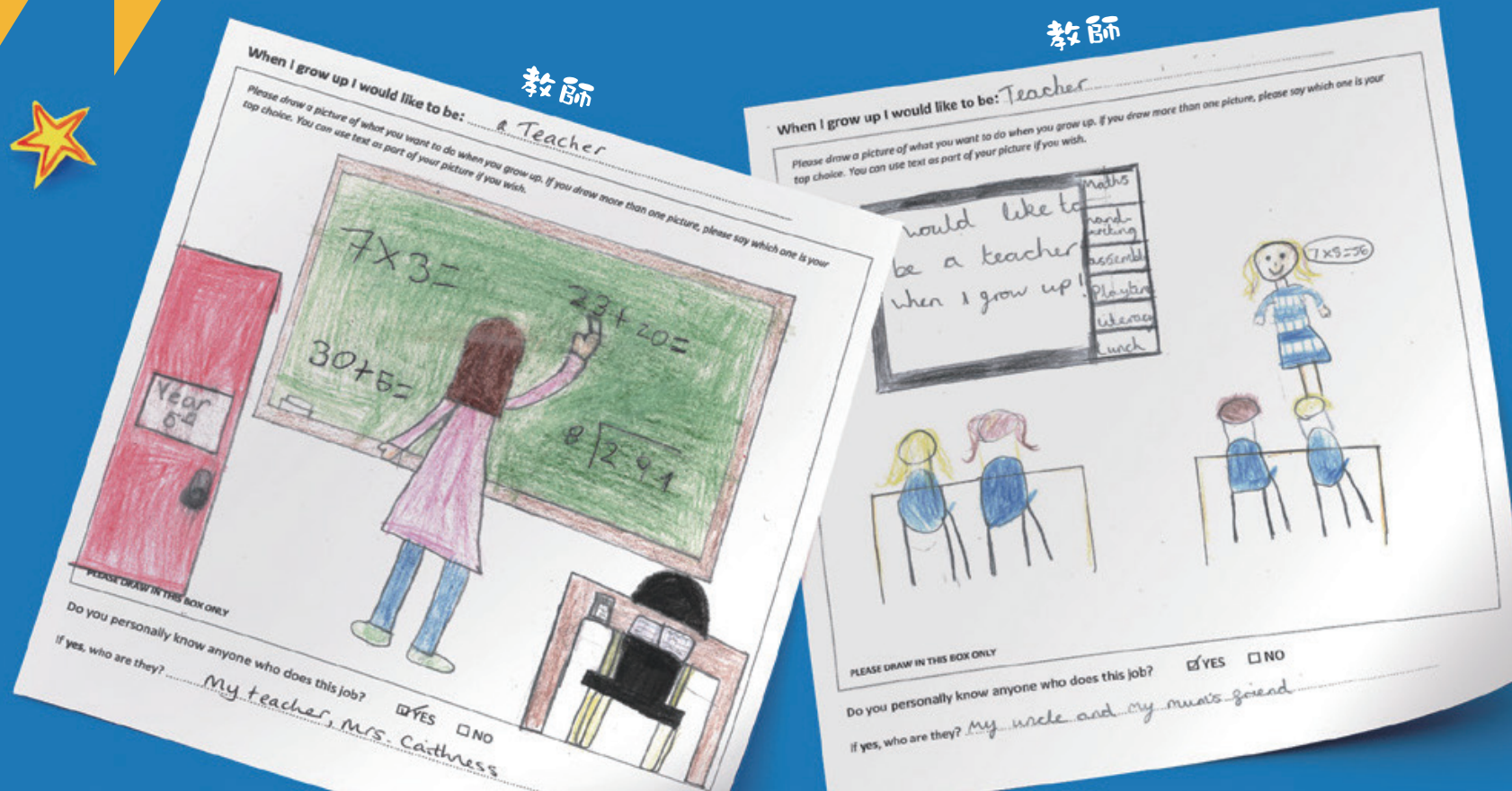


<https://www.sankei.com/affairs/news/191014/afr1910140003-n1.html>

核の拡散
資源の枯渇
世界的な感染症の流行（パンデミック）
経済の不安定
貧困・超貧困（ボトムビリオン）
テロリズム
移民・難民
不正取引
虐待・ネグレクト
密売
麻薬
・
・
・

生涯を通じた学び

仕事をするために学び、仕事を通じて学ぶ



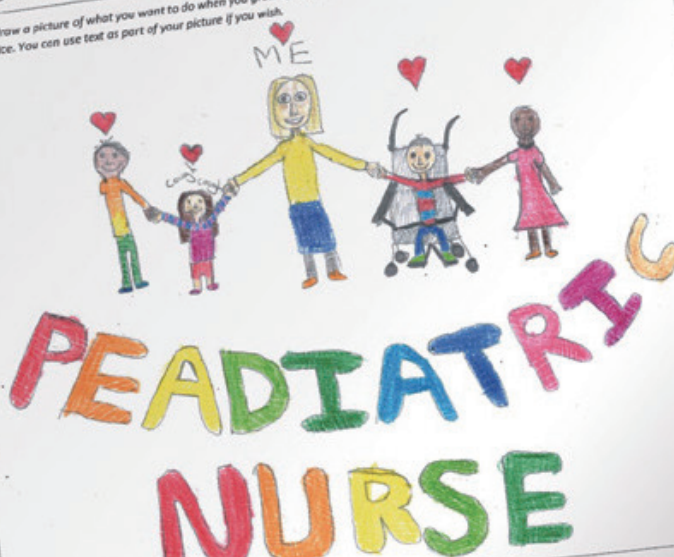
OECD 2019 公益財団法人日本国際教育支援協会 訳『トレンド、データや子供たちの絵からみる未来の教育と職業』
<http://www.oecd.org/education/Envisioning-the-Future-of-Education-and-Jobs-Japanese.pdf>

新しい可能性を創造するための協働と協力

小児科の医療従事者

When I grow up I would like to be: Paediatric nurse

Please draw a picture of what you want to do when you grow up. If you draw more than one picture, please say which one is your top choice. You can use text as part of your picture if you wish.



PEADIATRIC
NURSE

PLEASE DRAW IN THIS BOX ONLY

Do you personally know anyone who does this job? ☐ YES ☒ NO

If yes, who are they?

If no, how do you know about this job? I care for children who are ill / special needs

OECD 2019 公益財団法人日本国際教育支援協会 訳『トレンド、データや子供たちの絵からみる未来の教育と職業』
<http://www.oecd.org/education/Envisioning-the-Future-of-Education-and-Jobs-Japanese.pdf>

AIやロボットによる自動化が難しい職業には、3つの特徴

創造的思考

- 抽象的な概念を整理・創出することが求められるか（例：芸術、歴史学・考古学、哲学・神学など）
- コンテキストを理解した上で、自らの目的意識に沿って、方向性や解を提示する能力

人とかかわる力

- 理解・説得・交渉といった高度なコミュニケーションをしたり、サービス志向性のある対応が求められるか
- 自分と異なる他者とコラボレーションできる能力

※ソーシャルインテリジェンス（社会的知性）
＝社会的知性、コミュニケーションや協調性などの能力。

柔軟・即興

- 役割が体系化されておらず、多種多様な状況に対応することが求められるか
- 予め用意されたマニュアル等ではなく、自分自身で何が適切であるか判断できる能力

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

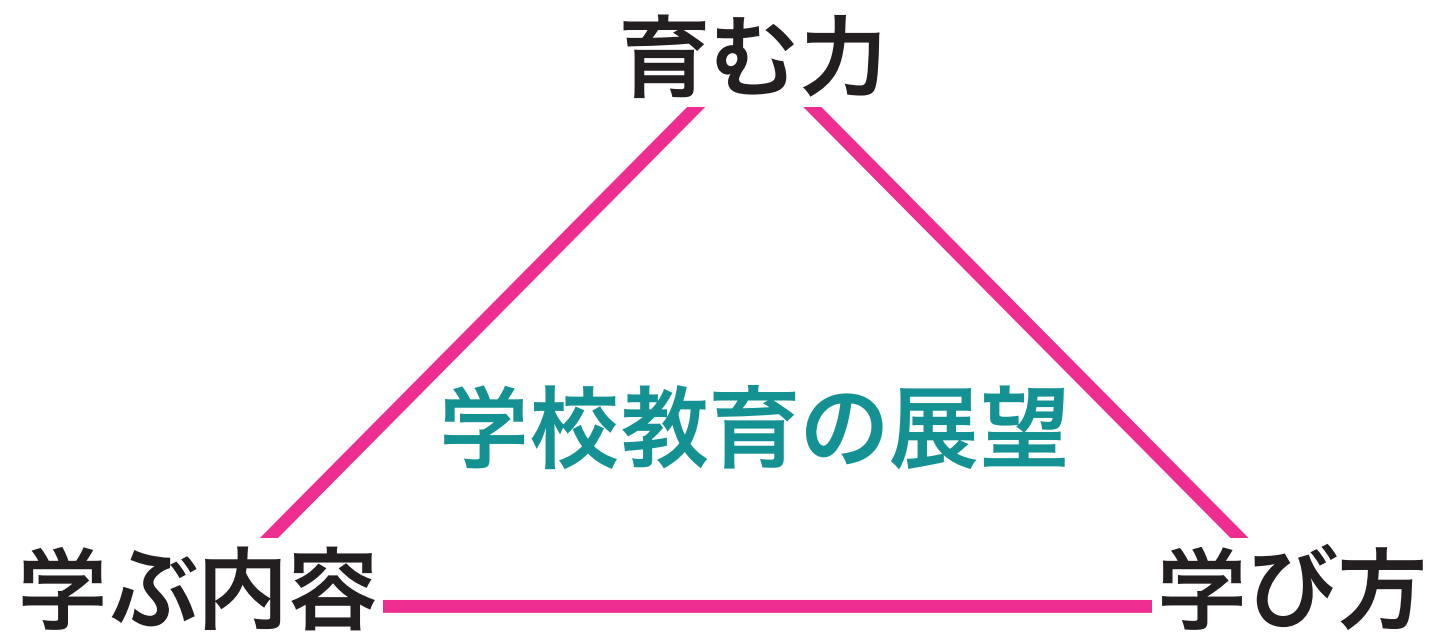
主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。



新しい価値を創造する力

対立やジレンマを調和して克服する力

より良い社会・世界のために責任をもって行動する力



21世紀からの社会



AI・ロボットが
助けてくれる

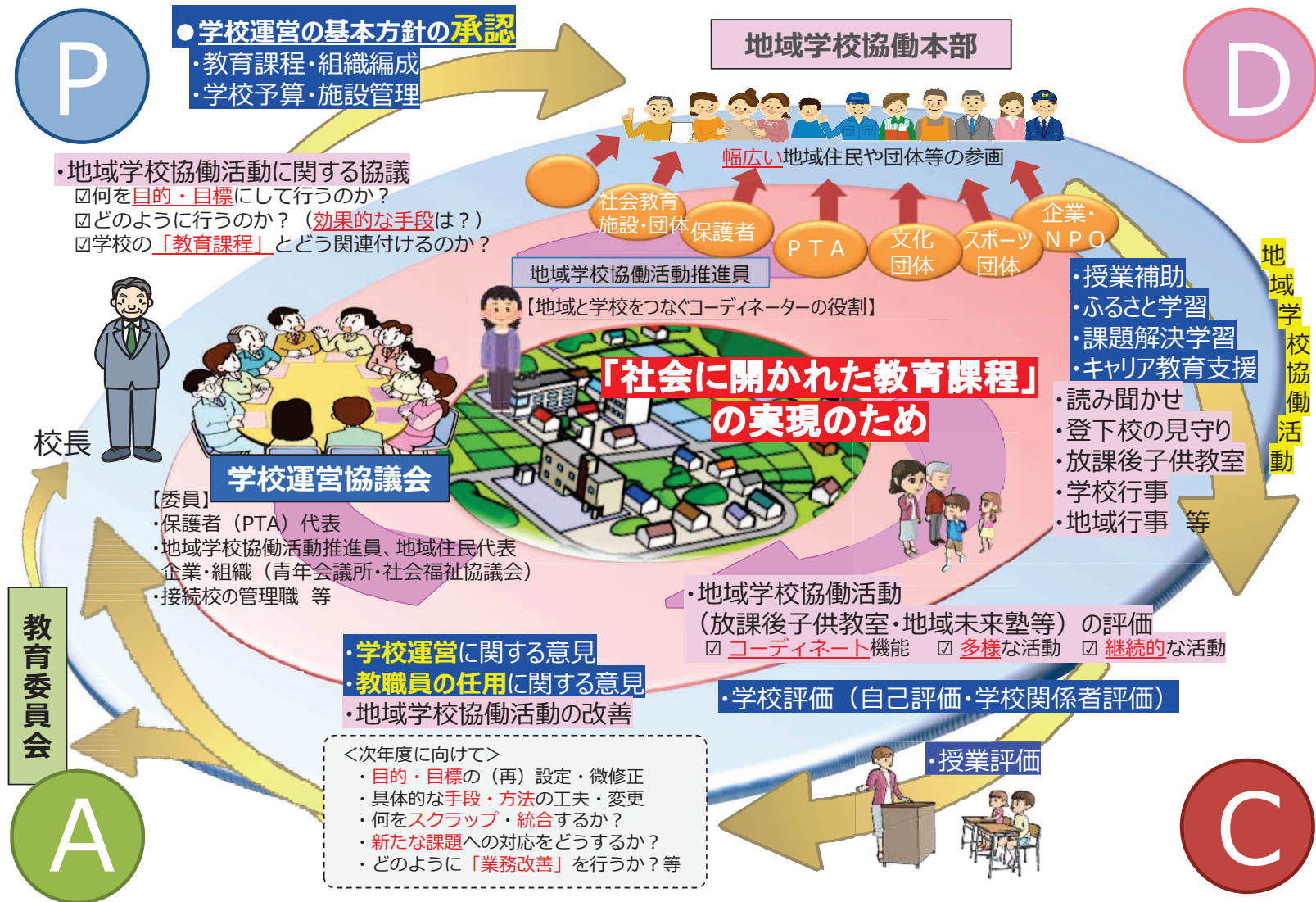
指示されたことを順序よく、効率よく遂行できる力



20世紀までの社会



「社会に開かれた教育課程」の実現のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



一つの地域
一つの学校のモデル
↓
新しいモデルが必要

授業を変える ——— 学校を変える

日常の授業の改革

学び合うコミュニティ

地域課題発見・解決

地域学校ネットワーク

地域でつなぐ

社会・世界へつなぐ



2019年12月25日 永平寺町学校のあり方検討委員会

これからの社会と教育のあり方について

福井大学連合教職大学院 准教授 木村優

町村合併後の人口および児童生徒数の推移(毎年4/1付)

	2,006	2,007	2,008	2,009	2,010	2,011	2,012	2,013	2,014	2,015	2,016	2,017	2,018	2,019	2,020	2,021
＼年度	H18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	2年	3年
松岡小学校	425	427	421	417	421	405	404	391	401	395	392	404	394	389	380	381
吉野小学校	61	60	82	73	75	73	78	78	77	79	74	81	75	73	67	63
御陵小学校	148	158	157	150	152	149	149	144	140	129	133	124	112	109	106	110
松岡地区児童	634	645	660	640	648	627	631	613	618	603	599	609	581	571	553	554
対 H18比		1.02	1.04	1.01	1.02	0.99	1.00	0.97	0.97	0.95	0.94	0.96	0.92	0.90	0.87	0.87
松岡地区人口	10,496	10,511	10,438	10,348	10,320	10,320	10,275	10,228	10,217	10,208	10,175	10,112	10,042	10,038	10,042	10,033
対 H18比		1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.98	0.97	0.97	0.97	0.97	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96
志比小学校	204	192	190	179	185	186	177	163	162	174	155	143	146	143	134	118
志比南小学校	119	121	121	126	115	118	120	120	106	102	127	109	84	82	87	75
志比北小学校	56	55	48	50	46	44	40	40	36	36	31	36	34	34	36	34
永平寺地区児童	379	368	359	355	346	348	337	323	304	312	313	288	264	259	257	227
対 H18比		0.97	0.95	0.94	0.91	0.92	0.89	0.85	0.80	0.82	0.83	0.76	0.70	0.68	0.68	0.60
永平寺地区人口	6,343	6,292	6,304	6,277	6,217	6,189	6,140	6,073	6,011	5,911	5,779	5,673	5,575	5,517	5,415	5,342
対H18(合併時)比		0.99	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.93	0.91	0.89	0.88	0.87	0.85	0.84
上志比小学校児童	191	189	169	160	156	141	144	144	134	127	133	135	135	127	130	124
対H18(合併時)比		0.99	0.88	0.84	0.82	0.74	0.75	0.75	0.70	0.66	0.70	0.71	0.71	0.66	0.68	0.65
上志比地区人口	3,538	3,512	3,486	3,466	3,423	3,375	3,338	3,262	3,211	3,172	3,126	3,096	3,043	2,987	2,912	2,866
対H18(合併時)比		0.99	0.99	0.98	0.97	0.95	0.94	0.92	0.91	0.90	0.88	0.88	0.86	0.84	0.82	0.81
町児童	1,204	1,202	1,188	1,155	1,150	1,116	1,112	1,080	1,056	1,042	1,045	1,032	980	957	940	905
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.96	0.96	0.93	0.92	0.90	0.88	0.87	0.87	0.86	0.81	0.79	0.78	0.75
町人口	20,377	20,315	20,228	20,091	19,960	19,884	19,753	19,563	19,439	19,291	19,080	18,881	18,660	18,542	18,369	18,241
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.95	0.94	0.93	0.92	0.91	0.90	0.90

＼年度	H18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	2年	3年
松岡中学校生徒	295	295	320	315	297	306	306	326	316	322	314	303	309	299	311	297
対H18(合併時)比		1.00	1.08	1.07	1.01	1.04	1.04	1.11	1.07	1.09	1.06	1.03	1.05	1.01	1.05	1.01
松岡地区人口	10,496	10,511	10,438	10,348	10,320	10,320	10,275	10,228	10,217	10,208	10,175	10,112	10,042	10,038	10,042	10,033
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.98	0.97	0.97	0.97	0.97	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96
永平寺中学校生徒	204	205	199	180	182	183	190	187	176	169	168	165	162	145	129	134
対H18(合併時)比		1.00	0.98	0.88	0.89	0.90	0.93	0.92	0.86	0.83	0.82	0.81	0.79	0.71	0.63	0.66
永平寺地区人口	6,343	6,292	6,304	6,277	6,217	6,189	6,140	6,073	6,011	5,911	5,779	5,673	5,575	5,517	5,415	5,342
対H18(合併時)比		0.99	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.93	0.91	0.89	0.88	0.87	0.85	0.84
上志比中学校生徒	130	130	129	111	98	89	76	84	77	82	71	67	58	60	57	57
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.85	0.75	0.68	0.58	0.65	0.59	0.63	0.55	0.52	0.45	0.46	0.44	0.44
上志比地区人口	3,538	3,512	3,486	3,466	3,423	3,375	3,338	3,262	3,211	3,172	3,126	3,096	3,043	2,987	2,912	2,866
対H18(合併時)比		0.99	0.99	0.98	0.97	0.95	0.94	0.92	0.91	0.90	0.88	0.88	0.86	0.84	0.82	0.81
町生徒	629	630	648	606	577	578	572	597	569	573	553	535	529	504	497	488
対H18(合併時)比		1.00	1.03	0.96	0.92	0.92	0.91	0.95	0.90	0.91	0.88	0.85	0.84	0.80	0.79	0.78
町人口	20,377	20,315	20,228	20,091	19,960	19,884	19,753	19,563	19,439	19,291	19,080	18,881	18,660	18,542	18,369	18,241
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.95	0.94	0.93	0.92	0.91	0.90	0.90

＼年度	H18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	2年	3年
町児童生徒	1,833	1,832	1,836	1,761	1,727	1,694	1,684	1,677	1,625	1,615	1,598	1,567	1,509	1,461	1,437	1,393
対H18(合併時)比		1.00	1.00	0.96	0.94	0.92	0.92	0.91	0.89	0.88	0.87	0.85	0.82	0.80	0.78	0.76
町人口	20,377	20,315	20,228	20,091	19,960	19,884	19,753	19,563	19,439	19,291	19,080	18,881	18,660	18,542	18,369	18,241
対H18(合併時)比		1.00	0.99	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.95	0.94	0.93	0.92	0.91	0.90	0.90

小学校児童数の推計

松岡小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	21	29	50	34	26	60	32	30	62	26	34	60	28	32	60	33	37	70	31	41	72	31	33	64	31	33	64	31	33	64	31	33	64	30	33	63	30	32	62	30	32	62	30	32	62
2年	23	39	62	21	30	51	34	27	61	32	31	63	26	35	61	28	33	61	33	38	71	31	42	73	31	34	65	31	34	65	31	34	65	31	34	65	30	34	64	30	33	63	30	33	63
3年	29	36	65	23	39	62	21	30	51	34	27	61	32	31	63	26	35	61	28	33	61	33	38	71	31	42	73	31	34	65	31	34	65	31	34	65	31	34	65	30	34	64	30	33	63
4年	34	28	62	29	37	66	23	40	63	21	30	51	34	27	61	32	31	63	26	36	62	28	33	61	33	39	72	31	43	74	31	34	65	31	34	65	31	34	65	31	34	65	30	34	64
5年	32	26	58	34	28	62	29	37	66	23	40	63	21	30	51	34	27	61	32	31	63	26	36	62	28	33	61	33	39	72	31	43	74	31	34	65	31	34	65	31	34	65	31	34	65
6年	39	33	72	32	26	58	34	28	62	29	37	66	23	41	64	21	30	51	34	27	61	32	31	63	26	36	62	28	33	61	33	40	73	31	44	75	31	34	65	31	34	65	31	34	65
計	178	191	369	173	186	359	173	192	365	165	199	364	164	196	360	174	193	367	184	206	390	181	213	394	180	217	397	185	216	401	188	218	406	185	213	398	184	202	386	183	201	384	182	200	382

吉野小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9
2年	5	5	10	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9
3年	9	12	21	5	5	10	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9
4年	6	7	13	9	12	21	5	5	10	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9	5	4	9	5	4	9
5年	10	11	21	6	7	13	9	12	21	5	5	10	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9	5	4	9
6年	5	9	14	10	11	21	6	7	13	9	12	21	5	5	10	9	6	15	5	3	8	5	6	11	5	2	7	7	5	12	5	2	7	2	4	6	6	4	10	5	4	9	5	4	9
計	44	50	94	44	44	88	39	39	78	38	34	72	36	27	63	36	24	60	29	22	51	30	23	53	30	21	51	30	23	53	28	22	50	28	24	52	31	24	55	30	24	54	30	24	54

御陵小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	6	14	8	6	14	8	6	14	8	6	14
2年	10	7	17	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	6	14	8	6	14	8	6	14	8	6	14
3年	10	9	19	10	7	17	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	6	14	8	6	14	8	6	14
4年	10	12	22	10	9	19	10	7	17	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	6	14
5年	2	11	13	10	12	22	10	9	19	10	7	17	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15	8	7	15
6年	12	10	22	2	11	13	10	12	22	10	9	19	10	7	17	11	8	19	9	10	19	7	11	18	8	5	13	9	7	16	10	5	15	8	5	13	8	7	15	8	7	15	8	7	15
計	55	57	112	52	57	109	57	57	114	55	50	105	54	48	102	54	46	100	51	43	94	50	40	90	51	36	87	51	38	89	50	38	88	48	39	87	48	40	88	48	39	87	48	38	86

志比小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	5	9	4	5	9	4	5	9
2年	13	16	29	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	5	9
3年	11	12	23	13	15	28	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	6	10
4年	14	6	20	11	12	23	13	15	28	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10	4	6	10	4	6	10
5年	17	17	34	14	6	20	11	12	23	13	15	28	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10	4	6	10
6年	10	14	24	17	17	34	14	6	20	11	12	23	13	15	28	8	8	16	5	12	17	12	7	19	4	3	7	9	7	16	2	7	9	7	9	16	5	7	12	5	7	12	4	6	10
計	73	73	146	68	70	138	63	60	123	53	57	110	51	52	103	40	44	84	39	45	84	39	40	79	32	40	72	32	43	75	27	42	69	29	41	70	26	38	64	25	36	61	24	34	58

志比南小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	10	5	15	8	7	15	4	5	9	7	3	10	3	5	8	6	4	10	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5
2年	10	4	14	10	5	15	8	7	15	4	5	9	7	3	10	3	5	8	6	4	10	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5
3年	8	7	15	11	4	15	11	5	16	9	7	16	4	5	9	8	3	11	3	5	8	7	4	11	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5
4年	5	5	10	8	7	15	11	4	15	11	5	16	9	7	16	4	5	9	8	3	11	3	5	8	7	4	11	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5
5年	12	9	21	5	5	10	8	8	16	11	4	15	11	5	16	9	8	17	4	5	9	8	3	11	3	5	8	7	4	11	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5	3	2	5
6年	7	5	12	12	9	21	5	5	10	8	8	16	11	4	15	11	5	16	9	8	17	4	5	9	8	3	11	3	5	8	7	4	11	1	0	1	4	2	6	3	2	5	3	2	5
計	52	35	87	54	37	91	47	34	81	50	32	82	45	29	74	41	30	71	31	25	56	27	19	46	26	16	42	21	15	36	21	12	33	17	10	27	19	12	31	18	12	30	18	12	30

志比北小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	2	6	3	3	6	2	2	4	1	0	1	4	1	5	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2
2年	3	0	3	5	2	7	4	3	7	2	2	4	1	0	1	5	1	6	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2
3年	4	3	7	3	0	3	5	2	7	4	3	7	2	2	4	1	0	1	5	1	6	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2
4年	3	3	6	5	3	8	4	0	4	6	2	8	5	3	8	2	2	4	1	0	1	6	1	7	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2
5年	3	5	8	3	3	6	5	3	8	4	0	4	6	2	8	5	3	8	2	2	4	1	0	1	6	1	7	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2
6年	2	1	3	3	5	8	3	3	6	5	3	8	4	0	4	6	2	8	5	3	8	2	2	4	1	0	1	6	1	7	0	1	1	2	1	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2
計	19	14	33	22	16	38	23	13	36	22	10	32	22	8	30	19	9	28	15	8	23	12	6	18	11	5	16	11	6	17	6	6	12	7	6	13	6	6	12	6	6	12	6	6	12

上志比小学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	14	18	5	14	19	12	8	20	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	7	7	14	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	6	12	5	6	11
2年	14	12	26	4	14	18	5	14	19	12	8	20	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	7	7	14	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	6	12
3年	11	7	18	14	12	26	4	14	18	5	14	19	12	8	20	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	7	13
4年	15	10	25	10	7	17	13	12	25	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	6	7	13	6	7	13	6	7	13	6	7	13
5年	12	9	21	15	10	25	10	7	17	13	12	25	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	6	7	13	6	7	13	6	7	13
6年	9	5	14	12	9	21	15	10	25	10	7	17	13	12	25	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	6	7	13	6	7	13
計	65	57	122	60	66	126	59	65	124	47	62	109	46	62	108	39	60	99	37	57	94	39	50	89	35	49	84	38	49	87	35	49	84	34	46	80	38	42	80	37	41	78	35	40	75

小学校合計

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	67	72	139	69	75	144	74	69	143	54	54	108	69	64	133	63	66	129	53	71	124	62	61	123	60	61	121	58	60	118	58	60	118	57	59	116	57	58	115	57	56	113	56	56	112
2年	78	83	161	68	73	141	70	76	146	74	70	144	54	55	109	70	65	135	63	67	130	53	72	125	62	62	124	60	62	122	58	61	119	58	61	119	57	60	117	57	59	116	57	57	114
3年	82	86	168	79	82	161	69	73	142	71	76	147	74	70	144	55	55	110	70	65	135	64	67	131	53	72	125	62	62	124	60	62	122	58	61	119	58	61	119	57	60	117	57	59	116
4年	87	71	158	82	87	169	79	83	162	70	73	143	72	76	148	73	70	143	55	56	111	71	65	136	64	68	132	53	73	126	62	62	124	60	62	122	58	61	119	58	61	119	57	60	117
5年	88	88	176	87	71	158	82	88	170	79	83	162	70	73	143	72	77	149	73	70	143	55	56	111	71	65	136	64	68	132	53	73	126	62	62	124	60	62	122	58	61	119	58	61	119
6年	84	77	161	88	88	176	87	71	158	82	88	170	79	84	163	70	73	143	72	77	149	73	70	143	55	56	111	71	65	136	64	69	133	53	74	127	62	62	124	60	62	122	58	61	119
計	486	477	963	473	476	949	461	460	921	430	444	874	418	422	840	403	406	809	386	406	792	378	391	769	365	384	749	368	390	758	355	387	742	348	379	727	352	364	716	347	359	706	343	354	697

中学校生徒数の推計

松岡中学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	44	51	95	57	53	110	45	49	94	51	47	98	49	58	107	38	52	90	41	44	85	49	40	89	45	48	93	40	42	82	45	45	90	49	46	95	42	52	94	46	45	91	45	45	90
2年	51	59	110	45	50	95	58	52	110	46	48	94	52	46	98	50	58	108	38	52	90	41	44	85	50	39	89	46	47	93	41	42	83	46	45	91	50	46	96	43	52	95	47	45	92
3年	54	45	99	51	59	110	45	50	95	58	52	110	46	48	94	52	46	98	50	58	108	38	52	90	41	44	85	50	39	89	46	47	93	41	42	83	46	45	91	50	46	96	43	52	95
計	149	155	304	153	162	315	148	151	299	155	147	302	147	152	299	140	156	296	129	154	283	128	136	264	136	131	267	136	128	264	132	134	266	136	133	269	138	143	281	139	143	282	135	142	277

永平寺中学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	27	17	44	19	20	39	32	33	65	22	14	36	24	23	47	28	19	47	25	15	40	19	23	42	18	14	32	13	6	19	18	13	31	9	12	21	10	10	20	10	10	20	9	10	19
2年	28	23	51	27	17	44	19	20	39	32	33	65	22	14	36	24	23	47	28	19	47	25	15	40	19	23	42	18	14	32	13	6	19	18	13	31	9	12	21	10	10	20	10	10	20
3年	34	26	60	28	23	51	27	17	44	19	20	39	32	33	65	22	14	36	24	23	47	28	19	47	25	15	40	19	23	42	18	14	32	13	6	19	18	13	31	9	12	21	10	10	20
計	89	66	155	74	60	134	78	70	148	73	67	140	78	70	148	74	56	130	77	57	134	72	57	129	62	52	114	50	43	93	49	33	82	40	31	71	37	35	72	29	32	61	29	30	59

上志比中学校

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	13	15	28	9	5	14	12	9	21	15	10	25	10	7	17	13	12	25	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14	7	7	14
2年	6	14	20	14	15	29	9	5	14	12	9	21	16	10	26	10	7	17	14	12	26	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13	7	7	14
3年	8	12	20	6	14	20	14	15	29	9	5	14	12	9	21	16	10	26	10	7	17	14	12	26	4	14	18	5	14	19	11	8	19	3	7	10	9	7	16	7	10	17	2	11	13
計	27	41	68	29	34	63	35	29	64	36	24	60	38	26	64	39	29	68	28	33	61	23	40	63	20	36	56	19	29	48	23	22	45	19	24	43	18	28	46	16	28	44	16	25	41

中学校計

	令和1年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度			令和13年度			令和14年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	84	83	167	85	78	163	89	91	180	88	71	159	83	88	171	79	83	162	70	73	143	73	77	150	74	70	144	56	55	111	72	65	137	65	68	133	54	73	127	63	62	125	61	62	123
2年	85	96	181	86	82	168	86	77	163	90	90	180	90	70	160	84	88	172	80	83	163	70	73	143	74	76	150	75	69	144	57	55	112	73	65	138	66	68	134	55	73	128	64	62	126
3年	96	83	179	85	96	181	86	82	168	86	77	163	90	90	180	90	70	160	84	88	172	80	83	163	70	73	143	74	76	150	75	69	144	57	55	112	73	65	138	66	68	134	55	73	128
計	265	262	527	256	256	512	261	250	511	264	238	502	263	248	511	253	241	494	234	244	478	223	233	456	218	219	437	205	200	405	204	189	393	195	188	383	193	206	399	184	203	387	180	197	377

町内の学校教育の現状

アンケート案をご審議いただく際の参考資料として、各種調査の結果を列挙いたします。

【令和元年度 全国学力・学習状況調査】

1 教科に関する調査結果

※ 全国平均・県平均正答率との比較 $3\% \leq \odot$ 、 $0\% \leq \bigcirc < 3\%$ 、 $-3\% < \triangle < 0\%$ 、 $-3\% \geq \blacktriangle$

小学6年生

	国語	算数
全国比	◎	◎
福井県比	◎	○
福井県の順位	全国2位	全国4位

中学3年生

	国語	数学	英語
全国比	◎	◎	◎
福井県比	◎	◎	◎
福井県の順位	全国2位	全国1位	全国1位

§ 備考：小学校における教科に関する調査では、全ての教科において、全国・県よりも平均正答率が高い結果となりました。国語については、県平均より3%以上高い結果となりました。中学校では全ての教科において、全国・県よりも平均正答率が3%以上高い結果となりました。

2 生活習慣や学習環境に関する調査結果

① 思いやりや感謝の心

小学6年生

	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	人が困っているときは、進んで助けていますか
永平寺町	72.3%	91.6%	50.3%
県	53.9%	86.4%	42.8%
国	45.8%	85.0%	40.4%

中学3年生

	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	人が困っているときは、進んで助けていますか

永平寺町	55. 1%	83. 8%	40. 7%
県	55. 1%	82. 3%	39. 7%
国	45. 4%	78. 3%	34. 6%

§ 備考：友達との関りは、小学校中学校とも、全国・県よりも良好でした。「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、全国・県平均を上回っているものの5割というのは寂しいです。分け隔てなく人と接する心情を「道德教育」を中心に高めていく必要があります。

② 自分を大切にすること

小学6年生

	自分には、よいところがある と思いますか	難しいことでも、失敗を恐れ ないで挑戦していますか	将来の夢や目標を持ってい ますか
永平寺町	47. 7%	41. 9%	73. 5%
県	43. 9%	35. 1%	71. 9%
国	38. 8%	30. 1%	81. 4%

中学3年生

	自分には、よいところがある と思いますか	難しいことでも、失敗を恐れ ないで挑戦していますか	将来の夢や目標を持ってい ますか
永平寺町	40. 1%	22. 2%	55. 1%
県	33. 7%	25. 0%	50. 0%
国	29. 0%	22. 5%	44. 9%

§ 備考：「自分には、よいところがあると思いますか」では、全国・県平均を上回っているものの5割以下で、それが、中学校における「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の低下にもつながっていると考えられます。成功体験も大切ですが、小学校のうちに失敗から立ち上がる経験を積ませることも必要だと考えられます。

③ 生活のリズム

小学6年生

	毎日、同じくらいの時刻に寝 ていますか	家で自分で計画を立てて勉 強をしていますか	家の人(兄弟姉妹を除く)と 学校での出来事について話 をしますか
永平寺町	41. 3%	34. 2%	52. 3%
県	42. 8%	34. 1%	48. 0%
国	38. 9%	33. 1%	50. 1%

中学3年生

	毎日、同じくらいの時刻に寝 ていますか	家で自分で計画を立てて勉 強をしていますか	家の人(兄弟姉妹を除く)と 学校での出来事について話 をしますか
永平寺町	43. 7%	18. 6%	47. 3%
県	37. 3%	15. 3%	47. 0%
国	33. 6%	14. 9%	46. 4%

§ 備考：小学生、中学生ともに、おおむね落ち着いた生活を送っている結果となっていますが、小学校の生活リズムが県平均を下回っています。ネットやゲームの影響で、帰宅後の生活が不規則になっていることが考えられます。保護者も含めた教育とスマートルールの確立が課題です。

④ 地域との関わり

小学6年生

	今住んでいる地域の行事に参加していますか	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
永平寺町	66. 5%	28. 4%
県	58. 2%	20. 5%
国	37. 2%	18. 9%

中学3年生

	今住んでいる地域の行事に参加していますか	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
永平寺町	40. 7%	12. 0%
県	33. 1%	14. 7%
国	21. 0%	11. 5%

§ 備考：小中学校ともに、地域の行事にはよく参加しています。中学校の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では県平均を下回りました。地域連携を深め、地域行事の企画に入り込むなど、参加だけでなく参画することが必要です。

【令和元年度 福井県学力調査】

① 学校生活は楽しいですか

小学5年生

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	思わない
永平寺町	55. 3%	34. 2%	8. 1%	2. 5%
県	61. 8%	30. 8%	5. 3%	2. 2%

中学2年生

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	思わない
永平寺町	66. 5%	25. 0%	6. 8%	1. 7%
県	57. 1%	35. 1%	6. 1%	1. 7%

§ 備考：「まあまあ」も含め「楽しい」が小学校では89. 5%（県92. 6%）、中学校では91. 5%（県92. 2%）となっています。どちらも若干、県を下回っていますが、約9割は楽しく学校生活を送っています。学校が楽しいということは一番重要なことですので、今後も引き続き楽しい学校づくりの対応が必要です。

② 学級で、いっしょに学習したり、活動したりすることは楽しいですか

小学5年生

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	思わない
永平寺町	64. 0%	28. 6%	6. 8%	0. 6%
県	67. 0%	27. 7%	4. 1%	1. 2%

中学2年生

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	思わない
永平寺町	64. 2%	30. 1%	5. 1%	0. 6%
県	60. 7%	33. 0%	5. 3%	1. 0%

§ 備考:「まあまあ」も含め「楽しい」が小学校では92. 6%(県94. 7%)、中学校では94. 3%(県93. 7%)となっています。これも県と同様、9割以上がクラスメイトとの活動を楽しんでいます。

永平寺町小中学校の在り方検討委員会ワーキンググループ意見

これまでの経過、先進事例

		計
学校の統廃合のこれまでの議論について知りたい。	1	2
学校統廃合を先に行った地区の考えを知りたい。（小浜市などの生徒・親、住民）	1	

部活動

部の存続のこと	1	4
生徒が少なくて、やりたい部活動がない。	1	
スポーツを体験できる教育がいい。	1	
総合型地域スポーツクラブの設立・部活動からクラブ化へ	1	

登下校

登下校の熊のこと	1	4
クマの出没は、バスがあって助かった。	1	
スクールバスのこと	1	
防犯カメラをつけて	1	

AI・SNS・インターネット

プログラミング授業の様子はどうなっているのか。	1	18
学校のインターネット化・IT環境が死んでいる。	1	
タブレット等IT教育のモデル校を作る。	1	
IT教育の先進的な街にしてほしい。	1	
AI教育をしてほしい。	1	
膨大な情報の氾濫、鵜呑みにしない力、読み取る力が必要	1	
インターネット、SNSの被害が心配。ルール作りが必要。SNSの制限が必要。	4	
AIで物言わぬ人間作りになってはいけない。	1	
AI化が進むと人としての基本的なマナーが忘れがちになる。	1	
AIの活用、超スマート社会になると生活はどうなるのだろう。	1	
インターネットやAIの教育では、個人の状況に合わせた教育が必要	1	
AIで人との関りがなくなる社会は怖い。	1	
AIは大事だが、社会が急変すると田舎の子供たちはついていけないのか。誰が教えられるのか。	1	
ネット社会のスピードに社会がついていけない。	1	
ネットやAIが進むと学校に通うことの意味やメリットが問われる。なぜ合併するの？	1	

コミュニティスクール

コミュニティスクールの推進には住民への意識づけが大切、地域らしい教育の推進、出前授業	3	11
人口減少が急激に進展し、空き家や空き地が増加する寂しい街になる。	1	
地域のつながりが弱くなっている。地域の力をどう教育に繋げていくか。	3	
子どもを含めて地域のリーダーづくりが必要	1	
今の教育方法に昔の者は困惑する。	1	
コミュニケーションの取り方が難しくなっている。危険性を感じる。	2	

永平寺の学校

小人数は手厚い教育ができる。	1	
小さい学校のチームワークの良さ。人の気持ちがわかる子どもたち。	1	
少子化で1ケタ台の人数のクラスが増えている。	1	
吉野小学校も人数が減少して複式学級になるのか。	1	
あまりにも少ない人数で受ける教育が心配。こどもの成長を第一に考えるべき。	2	

小学校同士の連携した行事はよい。	1	21
3地区の小中学校の交流を盛んにして、互いに地域の文化や歴史を教え合う。	1	
永平寺町の3つの地域性を大切にしてほしい。それぞれの特性を生かしたい。	2	
マンモス校の弊害も知りたい。	1	
永平寺町は教育に力を入れていてありがたい。学力、体力の県内での状況は？	2	
永平寺町の子供たちは素直な子が多い。	1	
あいさつができる永平寺町。禅の心を大切にしてほしい。	1	
先生から永平寺の子供たちの印象をお聴きしたい。	1	
教育の目的をどうやって家庭に伝えるか。	1	
改革を始めている学校の話をお聴きたい。	1	
各学校の先生方の年齢構成や定員について知りたい。	1	
教員の世代交代が進んでいる。	1	
先生の新人教育はどうなっているのか。	1	

未来の教育、教育についての考え

教える者が未来を学ぶべき。	1	33
これからの教育は、22世紀の社会づくりに直結する。	1	
ソサイティ5.0に必要な創造力・人と関わる力・柔軟な思考を教育に落とし込んでほしい。	1	
ソサイティ5.0には、人間の能力を後退させるような怖さを感じる。マイナスイメージを持った。	2	
機会やシステムを創るのは人間。その人間を教育でどう育てるのか。	1	
時代の流れに応じた教育の推進。これからの時代に必要な力は何か。	2	
こここでは、これからの社会、次の社会まで議論するのか。	1	
永平寺町の地域の文化や歴史を子どもたちに伝えていくのは大事	1	
個々が大切にされる教育の推進	1	
格差のない平等な教育を一人一人が受けれるように	1	
重点的に力を入れる方向性を絞る。	1	
子どもがいつも教えられるのではなく、地域や家庭に教える教育も面白い。	1	
永平寺の活性化について、子どもたちの知恵を生かせ。	1	
これからの社会や教育を小学生や中学生はどう考えているのか。	1	
宿題の量の違い。量が多く、学力向上につながっていない。	2	
教えられたことを効率よく遂行できる教育でいいのか。	1	
OECDで日本の子供たちの読解力が落ちていることが気になる。(14位)	1	
物語や伝記を読む教育、長文を読むことで達成感を味わわせたい。	1	
いじめのことは、今回、議論するのか。	1	
自然の中で発見する機会が減っている。子どもに任せる時間を与えよ。	2	
友達同士の遊びの中から学ばせよ。	2	
子どもたちには、関わる力が必要になる。それを教育でどう育てていくのか。	1	
スマホやタブレットでのコミュニケーションが当たり前になっている。	1	
思考することが鈍くなっていないか。	1	
悩み、苦しさのストレスをためているように思う。	1	
社会適応できるように自己の確立が必要	1	
大学を生かした教育	1	
企業はもうかっても我々の生活はよくなるらない。	1	

給食・プール

給食センター反対。学校の自校給食がよい。	2	3
夏はプールに入りたい。	1	

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (小中学生保護者用)

調査ご協力のお願い

日ごろから、町教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、永平寺町では、少子化に伴い、地域差はあるものの、少しずつ各学校の小規模化が進んでいます。少子高齢化や高度情報化など、社会情勢の変化が教育環境にもさまざまな影響を及ぼすことが全国的に懸念されている中、町では、将来にわたって質の高い教育を維持するため、「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設立し、永平寺町内の小中学校のあり方について、(1)望ましい教育環境のあり方、(2)地域と連携した学校づくりのあり方、の2つの事項を諮問し、答申をまとめていただくこととしました。

このアンケートは、「これからの永平寺町の学校教育がどうあってほしいか」などについて、保護者のみなさまのご意見を広くお聞きし、答申をまとめる際の参考とさせていただくものであり、小中学校の再編を前提に実施するものではありません。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、小中学生のお子様全員の保護者を対象にお送りしています。
2. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。
3. お子さんが小学生の場合、中学生になられた場合を想定して、
お子さんが中学生の場合、小学生だった頃を思い返して、ご記入ください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、
お子様を通じて、それぞれの小中学校へ、2月19日(金)までにご提出ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

◆調査に関するお問い合わせ先◆

永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



ご記入者様（あなた）及びお子様についてお聞きします。

問 1 あなた（ご記入者様）とお子様の関係、年齢をご記入ください。

1. 母親	2. 父親	3. その他（ ）
あなた（ご記入者様）の年齢 （ ） 歳		

問 2 お子様の通われている小中学校について、あてはまる学校・学年すべてに○をつけてください。

1. 松岡小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
2. 吉野小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
3. 御陵小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
4. 志比小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
5. 志比南小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
6. 志比北小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
7. 上志比小学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生）
8. 松岡中学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生 ）			
9. 永平寺中学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生 ）			
10. 上志比中学校	（ 1 年生	2 年生	3 年生 ）			
11. 中学校卒業から成人前までの子どもがいる						

小学校についてお聞きします。

問 3 小学校では、基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の改善を行っています。その他に、保護者として小学校教育で重要視していることは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること	2. 確かな学力*を身につけること
3. 自己肯定感を高めること	4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること	10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育*の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育*や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備など）が図られていること	16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと

※確かな学力…知識や技術だけでなく、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力のこと

※ICT 教育…パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法のこと

※メディアリテラシー教育…メディアが発信する情報を読み取り、自分の意見を発信する能力を育む教育のこと

問 3 - 1 問 3 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

--

問 4 小学校教育の各項目の満足度について、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	大変満足	やや満足	普通	やや不満	大変不満
①社会のマナーやルールを身につけること	1	2	3	4	5
②確かな学力を身につけること	1	2	3	4	5
③自己肯定感を高めること	1	2	3	4	5
④環境や平和の大切さについて学ぶこと	1	2	3	4	5
⑤自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	1	2	3	4	5
⑥他校との交流を深めること	1	2	3	4	5
⑦集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	1	2	3	4	5
⑧地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること	1	2	3	4	5
⑨地域の方々との交流により豊かな体験ができること	1	2	3	4	5
⑩慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること	1	2	3	4	5
⑪どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	1	2	3	4	5
⑫少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること	1	2	3	4	5
⑬ICT教育の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	1	2	3	4	5
⑭外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること	1	2	3	4	5
⑮校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	1	2	3	4	5
⑯人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと	1	2	3	4	5

問 4 - 1 問 4 の項目以外で満足、不満に感じていることがあれば、ご記入ください。

【満足に感じていること】

--

【不満に感じていること】

--

問 5 保護者として、子どもたちと地域との関わりについて期待することは、何ですか？

あてはまる番号 3 つに○をつけてください。(保護者、先生などへのサポートを含む)

※ 3～8は授業の中で行うことを想定しています。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること 2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること 3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること 4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること 5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること 6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること 7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること 8. 地域の方が PTA 活動への協力の依頼があれば参加してくれること 9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること 10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと 11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること 12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること 13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること 14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること 15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること 16. 特になし |
|---|

問 5－1 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

--

問6 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

※廃校…設置者から廃止の届出があった公立の小中学校のこと

休校…廃止の届出はないものの、児童・生徒が在籍しておらず、学級数が 0 の公立
の小中学校のこと

- １．いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ２．ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- ３．小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- ４．その他の意見

問 6－1 問 6 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

【小学校別の児童数の将来推計について】

小学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	67	72	139	69	64	133	58	60	118	56	56	112
2年	78	83	161	54	55	109	60	62	122	57	57	114
3年	82	86	168	74	70	144	62	62	124	57	59	116
4年	87	71	158	72	76	148	53	73	126	57	60	117
5年	88	88	176	70	73	143	64	68	132	58	61	119
6年	84	77	161	79	84	163	71	65	136	58	61	119
計	486	477	963	418	422	840	368	390	758	343	354	697

永平寺町の小学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**27%減少**することが予想されています。

松岡小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	21	29	50	28	32	60	31	33	64	30	32	62
2年	23	39	62	26	35	61	31	34	65	30	33	63
3年	29	36	65	32	31	63	31	34	65	30	33	63
4年	34	28	62	34	27	61	31	43	74	30	34	64
5年	32	26	58	21	30	51	33	39	72	31	34	65
6年	39	33	72	23	41	64	28	33	61	31	34	65
計	178	191	369	164	196	360	185	216	401	182	200	382

吉野小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	9	6	15	7	5	12	5	4	9	5	4	9
2年	5	5	10	5	2	7	5	4	9	5	4	9
3年	9	12	21	5	6	11	6	4	10	5	4	9
4年	6	7	13	5	3	8	2	4	6	5	4	9
5年	10	11	21	9	6	15	5	2	7	5	4	9
6年	5	9	14	5	5	10	7	5	12	5	4	9
計	44	50	94	36	27	63	30	23	53	30	24	54

御陵小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	11	8	19	9	7	16	8	7	15	8	6	14
2年	10	7	17	8	5	13	8	7	15	8	6	14
3年	10	9	19	7	11	18	8	7	15	8	6	14
4年	10	12	22	9	10	19	8	5	13	8	6	14
5年	2	11	13	11	8	19	10	5	15	8	7	15
6年	12	10	22	10	7	17	9	7	16	8	7	15
計	55	57	112	54	48	102	51	38	89	48	38	86

志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	8	8	16	9	7	16	4	6	10	4	5	9
2年	13	16	29	4	3	7	5	7	12	4	5	9
3年	11	12	23	12	7	19	5	7	12	4	6	10
4年	14	6	20	5	12	17	7	9	16	4	6	10
5年	17	17	34	8	8	16	2	7	9	4	6	10
6年	10	14	24	13	15	28	9	7	16	4	6	10
計	73	73	146	51	52	103	32	43	75	24	34	58

志比南小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	10	5	15	3	5	8	3	2	5	3	2	5
2年	10	4	14	7	3	10	3	2	5	3	2	5
3年	8	7	15	4	5	9	4	2	6	3	2	5
4年	5	5	10	9	7	16	1	0	1	3	2	5
5年	12	9	21	11	5	16	7	4	11	3	2	5
6年	7	5	12	11	4	15	3	5	8	3	2	5
計	52	35	87	45	29	74	21	15	36	18	12	30

志比北小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	2	6	4	1	5	1	1	2	1	1	2
2年	3	0	3	1	0	1	1	1	2	1	1	2
3年	4	3	7	2	2	4	1	1	2	1	1	2
4年	3	3	6	5	3	8	2	1	3	1	1	2
5年	3	5	8	6	2	8	0	1	1	1	1	2
6年	2	1	3	4	0	4	6	1	7	1	1	2
計	19	14	33	22	8	30	11	6	17	6	6	12

上志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	14	18	9	7	16	6	7	13	5	6	11
2年	14	12	26	3	7	10	7	7	14	6	6	12
3年	11	7	18	12	8	20	7	7	14	6	7	13
4年	15	10	25	5	14	19	2	11	13	6	7	13
5年	12	9	21	4	14	18	7	10	17	6	7	13
6年	9	5	14	13	12	25	9	7	16	6	7	13
計	65	57	122	46	62	108	38	49	87	35	40	75

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している児童がいるため、平成31年度の児童数の実数と推計値には差があります。

問 7 将来的に児童数が減少した際に、町の対応として希望することに関して、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の小学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 7 - 1 問 7 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

学習において、話し合い活動が重視されており、子どもたちは2人のペア学習、3～4人で行う実験や実習、もっと多くの人数で行うディベート学習などを通じ、他者との学び合いを深め、成長していきます。

また、スポーツにおいても、一定の人数がいて、体験できる集団スポーツも増えます。

このように、子どもたちのためによりよい教育環境を総合的に考える際、1学年・1学級の人数は重要な項目となります。

問 8 1学級の児童数・1学年の児童数について、あなたが最低限必要だと思ふ人数を、それぞれご記入ください。

1学級 最低 （ ）人	1学年 最低 （ ）人
----------------------------------	----------------------------------

問 8 - 1 その理由をご記入ください。

現在、国では、公立の小学校を対象に 1 学級の上限人数を 40 人から 35 人とする「少人数学級」の導入の動きが進められています。

既に福井県では、小学校の 1 学級の上限人数を 35 人と定め、少人数教育を推進しています。

問 8－2 1 学級の児童数・1 学年の児童数について、あなたが適正だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1 学級	(	～	) 人	1 学年	(	～	) 人
------	---	---	-----	------	---	---	-----

問 8－3 その理由をご記入ください。

問 9 もしも、今、子どもたちが通学している小学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどうしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※ 通学手段は確保されているものとします。

1. 今まで通り住み続ける	2. 町内の学校の近くに転居する
3. 町外の学校の近くに転居する	4. どうするかわからない

問 9－1 問 9 について、自由にご意見をご記入ください。

中学校についてお聞きします。

問 10 中学校でも基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善を行っています。その他に、保護者として中学校教育で重要視していることは何ですか？あてはまる番号 **3つ** に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること
2. 確かな学力を身につけること
3. 自己肯定感を高めること
4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと
6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること
8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること
10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること
12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育の環境を整備して、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること
14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること
16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと
17. 部活動を通して豊かな経験をし、成長すること

問 10－1 **問 10 の項目以外**で重要視していることがあれば、ご記入ください。

問11 中学校教育の各項目の満足度について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

項 目	大変満足	やや満足	普通	やや不満	大変不満
①社会のマナーやルールを身につけること	1	2	3	4	5
②確かな学力を身につけること	1	2	3	4	5
③自己肯定感を高めること	1	2	3	4	5
④環境や平和の大切さについて学ぶこと	1	2	3	4	5
⑤自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	1	2	3	4	5
⑥他校との交流を深めること	1	2	3	4	5
⑦集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	1	2	3	4	5
⑧地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること	1	2	3	4	5
⑨地域の方々との交流により豊かな体験ができること	1	2	3	4	5
⑩慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること	1	2	3	4	5
⑪どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	1	2	3	4	5
⑫少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること	1	2	3	4	5
⑬ICT教育の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	1	2	3	4	5
⑭外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること	1	2	3	4	5
⑮校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	1	2	3	4	5
⑯人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと	1	2	3	4	5
⑰部活動を通して豊かな経験をし、成長すること	1	2	3	4	5

問 11－1 問 11 の項目以外で満足、不満に感じていることがあれば、ご記入ください。

【満足に感じていること】

--

【不満に感じていること】

--

問12 保護者として、子どもたちと地域との関わりについて期待することは、何ですか？
あてはまる番号 3つ に○をつけてください。（保護者、先生などへのサポートを含む）

※ 3～8は授業の中で行うことを想定しています。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること 2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること 3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習支援してくれること 4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること 5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること 6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること 7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること 8. 地域の方がPTA 活動への協力の依頼があれば参加してくれること 9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること 10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと 11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること 12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること 13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること 14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること 15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること 16. 特になし

問 12－1 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

--

問 13 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- １．いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ２．ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- ３．中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- ４．その他の意見

問 13－1 問 13 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

--

【中学校別の生徒数の将来推計について】

中学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	84	83	167	83	88	171	56	55	111	61	62	123
2年	85	96	181	90	70	160	75	69	144	64	62	126
3年	96	83	179	90	90	180	74	76	150	55	73	128
計	265	262	527	263	248	511	205	200	405	180	197	377

永平寺町の中学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**28%減少**することが予想されています。

松岡中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	44	51	95	49	58	107	40	42	82	45	45	90
2年	51	59	110	52	46	98	46	47	93	47	45	92
3年	54	45	99	46	48	94	50	39	89	43	52	95
計	149	155	304	147	152	299	136	128	264	135	142	277

永平寺中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	27	17	44	24	23	47	13	6	19	9	10	19
2年	28	23	51	22	14	36	18	14	32	10	10	20
3年	34	26	60	32	33	65	19	23	42	10	10	20
計	89	66	155	78	70	148	50	43	93	29	30	59

上志比中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	13	15	28	10	7	17	3	7	10	7	7	14
2年	6	14	20	16	10	26	11	8	19	7	7	14
3年	8	12	20	12	9	21	5	14	19	2	11	13
計	27	41	68	38	26	64	19	29	48	16	25	41

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している生徒がいるため、平成31年度の生徒数の実数と推計値には差があります。

問14 将来的に生徒数が減少した際に、町の対応として希望することに関して、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の中学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 14－ 1 問 14 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

学習において、話し合い活動が重視されており、子どもたちは2人のペア学習、3～4人で行う実験や実習、もっと多くの人数で行うディベート学習などを通じ、他者との学び合いを深め、成長していきます。

また、スポーツにおいても、一定の人数がいると、体験できる集団スポーツも増えます。

このように、子どもたちのためによりよい教育環境を総合的に考える際、1学年・1学級の人数は重要な項目となります。

問15 1学級の生徒数・1学年の生徒数について、あなたが最低限必要だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1学級 最低 （ ）人	1学年 最低 （ ）人
----------------------------------	----------------------------------

問15－ 1 その理由をご記入ください。

現在、国では、中学生を対象とした少人数教育の実施に向け、1 学級の上限人数を 40 人から減少していくことを検討しています。

既に福井県では、中学校の 1 学級の上限を 32 人と定め、少人数教育を推進しています。

問15-2 1 学級の生徒数・1 学年の生徒数について、あなたが適正だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1 学級	(	～	) 人	1 学年	(	～	) 人
------	---	---	-----	------	---	---	-----

問15-3 その理由をご記入ください。

問 16 もしも、今、子どもたちが通学している中学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどうしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※ 通学手段は確保されているものとします。

1. 今まで通り住み続ける	2. 町内の学校の近くに転居する
3. 町外の学校の近くに転居する	4. どうするかわからない

問 16-1 問 16 について、自由にご意見をご記入ください。

その他

問 17 お子様が携帯電話（スマートフォン）などやパソコン（タブレット）を利用するときに、ルールを定めていますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

1. 定めている	2. 特に定めていない
----------	-------------

※ 問 17 で「1. 定めている」を選んだ方にお聞きします。

問 17-1 ルールの内容について、あてはまる番号 すべて に○をつけてください。

1. 利用する時間	2. 利用する金額
3. 利用する場所	4. 利用する内容
5. その他 (	)

※ 問 17 で「1. 定めている」を選んだ方にお聞きします。

問 17-2 ルールは守られていますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

1. 守られている	2. ある程度守られている
3. あまり守られていない	4. 守られていない

※ 問 17 で「2. 特に定めていない」を選んだ方にお聞きします。

問 17-3 ルールを定めていない理由について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもに任せておいて大丈夫だから
2. トラブルになると思わないから
3. ルールをつくっても守らないから
4. ルールのつくり方がわからないから
5. その他（ ）

問 18 コロナ禍の中の学校教育に対して、どのようなことを希望されますか。ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

[illegible]

問 19 最後に、学校教育全般に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

[illegible]

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

お子様を通じて、それぞれの小中学校へ、2月19日（金）までにご提出ください。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (幼稚園・幼稚園保護者用)

調査ご協力のお願い

日ごろから、町教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、永平寺町では、少子化に伴い、地域差はあるものの、少しずつ各学校の小規模化が進んでいます。少子高齢化や高度情報化など、社会情勢の変化が教育環境にもさまざまな影響を及ぼすことが全国的に懸念されている中、町では、将来にわたって質の高い教育を維持するため、「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設立し、永平寺町内の小中学校のあり方について、(1) 望ましい教育環境のあり方、(2) 地域と連携した学校づくりのあり方、の2つの事項を諮問し、答申をまとめていただくこととしました。

このアンケートは、「これからの永平寺町の学校教育がどうあってほしいか」などについて、保護者のみなさまのご意見を広くお聞きし、答申をまとめる際の参考とさせていただくものであり、小中学校の再編を前提に実施するものではありません。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、幼稚園・幼稚園に通うお子様の保護者を対象にお送りしています。
2. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。
3. お子さんが小学生になられた場合、中学生になられた場合を想定してご記入ください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、
それぞれの幼稚園・幼稚園へ2月19日(金)までにご提出ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

◆調査に関するお問い合わせ先◆
永平寺町教育委員会 学校教育課
電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



ご記入者様（あなた）及びお子様についてお聞きします。

問 1 あなた（ご記入者様）とお子様の関係、年齢をご記入ください。

1. 母親	2. 父親	3. その他（ ）
-------	-------	-----------

あなた（ご記入者様）の年齢	（ ） 歳
お子様の年齢	（ ） 歳

問 2 あなたが住んでいる小学校区について、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

1. 松岡小学校区	2. 吉野小学校区	3. 御陵小学校区
4. 志比小学校区	5. 志比南小学校区	6. 志比北小学校区
7. 上志比小学校区	8. わからない	

小学校についてお聞きします。

問 3 小学校では、基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の改善を行っています。その他に、保護者として小学校教育で重要視していることは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること	2. <u>確かな学力*</u> を身につけること
3. 自己肯定感を高めること	4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること	10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. <u>ICT 教育*</u> の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（ <u>メディアリテラシー教育*</u> や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと

※確かな学力…知識や技術だけでなく、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力のこと

※ICT 教育…パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法のこと

※メディアリテラシー教育…メディアが発信する情報を読み取り、自分の意見を発信する能力を育む教育のこと

問 3 - 1 問 3 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

--

問 4 保護者として子どもたちと地域との関わりについて期待することは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。（保護者、先生などへのサポートを含む）

※3～8は授業の中で行うことを想定しています。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること
2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること
3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること
4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること
5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること
6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること
7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること
8. 地域の方が PTA 活動への協力の依頼があれば参加してくれること
9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること
10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと
11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること
12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること
13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
16. 特になし

問 4－1 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

問 5 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※廃校…設置者から廃止の届出があった公立の小中学校のこと

休校…廃止の届出はないものの、児童・生徒が在籍しておらず、学級数が 0 の公立の小中学校のこと

1. いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
2. ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
3. 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
4. その他の意見

問 5－1 問 5 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

【小学校別の児童数の将来推計について】

小学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	67	72	139	69	64	133	58	60	118	56	56	112
2年	78	83	161	54	55	109	60	62	122	57	57	114
3年	82	86	168	74	70	144	62	62	124	57	59	116
4年	87	71	158	72	76	148	53	73	126	57	60	117
5年	88	88	176	70	73	143	64	68	132	58	61	119
6年	84	77	161	79	84	163	71	65	136	58	61	119
計	486	477	963	418	422	840	368	390	758	343	354	697

永平寺町の小学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**27%減少**することが予想されています。

松岡小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	21	29	50	28	32	60	31	33	64	30	32	62
2年	23	39	62	26	35	61	31	34	65	30	33	63
3年	29	36	65	32	31	63	31	34	65	30	33	63
4年	34	28	62	34	27	61	31	43	74	30	34	64
5年	32	26	58	21	30	51	33	39	72	31	34	65
6年	39	33	72	23	41	64	28	33	61	31	34	65
計	178	191	369	164	196	360	185	216	401	182	200	382

吉野小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	9	6	15	7	5	12	5	4	9	5	4	9
2年	5	5	10	5	2	7	5	4	9	5	4	9
3年	9	12	21	5	6	11	6	4	10	5	4	9
4年	6	7	13	5	3	8	2	4	6	5	4	9
5年	10	11	21	9	6	15	5	2	7	5	4	9
6年	5	9	14	5	5	10	7	5	12	5	4	9
計	44	50	94	36	27	63	30	23	53	30	24	54

御陵小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	11	8	19	9	7	16	8	7	15	8	6	14
2年	10	7	17	8	5	13	8	7	15	8	6	14
3年	10	9	19	7	11	18	8	7	15	8	6	14
4年	10	12	22	9	10	19	8	5	13	8	6	14
5年	2	11	13	11	8	19	10	5	15	8	7	15
6年	12	10	22	10	7	17	9	7	16	8	7	15
計	55	57	112	54	48	102	51	38	89	48	38	86

志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	8	8	16	9	7	16	4	6	10	4	5	9
2年	13	16	29	4	3	7	5	7	12	4	5	9
3年	11	12	23	12	7	19	5	7	12	4	6	10
4年	14	6	20	5	12	17	7	9	16	4	6	10
5年	17	17	34	8	8	16	2	7	9	4	6	10
6年	10	14	24	13	15	28	9	7	16	4	6	10
計	73	73	146	51	52	103	32	43	75	24	34	58

志比南小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	10	5	15	3	5	8	3	2	5	3	2	5
2年	10	4	14	7	3	10	3	2	5	3	2	5
3年	8	7	15	4	5	9	4	2	6	3	2	5
4年	5	5	10	9	7	16	1	0	1	3	2	5
5年	12	9	21	11	5	16	7	4	11	3	2	5
6年	7	5	12	11	4	15	3	5	8	3	2	5
計	52	35	87	45	29	74	21	15	36	18	12	30

志比北小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	2	6	4	1	5	1	1	2	1	1	2
2年	3	0	3	1	0	1	1	1	2	1	1	2
3年	4	3	7	2	2	4	1	1	2	1	1	2
4年	3	3	6	5	3	8	2	1	3	1	1	2
5年	3	5	8	6	2	8	0	1	1	1	1	2
6年	2	1	3	4	0	4	6	1	7	1	1	2
計	19	14	33	22	8	30	11	6	17	6	6	12

上志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	14	18	9	7	16	6	7	13	5	6	11
2年	14	12	26	3	7	10	7	7	14	6	6	12
3年	11	7	18	12	8	20	7	7	14	6	7	13
4年	15	10	25	5	14	19	2	11	13	6	7	13
5年	12	9	21	4	14	18	7	10	17	6	7	13
6年	9	5	14	13	12	25	9	7	16	6	7	13
計	65	57	122	46	62	108	38	49	87	35	40	75

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している児童がいるため、平成31年度の児童数の実数と推計値には差があります。

問 6 将来的に児童数が減少した際に、町の対応として希望することに関して、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の小学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 6 - 1 問 6 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

学習において、話し合い活動が重視されており、子どもたちは2人のペア学習、3～4人で行う実験や実習、もっと多くの人数で行うディベート学習などを通じ、他者との学び合いを深め、成長していきます。

また、スポーツにおいても、一定の人数がいて、体験できる集団スポーツも増えます。

このように、子どもたちのためによりよい教育環境を総合的に考える際、1学年・1学級の人数は重要な項目となります。

問 7 1学級の児童数・1学年の児童数について、あなたが最低限必要だと思ふ人数を、それぞれご記入ください。

1学級 最低 （ ）人	1学年 最低 （ ）人
----------------------------------	----------------------------------

問 7 - 1 その理由をご記入ください。

現在、国では、公立の小学校を対象に 1 学級の上限人数を 40 人から 35 人とする「少人数学級」の導入の動きが進められています。

既に福井県では、小学校の 1 学級の上限人数を 35 人と定め、少人数教育を推進しています。

問 7－2 1 学級の児童数・1 学年の児童数について、あなたが適正だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1 学級	(	～	) 人	1 学年	(	～	) 人
------	---	---	-----	------	---	---	-----

問 7－3 その理由をご記入ください。

問 8 もしも、将来、お子様が通学する予定の小学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどのようにしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※ 通学手段は確保されているものとします。

1. 今まで通り住み続ける	2. 町内の学校の近くに転居する
3. 町外の学校の近くに転居する	4. どうするかわからない

問 8－1 問 8 について、自由にご意見をご記入ください。

中学校についてお聞きします。

問 9 中学校でも基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善を行っています。その他に、保護者として中学校教育で重要視していることは何ですか？あてはまる番号 3つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること
2. 確かな学力を身につけること
3. 自己肯定感を高めること
4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと
6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること
8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること
10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること
12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育の環境を整備して、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること
14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること
16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと
17. 部活動を通して豊かな経験をし、成長すること

問 9 - 1 問 9 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

問10 保護者として、子どもたちと地域との関わりについて期待することは、何ですか？

あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。(保護者、先生などへのサポートを含む)

※3～8は授業の中で行うことを想定しています。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること
2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること
3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習支援してくれること
4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること
5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること
6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること
7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること
8. 地域の方がPTA 活動への協力の依頼があれば参加してくれること
9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること
10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと
11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること
12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること
13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
16. 特になし

問 10－1 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

問 11 もしも、将来、お子様が通学する予定の中学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどのようにしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今まで通り住み続ける | 2. 町内の学校の近くに転居する |
| 3. 町外の学校の近くに転居する | 4. どうするかわからない |

問 11－1 問 11 について、自由にご意見をご記入ください。

問 12 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- １．いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ２．ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- ３．中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- ４．その他の意見

問 12-1 問 12 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

--

【中学校別の生徒数の将来推計について】

中学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	84	83	167	83	88	171	56	55	111	61	62	123
2年	85	96	181	90	70	160	75	69	144	64	62	126
3年	96	83	179	90	90	180	74	76	150	55	73	128
計	265	262	527	263	248	511	205	200	405	180	197	377

永平寺町の中学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**28%減少**することが予想されています。

松岡中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	44	51	95	49	58	107	40	42	82	45	45	90
2年	51	59	110	52	46	98	46	47	93	47	45	92
3年	54	45	99	46	48	94	50	39	89	43	52	95
計	149	155	304	147	152	299	136	128	264	135	142	277

永平寺中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	27	17	44	24	23	47	13	6	19	9	10	19
2年	28	23	51	22	14	36	18	14	32	10	10	20
3年	34	26	60	32	33	65	19	23	42	10	10	20
計	89	66	155	78	70	148	50	43	93	29	30	59

上志比中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	13	15	28	10	7	17	3	7	10	7	7	14
2年	6	14	20	16	10	26	11	8	19	7	7	14
3年	8	12	20	12	9	21	5	14	19	2	11	13
計	27	41	68	38	26	64	19	29	48	16	25	41

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している生徒がいるため、平成31年度の生徒数の実数と推計値には差があります。

問13 将来的に生徒数が減少した際に、町の対応として希望することに関して、項目ごとにあてはまる番号 1つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の中学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 13－ 1 問 13 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

--

学習において、話し合い活動が重視されており、子どもたちは2人のペア学習、3～4人で行う実験や実習、もっと多くの人数で行うディベート学習などを通じ、他者との学び合いを深め、成長していきます。

また、スポーツにおいても、一定の人数がいて、体験できる集団スポーツも増えます。

このように、子どもたちのためによりよい教育環境を総合的に考える際、1学年・1学級の人数は重要な項目となります。

問14 1学級の生徒数・1学年の生徒数について、あなたが最低限必要だと思う人数を、それぞれご記入ください。

<u>1学級</u> 最低 （ ）人	<u>1学年</u> 最低 （ ）人
---	---

問14－ 1 その理由をご記入ください。

--

現在、国では、中学生を対象とした少人数教育の実施に向け、1学級の上限人数を40人から減少していくことを検討しています。

既に福井県では、中学校の1学級の上限を32人と定め、少人数教育を推進しています。

問14-2 1学級の生徒数・1学年の生徒数について、あなたが適正だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1学級	(	～	)人	1学年	(	～	)人
-----	---	---	----	-----	---	---	----

問14-3 その理由をご記入ください。

問15 もしも、今、子どもたちが通学している中学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどうしますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

※通学手段は確保されているものとします

1. 今まで通り住み続ける	2. 町内の学校の近くに転居する
3. 町外の学校の近くに転居する	4. どうするかわからない

問15-1 問15について、自由にご意見をご記入ください。

問16 コロナ禍の中の学校教育に対して、どのようなことを希望されますか。ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

問17 最後に、学校教育全般に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

それぞれの幼稚園・幼稚園へ2月19日（金）までにご提出ください。

えいへいじちょう ちょうさ
永平寺町学校についてのアンケート調査

(小学校2～4年生用)

ちょうさ きょうりょく ねが
調査ご協力のお願い

このアンケートは、みなさんの学校での生活の様子や学校について思っていることを調べるものです。みなさんの答えをもとに、永平寺町がみなさんのためにできることを考えていきますので、ご協力をお願いします。

このアンケートは、まちの将来を決める大切な材料です。

また、アンケートには名前を書かないので、あなたがどのように答えたかは他の人にはわかりませんから、みなさんが考えていることをそのまま答えてください。

令和3年1月 えいへいじちょう 永平寺町

ねが
【回答にあたってのお願い】

テストではありませんので、あなたの思うことを書いてください。

ちょうさ かん と
◆調査に関するお問い合わせ先◆

えいへいじちょうきょういくいいんかい がっこうきょういくか
永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



あなたについておしえてください。

1 あなたは何年生ですか。

1. 2年生

2. 3年生

3. 4年生

2 あなたの学校をえらんでください。

1. 松岡（まつおか）小学校

2. 吉野（よしの）小学校

3. 御陵（ごりょう）小学校

4. 志比南（しひみなみ）小学校

5. 志比（しひ）小学校

6. 志比北（しひきた）小学校

7. 上志比（かみしひ）小学校

学校についておしえてください。

3 学校やクラスのいいところ、^{じまん}自慢できるところを^{じゆう}自由に書いてください。

4 学校やクラスのもっと^よ良くしたいところ、^よ良くなってほしいところを^{じゆう}自由に書いてください。

5 学校では、どんなことが楽しいですか。^す好きなことや楽しかったことを^{じゆう}自由に書いてください。



^{きょうりよく}ご協力、ありがとうございました。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (小学生・中学生用)

調査ご協力のお願い

小学生・中学生のみなさんが、今通っている学校についてどう思っているかを知るため、アンケート調査を行います。

このアンケートは、まちの将来を決める大切な資料になります。みなさんの想いや、考えていることをそのまま正直に答えてください。

アンケートは無記名で行いますので、どのような回答をしたかは他の人が知ることはありません。また、回答した調査票が公表されるなど、調査の目的以外には使いませんので、安心して回答してください。ご協力よろしくお願いします。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

答えを選ぶ場合、選ぶ数が質問によって違いますので、それぞれの質問の指示にしたがってください。また、「その他」を選んだ場合は、その後ろにある（ ）内に具体的な内容を書いてください。

◆調査に関するお問い合わせ先◆

永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



あなたについてお聞きします。

問 1 あなたの学年をお答えください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 小学5年生 | 2. 小学6年生 | |
| 3. 中学1年生 | 4. 中学2年生 | 5. 中学3年生 |

問 2 あなたが現在通っている小学校または中学校はどれですか。

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 松岡小学校 | 2. 吉野小学校 | 3. 御陵小学校 |
| 4. 志比小学校 | 5. 志比南小学校 | 6. 志比北小学校 |
| 7. 上志比小学校 | 8. 松岡中学校 | 9. 永平寺中学校 |
| 10. 上志比中学校 | | |

学校についてお聞きします。

問 3 自分の学校や学級のいいところ、自慢できるところを自由に書いてください。

--

問 4 自分の学校や学級のもっと良くしたいところ、良くなってほしいところを自由に書いてください。

--

問 5 これから学校でやってみたいことについて、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	ぜひ やってみたい	やってみたい	普通	そんなに やりたくない	やりたくない
①地域の伝統や文化を学んだり、体験したりすること	1	2	3	4	5
②近隣の自然について学んだり、体験したりすること	1	2	3	4	5
③農業などについて学んだり、体験したりすること	1	2	3	4	5
④企業の方と職場や就業に関する体験をすること	1	2	3	4	5
⑤外国語や外国の文化に触れること	1	2	3	4	5
⑥プログラミング教育や最先端技術を学ぶこと	1	2	3	4	5
⑦学級の仲間と一緒にを行うグループ学習	1	2	3	4	5
⑧自分たちで地域の課題を解決するような学習	1	2	3	4	5
⑨違う学年と一緒に様々な体験や学習をすること	1	2	3	4	5

項 目	ぜひ やってみたい	やってみたい	普通	そんなに やりたくない	やりたくない
⑩違う学校と一緒に様々な体験や学習をすること	1	2	3	4	5
⑪小中学校で一緒に様々な体験や学習をすること	1	2	3	4	5
⑫最先端技術を利用して、他の学校や地域と交流・学習をすること	1	2	3	4	5

問 5 - 1 問 5 の項目以外でやってみたいことがあれば、ご記入ください。

--

問6 地域との関わりについて期待することは何ですか？あてはまる番号3つに○をつけてください。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること
2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること
3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること
4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること
5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること
6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること
7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること
8. 地域の大学と協力し、一緒に様々な考え方を学びながら、課題を解決する学習をすること
9. 休日や放課後などに、宿題などの学習支援をしてくれること
10. 祭りや美化活動などの地域活動に参加させてくれること
11. ボランティア活動などに参加させてくれること
12. 特になし

問 6-1 問 6 の項目以外で地域に期待することがあれば、ご記入ください。

問7 あなたが現在通っている小学校または中学校について、1学級あたりの児童数・生徒数を
どう思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. もっと多い方がよい 2. ちょうどよい
3. もっと少ない方がよい 4. その他 ()

問 7 で「1. もっと多い方がよい」と答えた方のみ、お答えください。

問 7-1 もっと多い方がよいと思うのはなぜですか。あてはまる番号 2 つまで に○をつけてください。

1. たくさんのクラスメイトが欲しいから
2. もっとたくさんの先生と話がしたいから
3. いろいろなグループで活動したいから
4. クラス替えがしたいから
5. もっとたくさんの種類から部活動などを選びたいから
6. その他 ()

問 7 で「3. もっと少ない方がよい」と答えた方のみ、お答えください。

問 7-2 もっと少ない方がよいと思うのはなぜですか。あてはまる番号 2 つまで に○をつけてください。

1. 少人数のクラスメイトと一緒にいたいから
2. 先生ともっと相談や話をする機会が欲しいから
3. もっと自分の好きなことや自分の好きな役割をしたいから
4. 同じクラスメイトで卒業まで過ごしたいから
5. もっとリーダー的役割をしたいから
6. その他 ()

その他

問 8 携帯電話（スマートフォン）などやパソコン（タブレット）を利用していますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

問 8 で「1. 利用している」を選んだ方にお聞きします。

問 9 携帯電話（スマートフォン）などやパソコン（タブレット）を利用するときに、家族との間で定めたルールや決まり事がありますか。

- | | |
|-------|---------|
| 1. ある | 2. 特にない |
|-------|---------|

問 9 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。

問 9-1 ルールや決まり事の内容について、あてはまる番号 すべて に○をつけてください。

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 利用する時間 | 2. 利用する金額 |
| 3. 利用する場所 | 4. 利用する内容 |
| 5. その他 () | |

問 9 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。

問 9-2 ルールは守っていますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 守っている | 2. ある程度守っている |
| 3. あまり守っていない | 4. 守っていない |

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (高校生用)

調査ご協力のお願い

高校生のみなさんが、以前通っていた小学校・中学校についてどう思っているかを知るため、アンケート調査を行います。

このアンケートは、まちの将来を決める大切な資料になります。みなさんの想いや、考えていることを答えてください。

アンケートは無記名で行いますので、どのような回答をしたかは他の人が知ることはありません。また、回答した調査票が公表されるなど、調査の目的以外には使いませんので、安心して回答してください。ご協力よろしくお願いします。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. 小学校・中学校についての質問があります。
2. 小学生・中学生だった頃のことを振り返りながら、お答えください。町外の小中学校に通学していた方も、通学していた学校についてお答えください。
3. 答えを選ぶ場合、選ぶ数が質問によって違いますので、それぞれの質問の指示にしたがってください。また、「その他」を選んだ場合は、その後ろにある（ ）内に具体的な内容を書いてください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、
切手を貼らずに、2月19日（金）までにポストに投函してください。

◆調査に関するお問い合わせ先◆

永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



あなたについてお聞きします。

問 1 あなたの年齢をお答えください。

あなたの年齢 () 歳

問 2 あなたが通っていた小学校はどれですか。

- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| 1. 松岡小学校 | 2. 吉野小学校 | 3. 御陵小学校 |
| 4. 志比小学校 | 5. 志比南小学校 | 6. 志比北小学校 |
| 7. 上志比小学校 | 8. 永平寺町外の小学校 | |

問 3 あなたが通っていた中学校はどれですか。

- | | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 1. 松岡中学校 | 2. 永平寺中学校 | 3. 上志比中学校 |
| 4. 永平寺町外の中学校 | | |

小学校の頃についてお聞きします。

問 4 小学生だった頃の学校や学級のいいところ、自慢できるところを自由に書いてください。

--

問 5 小学生だったころの学校や学級のもっと良くしたかったところ、良くなってほしかったところを自由に書いてください。

--

問 6 あなたが通っていた小学校について、当時の 1 学級の児童数・1 学年の児童数について、**それぞれ**ご記入ください。分からなければ空欄で構いません。

1 学級 () 人	1 学年 () 人
------------	------------

問 7 あなたが通っていた小学校について、1 学級あたりの児童数をどう思いますか。あてはまる番号 **1 つ** に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. もっと多い方がよかった | 2. ちょうどよかった |
| 3. もっと少ない方がよかった | 4. その他 () |

問 7 で「1. もっと多い方がよかった」と答えた方のみお答えください。

問 7-1 もっと多い方がよかったと思うのはなぜですか。あてはまる番号 **2 つまで** に○をつけてください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. もっとたくさんのクラスメイトが欲しかったから |
| 2. もっとたくさんの先生と話がしたかったから |
| 3. いろいろなグループで活動したかったから |
| 4. もっとクラス替えをしてほしかったから |
| 5. もっとたくさんの種類から部活動などを選びたかったから |
| 6. その他 () |

問 7 で「3. もっと少ない方がよかった」と答えた方のみ、お答えください。

問 7-2 もっと少ない方がよかったと思うのはなぜですか。あてはまる番号 2 つまで に○をつけてください。

1. 少人数のクラスメイトと一緒にいたかったから
2. 先生ともっと相談や話をする機会が欲しかったから
3. もっと自分の好きなことや自分の好きな役割をしたかったから
4. 同じクラスメイトで卒業まで過ごしたかったから
5. もっとリーダー的役割をしたかったから
6. その他（ ）

中学校の頃についてお聞きます。

問 8 中学生だった頃の学校や学級のいいところ、自慢できるところを自由に書いてください。

問 9 中学生だった頃の学校や学級のもっと良くしたかったところ、良くなってほしかったところを自由に書いてください。

問 10 あなたが通っていた中学校について、当時の 1 学級の生徒数・1 学年の生徒数について、それぞれご記入ください。分からなければ空欄で構いません。

1 学級 （ ） 人 1 学年 （ ） 人

問 11 あなたが通っていた中学校について、1 学級あたりの生徒数をどう思いますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. もっと多い方がよかった | 2. ちょうどよかった |
| 3. もっと少ない方がよかった | 4. その他（ ） |

問 11 で「1. もっと多い方がよかった」と答えた方のみ、お答えください。

問 11-1 もっと多い方がよかったと思うのはなぜですか。あてはまる番号 2 つまで に○をつけてください。

1. もっとたくさんのクラスメイトが欲しかったから
2. もっとたくさんの先生と話がしたかったから
3. いろいろなグループで活動したかったから
4. もっとクラス替えをしてほしかったから
5. もっとたくさんの種類から部活動などを選びたかったから
6. その他（ ）

問 11 で「3. もっと少ない方がよかった」と答えた方のみお答えください。

問 11-2 もっと少ない方がよかったと思うのはなぜですか。あてはまる番号 2 つまで に○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 少人数のクラスメイトと一緒にいたかったから |
| 2. 先生ともっと相談や話をする機会が欲しかったから |
| 3. もっと自分の好きなことや自分の好きな役割をしたかったから |
| 4. 同じクラスメイトで卒業まで過ごしたかったから |
| 5. もっとリーダー的役割をしたかったから |
| 6. その他 () |

その他

問 12 携帯電話（スマートフォン）などやパソコン（タブレット）を利用していますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

問 12 で「1. 利用している」を選んだ方にお聞きします。

問 12-1 携帯電話（スマートフォン）などやパソコン（タブレット）を利用するときに、家族との間で定めたルールや決まり事がありますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|-------|---------|
| 1. ある | 2. 特にない |
|-------|---------|

問 12-1 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。

問 12-2 ルールや決まり事の内容について、あてはまる番号 すべて に○をつけてください。

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 利用する時間 | 2. 利用する金額 |
| 3. 利用する場所 | 4. 利用する内容 |
| 5. その他 () | |

問 12-1 で「1. ある」を選んだ方にお聞きします。

問 12-3 ルールは守っていますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 守っている | 2. ある程度守っている |
| 3. あまり守っていない | 4. 守っていない |

問 13 最後に、永平寺町の小中学校の教育に関して思うことがございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

切手を貼らずに、2月19日（金）までにポストに投函してください。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (地域住民用)

調査ご協力のお願い

日ごろから、町教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、永平寺町では、少子化に伴い、地域差はあるものの、少しずつ各学校の小規模化が進んでいます。少子高齢化や高度情報化など、社会情勢の変化が教育環境にもさまざまな影響を及ぼすことが全国的に懸念されている中、町では、将来にわたって質の高い教育を維持するため、「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設立し、永平寺町内の小中学校のあり方について、(1) 望ましい教育環境のあり方、(2) 地域と連携した学校づくりのあり方、の2つの事項を諮問し、答申をまとめていただくこととしました。

このアンケートは、「これからの永平寺町の学校教育がどうあってほしいか」などについて、町民のみなさまのご意見を広くお聞きし、答申をまとめる際の参考とさせていただくものであり、小中学校の再編を前提に実施するものではありません。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、永平寺町在住の方から抽出した約 1,500 名を対象にお送りしています。
2. 学校、園の保護者アンケートにお答えいただいた方につきましても、地域住民の立場でお答えください（設問の内容も異なります）。
3. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。
4. お子さんの有無にかかわらず、ご記入ください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、
切手を貼らずに、2月19日（金）までにポストに投函してください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

◆調査に関するお問い合わせ先◆

永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



ご記入者様（あなた）についてお聞きします。

問 1 あなた（ご記入者様）の性別、年齢をご記入ください。

あなた（ご記入者様）の性 （ ）

あなた（ご記入者様）の年齢 （ ） 歳

問 2 あなたが住んでいる小学校区について、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 松岡小学校区 | 2. 吉野小学校区 | 3. 御陵小学校区 |
| 4. 志比小学校区 | 5. 志比南小学校区 | 6. 志比北小学校区 |
| 7. 上志比小学校区 | 8. わからない | |

小学校についてお聞きします。

問 3 小学校では、基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の改善を行っています。その他に、小学校教育で重要だと思うことは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

- | | |
|--|--|
| 1. 社会のマナーやルールを身につけること | 2. <u>確かな学力</u> *を身につけること |
| 3. 自己肯定感を高めること | 4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと |
| 5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと | 6. 他校との交流を深めること |
| 7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること | 8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること |
| 9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること | 10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること |
| 11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること | 12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること |
| 13. <u>ICT 教育</u> *の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（ <u>メディアリテラシー教育</u> *や情報モラルに関する指導を含む）を含む）の推進を図ること | 14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること |
| 15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること | 16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと |

※確かな学力…知識や技術だけでなく、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力のこと

※ICT 教育…パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法のこと

※メディアリテラシー教育…メディアが発信する情報を読み取り、自分の意見を発信する能力を育む教育のこと

問 3 - 1 問 3 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

問 4 問 3 の学校教育以外で、地域における小学校の役割について、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

①～⑤の項目以外で学校の役割だと思ふことがあれば、⑥その他にご記入ください。

項 目	そう思う	やや そう思う	普通	そう 思わない	全く 思わない
①地域の歴史、文化の中核的な存在であること	1	2	3	4	5
②子どもたちとの交流ができる施設であること	1	2	3	4	5
③避難所など、地域の防災拠点であること	1	2	3	4	5
④地域社会のつながりや支えあいのセンター的存在であること	1	2	3	4	5
⑤地域のイベント会場の場であること	1	2	3	4	5
⑥その他	[]				

問 5 小学校との関わりについて、あなたが継続的に協力できることは何ですか？

あてはまる番号 すべて に○をつけてください。（保護者、先生などへのサポートを含む）

※ 3～8は授業の中で行うことを想定しています。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートすること
2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力すること
3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援すること
4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えること
5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援すること
6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をすること
7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をすること
8. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること
9. 地域の方が PTA 活動への協力の依頼があれば参加すること
10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと
11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること
12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること
13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
16. 特になし

問 5-1 小学校への関わりについて、あなたが継続的に協力できることを具体的にお答えください。

問 6 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※廃校…設置者から廃止の届出があった公立の小中学校のこと

休校…廃止の届出はないものの、児童・生徒が在籍しておらず、学級数が 0 の公立の小中学校のこと

1. いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
2. ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
3. 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
4. その他の意見

問 6-1 問 6 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

問 7 もしも、将来、子どもたちが通学している小学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどのようにしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※ 通学手段は確保されているものとします。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今まで通り住み続ける | 2. 町内の学校の近くに転居する |
| 3. 町外の学校の近くに転居する | 4. どうするかわからない |

問 7-1 問 7 について、自由にご意見をご記入ください。

【小学校別の児童数の将来推計について】

小学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	67	72	139	69	64	133	58	60	118	56	56	112
2年	78	83	161	54	55	109	60	62	122	57	57	114
3年	82	86	168	74	70	144	62	62	124	57	59	116
4年	87	71	158	72	76	148	53	73	126	57	60	117
5年	88	88	176	70	73	143	64	68	132	58	61	119
6年	84	77	161	79	84	163	71	65	136	58	61	119
計	486	477	963	418	422	840	368	390	758	343	354	697

永平寺町の小学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**27%減少**することが予想されています。

松岡小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	21	29	50	28	32	60	31	33	64	30	32	62
2年	23	39	62	26	35	61	31	34	65	30	33	63
3年	29	36	65	32	31	63	31	34	65	30	33	63
4年	34	28	62	34	27	61	31	43	74	30	34	64
5年	32	26	58	21	30	51	33	39	72	31	34	65
6年	39	33	72	23	41	64	28	33	61	31	34	65
計	178	191	369	164	196	360	185	216	401	182	200	382

吉野小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	9	6	15	7	5	12	5	4	9	5	4	9
2年	5	5	10	5	2	7	5	4	9	5	4	9
3年	9	12	21	5	6	11	6	4	10	5	4	9
4年	6	7	13	5	3	8	2	4	6	5	4	9
5年	10	11	21	9	6	15	5	2	7	5	4	9
6年	5	9	14	5	5	10	7	5	12	5	4	9
計	44	50	94	36	27	63	30	23	53	30	24	54

御陵小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	11	8	19	9	7	16	8	7	15	8	6	14
2年	10	7	17	8	5	13	8	7	15	8	6	14
3年	10	9	19	7	11	18	8	7	15	8	6	14
4年	10	12	22	9	10	19	8	5	13	8	6	14
5年	2	11	13	11	8	19	10	5	15	8	7	15
6年	12	10	22	10	7	17	9	7	16	8	7	15
計	55	57	112	54	48	102	51	38	89	48	38	86

志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	8	8	16	9	7	16	4	6	10	4	5	9
2年	13	16	29	4	3	7	5	7	12	4	5	9
3年	11	12	23	12	7	19	5	7	12	4	6	10
4年	14	6	20	5	12	17	7	9	16	4	6	10
5年	17	17	34	8	8	16	2	7	9	4	6	10
6年	10	14	24	13	15	28	9	7	16	4	6	10
計	73	73	146	51	52	103	32	43	75	24	34	58

志比南小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	10	5	15	3	5	8	3	2	5	3	2	5
2年	10	4	14	7	3	10	3	2	5	3	2	5
3年	8	7	15	4	5	9	4	2	6	3	2	5
4年	5	5	10	9	7	16	1	0	1	3	2	5
5年	12	9	21	11	5	16	7	4	11	3	2	5
6年	7	5	12	11	4	15	3	5	8	3	2	5
計	52	35	87	45	29	74	21	15	36	18	12	30

志比北小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	2	6	4	1	5	1	1	2	1	1	2
2年	3	0	3	1	0	1	1	1	2	1	1	2
3年	4	3	7	2	2	4	1	1	2	1	1	2
4年	3	3	6	5	3	8	2	1	3	1	1	2
5年	3	5	8	6	2	8	0	1	1	1	1	2
6年	2	1	3	4	0	4	6	1	7	1	1	2
計	19	14	33	22	8	30	11	6	17	6	6	12

上志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	14	18	9	7	16	6	7	13	5	6	11
2年	14	12	26	3	7	10	7	7	14	6	6	12
3年	11	7	18	12	8	20	7	7	14	6	7	13
4年	15	10	25	5	14	19	2	11	13	6	7	13
5年	12	9	21	4	14	18	7	10	17	6	7	13
6年	9	5	14	13	12	25	9	7	16	6	7	13
計	65	57	122	46	62	108	38	49	87	35	40	75

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している児童がいるため、平成31年度の児童数の実数と推計値には差があります。

中学校についてお聞きします。

問 8 中学校でも基礎的な学習を習得することを基本とし、新学習指導要領では主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程の改善を行っています。その他に、中学校教育で重要だと思うことは何ですか？あてはまる番号 3つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること
2. 確かな学力を身につけること
3. 自己肯定感を高めること
4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと
6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること
8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること
10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること
12. 少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育の環境を整備して、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること
14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること
16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと
17. 部活動を通して豊かな経験をし、成長すること

問 8 - 1 問 8 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

問 9 問 8 の学校教育以外で、地域における中学校の役割について、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

①～⑤の項目以外で学校の役割だと思ふことがあれば、⑥その他にご記入ください。

項 目	そう思う	やや そう思う	普通	そう 思わない	全く 思わない
①地域の歴史、文化の中核的な存在であること	1	2	3	4	5
②子どもたちとの交流ができる施設であること	1	2	3	4	5
③避難所など、地域の防災拠点であること	1	2	3	4	5
④地域社会のつながりや支えあいのセンター的存在であること	1	2	3	4	5
⑤地域のイベント会場の場であること	1	2	3	4	5
⑥その他	[]				

問10 中学校との関わりについて、あなたが継続的に協力できることは何ですか？

あてはまる番号 すべて に○をつけてください。（保護者、先生などへのサポートを含む）

※ 3～8は授業の中で行うことを想定しています。

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートすること
2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力すること
3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援すること
4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えること
5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援すること
6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をすること
7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をすること
8. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること
9. 地域の方が PTA 活動への協力の依頼があれば参加してくれること
10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと
11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること
12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること
13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
16. 特になし

問 10-1 中学校への関わりについて、あなたが継続的に協力できることを具体的にお答えください。

問 11 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

1. いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
2. ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
3. 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
4. その他の意見

問 11－1 問 11 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

問 12 もしも、今、子どもたちが通学している中学校が統合され、廃校、休校となった場合、あなたはどうしますか。あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

※ 通学手段は確保されているものとします。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 今まで通り住み続ける | 2. 町内の学校の近くに転居する |
| 3. 町外の学校の近くに転居する | 4. どうするかわからない |

問 12－1 問 12 について、自由にご意見をご記入ください。

【中学校別の生徒数の将来推計について】

中学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	84	83	167	83	88	171	56	55	111	61	62	123
2年	85	96	181	90	70	160	75	69	144	64	62	126
3年	96	83	179	90	90	180	74	76	150	55	73	128
計	265	262	527	263	248	511	205	200	405	180	197	377

永平寺町の中学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**28%減少**することが予想されています。

松岡中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	44	51	95	49	58	107	40	42	82	45	45	90
2年	51	59	110	52	46	98	46	47	93	47	45	92
3年	54	45	99	46	48	94	50	39	89	43	52	95
計	149	155	304	147	152	299	136	128	264	135	142	277

永平寺中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	27	17	44	24	23	47	13	6	19	9	10	19
2年	28	23	51	22	14	36	18	14	32	10	10	20
3年	34	26	60	32	33	65	19	23	42	10	10	20
計	89	66	155	78	70	148	50	43	93	29	30	59

上志比中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	13	15	28	10	7	17	3	7	10	7	7	14
2年	6	14	20	16	10	26	11	8	19	7	7	14
3年	8	12	20	12	9	21	5	14	19	2	11	13
計	27	41	68	38	26	64	19	29	48	16	25	41

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している生徒がいるため、平成31年度の生徒数の実数と推計値には差があります。

問 13 コロナ禍の中の学校教育に対して、どのようなことを希望されますか。ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

問 14 最後に、学校教育全般に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

切手を貼らずに、2月19日（金）までにポストに投函してください。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (小学校教員用)

調査ご協力のお願い

日ごろから、町教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、永平寺町では、少子化に伴い、地域差はあるものの、少しずつ各学校の小規模化が進んでいます。少子高齢化や高度情報化など、社会情勢の変化が教育環境にもさまざまな影響を及ぼすことが全国的に懸念されている中、町では、将来にわたって質の高い教育を維持するため、「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設立し、永平寺町内の小中学校のあり方について、(1)望ましい教育環境のあり方、(2)地域と連携した学校づくりのあり方、の2つの事項を諮問し、答申をまとめていただくこととしました。

このアンケートは、「これからの永平寺町の学校教育がどうあってほしいか」などについて、教員のみなさまのご意見を広くお聞きし、答申をまとめる際の参考とさせていただくものであり、小中学校の再編を前提に実施するものではありません。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、町内小学校の全教員を対象にお送りしています。
2. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、それぞれの学校でとりまとめて、学校教育課へ2月19日(金)までにご提出ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

◆調査に関するお問い合わせ先◆
永平寺町教育委員会 学校教育課
電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



ご記入者様（あなた）についてお聞きします。

問 1 ご記入者様（あなた）の年齢をご記入ください。

あなた（ご記入者様）の年齢	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代以上
---------------	--------	--------	--------	----------

問 2 あなたが勤務している学校について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 松岡小学校	2. 吉野小学校	3. 御陵小学校
4. 志比小学校	5. 志比南小学校	6. 志比北小学校
7. 上志比小学校		

小学校教育についてお聞きします。

問 3 以下の項目は、どれも重要な事項ですが、これからの小学校教育で、特に重要だと思うことは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること	2. 確かな学力を身につけること
3. 自己肯定感を高めること	4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること	10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	12. 少人数でも安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育※や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと

※メディアリテラシー教育…メディアが発信する情報を読み取り、自分の意見を発信する能力を育む教育のこと

問 3 - 1 問 3 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

--

問 4 現在の小学校教育の各項目の達成状況について、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	十分に できている	だいたい できている	普通	あまり できてい ない	ほとんど できてい ない
①社会のマナーやルールを身につけること	1	2	3	4	5
②確かな学力を身につけること	1	2	3	4	5
③自己肯定感を高めること	1	2	3	4	5
④環境や平和の大切さについて学ぶこと	1	2	3	4	5
⑤自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	1	2	3	4	5
⑥他校との交流を深めること	1	2	3	4	5
⑦集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	1	2	3	4	5
⑧地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること	1	2	3	4	5
⑨地域の方々との交流により豊かな体験ができること	1	2	3	4	5
⑩慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること	1	2	3	4	5
⑪どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	1	2	3	4	5
⑫少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること	1	2	3	4	5
⑬ICT教育の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	1	2	3	4	5
⑭外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること	1	2	3	4	5
⑮校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	1	2	3	4	5
⑯人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと	1	2	3	4	5

問 4 - 1 問 4 の項目以外で感じていることがあればご記入ください。

【十分にできていること】

【まだ挑戦が必要なこと】

--

問 5 地域における小学校の役割について、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。 ①～⑤の項目以外で学校の役割だと思ふことがあれば、⑥その他にご記入ください。

項 目	そう思う	やや そう思う	普通	そう 思わない	全く 思わない
①地域の歴史、文化の中核的な存在であること	1	2	3	4	5
②子どもたちとの交流ができる施設であること	1	2	3	4	5
③避難所など、地域の防災拠点であること	1	2	3	4	5
④地域社会のつながりや支えあいのセンター的存在であること	1	2	3	4	5
⑤地域のイベント会場の場であること	1	2	3	4	5
⑥その他					

問 6 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

--

問 7 地域による児童・学校へのサポートについて期待することは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

※3～8は授業の中で行うことを想定しています

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること 2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること 3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること 4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること 5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること 6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること 7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること 8. 地域の方が P T A 活動への協力の依頼があれば参加してくれること 9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること 10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと 11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること 12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること 13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
--

- 14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
- 15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
- 16. 特になし

問 7 - 1 問 6 の項目以外で地域に期待することがあれば、ご記入ください。

問 8 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、お考えをお聞かせください。

- 1. いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい。
- 2. ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う。
- 3. 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない。
- 4. その他の意見

問 8 - 1 問 8 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

【小学校別の生徒数の将来推計について】

小学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	67	72	139	69	64	133	58	60	118	56	56	112
2年	78	83	161	54	55	109	60	62	122	57	57	114
3年	82	86	168	74	70	144	62	62	124	57	59	116
4年	87	71	158	72	76	148	53	73	126	57	60	117
5年	88	88	176	70	73	143	64	68	132	58	61	119
6年	84	77	161	79	84	163	71	65	136	58	61	119
計	486	477	963	418	422	840	368	390	758	343	354	697

永平寺町の小学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**27%減少**することが予想されています。

松岡小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	21	29	50	28	32	60	31	33	64	30	32	62
2年	23	39	62	26	35	61	31	34	65	30	33	63
3年	29	36	65	32	31	63	31	34	65	30	33	63
4年	34	28	62	34	27	61	31	43	74	30	34	64
5年	32	26	58	21	30	51	33	39	72	31	34	65
6年	39	33	72	23	41	64	28	33	61	31	34	65
計	178	191	369	164	196	360	185	216	401	182	200	382

吉野小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	9	6	15	7	5	12	5	4	9	5	4	9
2年	5	5	10	5	2	7	5	4	9	5	4	9
3年	9	12	21	5	6	11	6	4	10	5	4	9
4年	6	7	13	5	3	8	2	4	6	5	4	9
5年	10	11	21	9	6	15	5	2	7	5	4	9
6年	5	9	14	5	5	10	7	5	12	5	4	9
計	44	50	94	36	27	63	30	23	53	30	24	54

御陵小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	11	8	19	9	7	16	8	7	15	8	6	14
2年	10	7	17	8	5	13	8	7	15	8	6	14
3年	10	9	19	7	11	18	8	7	15	8	6	14
4年	10	12	22	9	10	19	8	5	13	8	6	14
5年	2	11	13	11	8	19	10	5	15	8	7	15
6年	12	10	22	10	7	17	9	7	16	8	7	15
計	55	57	112	54	48	102	51	38	89	48	38	86

志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	8	8	16	9	7	16	4	6	10	4	5	9
2年	13	16	29	4	3	7	5	7	12	4	5	9
3年	11	12	23	12	7	19	5	7	12	4	6	10
4年	14	6	20	5	12	17	7	9	16	4	6	10
5年	17	17	34	8	8	16	2	7	9	4	6	10
6年	10	14	24	13	15	28	9	7	16	4	6	10
計	73	73	146	51	52	103	32	43	75	24	34	58

志比南小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	10	5	15	3	5	8	3	2	5	3	2	5
2年	10	4	14	7	3	10	3	2	5	3	2	5
3年	8	7	15	4	5	9	4	2	6	3	2	5
4年	5	5	10	9	7	16	1	0	1	3	2	5
5年	12	9	21	11	5	16	7	4	11	3	2	5
6年	7	5	12	11	4	15	3	5	8	3	2	5
計	52	35	87	45	29	74	21	15	36	18	12	30

志比北小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	2	6	4	1	5	1	1	2	1	1	2
2年	3	0	3	1	0	1	1	1	2	1	1	2
3年	4	3	7	2	2	4	1	1	2	1	1	2
4年	3	3	6	5	3	8	2	1	3	1	1	2
5年	3	5	8	6	2	8	0	1	1	1	1	2
6年	2	1	3	4	0	4	6	1	7	1	1	2
計	19	14	33	22	8	30	11	6	17	6	6	12

上志比小学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	4	14	18	9	7	16	6	7	13	5	6	11
2年	14	12	26	3	7	10	7	7	14	6	6	12
3年	11	7	18	12	8	20	7	7	14	6	7	13
4年	15	10	25	5	14	19	2	11	13	6	7	13
5年	12	9	21	4	14	18	7	10	17	6	7	13
6年	9	5	14	13	12	25	9	7	16	6	7	13
計	65	57	122	46	62	108	38	49	87	35	40	75

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している児童・生徒がいるため、平成31年度の児童・生徒数の実数と推計値とには差があります。

問 9 将来的に児童数が減少した際に町の対応として望ましいことを項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の小学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 9－1 問 8 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

--

問 10 1 学級の児童数・1 学年の児童数について、あなたが最低限必要だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1 学級 最低 （ ） 人	1 学年 最低 （ ） 人
------------------------------------	------------------------------------

問 10－1 その理由をご記入ください。

--

問 11 児童の学習面や生活面、教員の配置や PTA 活動などから見て適正だと思う 1 学級の児童数・1 学年の児童数を、それぞれご記入ください。

1 学級 （ ～ ） 人	1 学年 （ ～ ） 人
--	--

問 11－1 その理由をご記入ください。

--

問 12 最後に、検討委員会への諮問事項である、(1) 望ましい教育環境のあり方、(2) 地域と連携した学校づくりのあり方、並びに、これからの永平寺町の学校教育・学校運営に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

(1) 望ましい教育環境のあり方について
(2) 地域と連携した学校づくりのあり方について
これからの永平寺町の学校教育・学校運営について

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

それぞれの学校でとりまとめて、学校教育課へ2月19日(金)までにご提出ください。

永平寺町学校のあり方に関するアンケート調査 (中学校教員用)

調査ご協力のお願い

日ごろから、町教育行政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、永平寺町では、少子化に伴い、地域差はあるものの、少しずつ各学校の小規模化が進んでいます。少子高齢化や高度情報化など、社会情勢の変化が教育環境にもさまざまな影響を及ぼすことが全国的に懸念されている中、町では、将来にわたって質の高い教育を維持するため、「永平寺町学校のあり方検討委員会」を設立し、永平寺町内の小中学校のあり方について、(1)望ましい教育環境のあり方、(2)地域と連携した学校づくりのあり方、の2つの事項を諮問し、答申をまとめていただくこととしました。

このアンケートは、「これからの永平寺町の学校教育がどうあってほしいか」などについて、教員のみなさまのご意見を広くお聞きし、答申をまとめる際の参考とさせていただくものであり、小中学校の再編を前提に実施するものではありません。

回答はすべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年1月 永平寺町

【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、町内中学校の全教員を対象にお送りしています。
2. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、
それぞれの学校でとりまとめて、学校教育課へ2月19日(金)までにご提出ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

◆調査に関するお問い合わせ先◆

永平寺町教育委員会 学校教育課

電話：0776-61-3937 FAX：0776-61-3938



ご記入者様（あなた）についてお聞きします。

問 1 ご記入者様（あなた）の年齢をご記入ください。

あなた（ご記入者様）の年齢	1. 20代	2. 30代	3. 40代	4. 50代以上
---------------	--------	--------	--------	----------

問 2 あなたが勤務している学校について、あてはまる番号に○をつけてください。

8. 松岡中学校	9. 永平寺中学校	10. 上志比中学校
----------	-----------	------------

中学校についてお聞きします。

問 3 以下の項目は、どれも重要な事項ですが、これからの中学校教育で、特に重要だと思うことは何ですか？あてはまる番号 3つ に○をつけてください。

1. 社会のマナーやルールを身につけること
2. 確かな学力※を身につけること
3. 自己肯定感を高めること
4. 環境や平和の大切さについて学ぶこと
5. 自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと
6. 他校との交流を深めること
7. 集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること
8. 地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること
9. 地域の方々との交流により豊かな体験ができること
10. 慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること
11. どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること
12. 少人数でも安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること
13. ICT 教育の環境を整備して、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育※や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること
14. 外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること
15. 校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること
16. 人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと
17. 部活動を通して豊かな経験をし、成長すること

※メディアリテラシー教育…メディアが発信する情報を読み取り、自分の意見を発信する能力を育む教育のこと

問 3 - 1 問 3 の項目以外で重要視していることがあれば、ご記入ください。

--

問 4 現在の中学校教育の各項目の達成状況について、あてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	十分に できている	だいたい できている	普通	あまり できていない	ほとんど できていない
①社会のマナーやルールを身につけること	1	2	3	4	5
②確かな学力を身につけること	1	2	3	4	5
③自己肯定感を高めること	1	2	3	4	5
④環境や平和の大切さについて学ぶこと	1	2	3	4	5
⑤自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと	1	2	3	4	5
⑥他校との交流を深めること	1	2	3	4	5
⑦集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること	1	2	3	4	5
⑧地域の伝統や文化、歴史に関する教育を身につけること	1	2	3	4	5
⑨地域の方々との交流により豊かな体験ができること	1	2	3	4	5
⑩慈しみの心を育てるなど、道徳心を身につけること	1	2	3	4	5
⑪どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること	1	2	3	4	5
⑫少人数で安定した集団で学び、丁寧な教育を受けること	1	2	3	4	5
⑬ICT教育の環境を整備し、プログラミング教育やオンライン方式の学習などの情報教育（メディアリテラシー教育や情報モラルに関する指導を含む）の推進を図ること	1	2	3	4	5
⑭外国の人との交流を通して多様性を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、日本の文化のすばらしさについても理解すること	1	2	3	4	5
⑮校舎、教室の設備の充実、図書室の機能強化（新聞の閲覧、図書の充実、パソコン環境の整備 など）が図られていること	1	2	3	4	5
⑯人権感覚を高め、他人への思いやりの心を持つこと	1	2	3	4	5
⑰部活動を通して豊かな経験をし、成長すること	1	2	3	4	5

問 4－1 問 4 の項目以外で感じていることがあればご記入ください。

【十分にできていること】

--

【まだ挑戦が必要なこと】

--

問 5 地域における中学校の役割について、項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

①～⑤の項目以外で学校の役割だと思ふことがあれば、⑥その他にご記入ください。

項 目	そう思う	やや そう思う	普通	そう 思わない	全く 思わない
①地域の歴史、文化の中核的な存在であること	1	2	3	4	5
②子どもたちとの交流ができる施設であること	1	2	3	4	5
③避難所など、地域の防災拠点であること	1	2	3	4	5
④地域社会のつながりや支えあいのセンター的存在であること	1	2	3	4	5
⑤地域のイベント会場の場であること	1	2	3	4	5
⑥その他					

問 6 子どもたちが、地域の特色や課題について探究し、学びあうために、永平寺町としてどのような取組が必要か、アイデアがあれば、ご記入ください。

--

問 7 地域による生徒・学校へのサポートについて期待することは何ですか？あてはまる番号 3 つ に○をつけてください。

※3～8は授業の中で行うことを想定しています

1. 地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること 2. 地域の方が授業や学校行事へ参加、協力してくれること 3. 地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること 4. 地域の方が社会のルールや道徳心を教えてくれること 5. 地域の方が職場や就業に関わる体験活動を支援してくれること 6. 地域の方が運動やスポーツなどの指導補助をしてくれること 7. 地域の方が最先端技術への体験や活動支援をしてくれること 8. 地域の方が P T A 活動への協力の依頼があれば参加してくれること 9. 町が地域の大学との連携を深めて、「主体的で対話的な深い学び」を推進すること 10. 町が塾などに行けない子どもたちへの支援として、休日や放課後などに宿題などの学習支援を行うこと
--

11. 学校と地域が連携して、地域に開かれた教育課程の中で、主体的に子どもたちが祭りや美化活動に参加すること
12. 子どもたちが地域の特色や課題について協働探究を長期にわたり実践すること
13. 子どもたちが地域のためにボランティア活動などに積極的に参加すること
14. 子どもたちが地域の自然、歴史、文化などについて学び続け、地域に発信すること
15. 子どもたちが地域の伝統的な行事や活動に、担い手として積極的に参加すること
16. 特になし

問 7 - 1 **問 6 の項目以外**で地域に期待することがあれば、ご記入ください。

問 8 これからの教育においては、「主体的で対話的で深い学び」が求められ、そのためには、多様な話し合い活動が欠かせません。

そこで、子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて、お考えをお聞かせください。

1. いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい。
2. ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う。
3. 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない。
4. その他の意見

問 8 - 1 問 7 で「4. その他の意見」を選んだ方は、自由にご意見をご記入ください。

【中学校別の生徒数の将来推計について】

中学校全体

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	84	83	167	83	88	171	56	55	111	61	62	123
2年	85	96	181	90	70	160	75	69	144	64	62	126
3年	96	83	179	90	90	180	74	76	150	55	73	128
計	265	262	527	263	248	511	205	200	405	180	197	377

永平寺町の中学生全体では、平成31年度（令和元年度）に比べ令和15年度では**28%減少**することが予想されています。

松岡中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	44	51	95	49	58	107	40	42	82	45	45	90
2年	51	59	110	52	46	98	46	47	93	47	45	92
3年	54	45	99	46	48	94	50	39	89	43	52	95
計	149	155	304	147	152	299	136	128	264	135	142	277

永平寺中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	27	17	44	24	23	47	13	6	19	9	10	19
2年	28	23	51	22	14	36	18	14	32	10	10	20
3年	34	26	60	32	33	65	19	23	42	10	10	20
計	89	66	155	78	70	148	50	43	93	29	30	59

上志比中学校

	平成31年度			令和5年度			令和10年度			令和15年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	13	15	28	10	7	17	3	7	10	7	7	14
2年	6	14	20	16	10	26	11	8	19	7	7	14
3年	8	12	20	12	9	21	5	14	19	2	11	13
計	27	41	68	38	26	64	19	29	48	16	25	41

【推計方法】

住民基本台帳（平成31年4月1日時点）を使用したコーホート変化率法（小学校区別を合計して算出）

※他の学区に通学している児童・生徒がいるため、平成31年度の児童・生徒数の実数と推計値とには差があります。

問 9 将来的に生徒数が減少した際に町の対応として希望することを項目ごとにあてはまる番号 1 つ に○をつけてください。

項 目	希望する	やや希望	どちらでもない	あまり希望しない	希望しない
①学校内で世代を超えた交流・学習を盛んにする	1	2	3	4	5
②町内の中学校間交流・学習連携を盛んにする	1	2	3	4	5
③小中学校の垣根を超えた交流・学習連携を盛んにする（ICTの活用を含む）	1	2	3	4	5
④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設（プールなど）を相互に活用することでつながりを盛んにする	1	2	3	4	5
⑥他市町村の学校や他の地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5
⑦海外の学校や地域との交流・学習を盛んにする（ICTの活用含む）	1	2	3	4	5

問 9－1 問 8 の項目以外で希望することがあれば、ご記入ください。

--

問10 1学級の生徒数・1学年の生徒数について、あなたが最低限必要だと思う人数を、それぞれご記入ください。

1学級 最低 （ ）人	1学年 最低 （ ）人
----------------------------------	----------------------------------

問10－1 その理由をご記入ください。

--

問 11 生徒の学習面や生活面、教員の配置や PTA 活動などから見て適正だと思う 1学級の生徒数・1学年の生徒数を、それぞれご記入ください。

1学級 （ ～ ）人	1学年 （ ～ ）人
--	--

問 11－1 その理由をご記入ください。

--

問 12 最後に、検討委員会への諮問事項である、(1) 望ましい教育環境のあり方、(2) 地域と連携した学校づくりのあり方、並びに、これからの永平寺町の学校教育・学校運営に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

(1) 望ましい教育環境のあり方について
(2) 地域と連携した学校づくりのあり方について
これからの永平寺町の学校教育・学校運営について

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入がすみましたら、お手数ですが、

それぞれの学校でとりまとめて、学校教育課へ2月19日(金)までにご提出ください。

アンケート調査結果【参考】

児童・生徒が望む教育を受けられる環境について

小学校や中学校に通う児童・生徒がこれから学校でやってみたいことについて、どの項目もやってみたいと考える割合(「ぜひやってみたい」と「やってみたい」の合計)が50%を超えています。

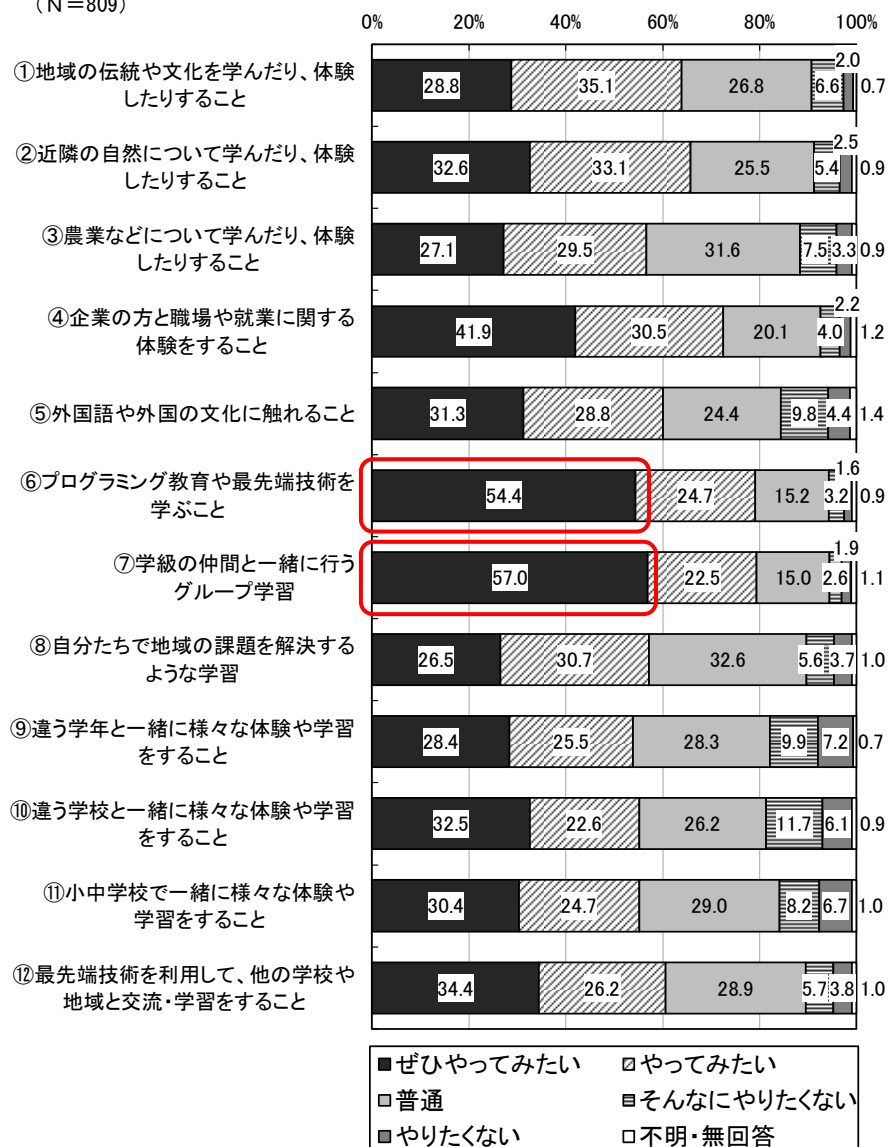
特に、プログラミング教育や最先端技術を学ぶこと、学級の仲間と一緒にいるグループ学習については、ぜひやってみたいという回答が50%を超えています。

一方で、小学校教員、中学校教員の調査をみると、ICT 教育の環境の整備が十分にできているという回答は約5~14%となっています。

子どもたちがやってみたいと考えているニーズに対し、しっかりと応えられる環境を整備していくことが重要です。

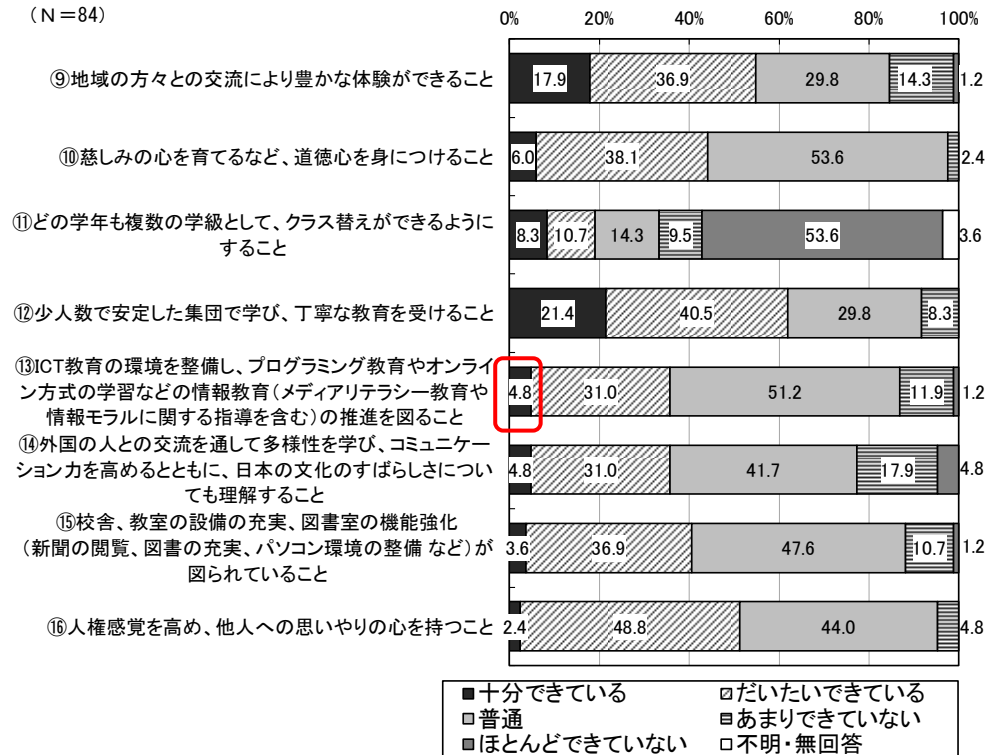
これから学校でやってみたいこと (小中学生調査)

(N=809)



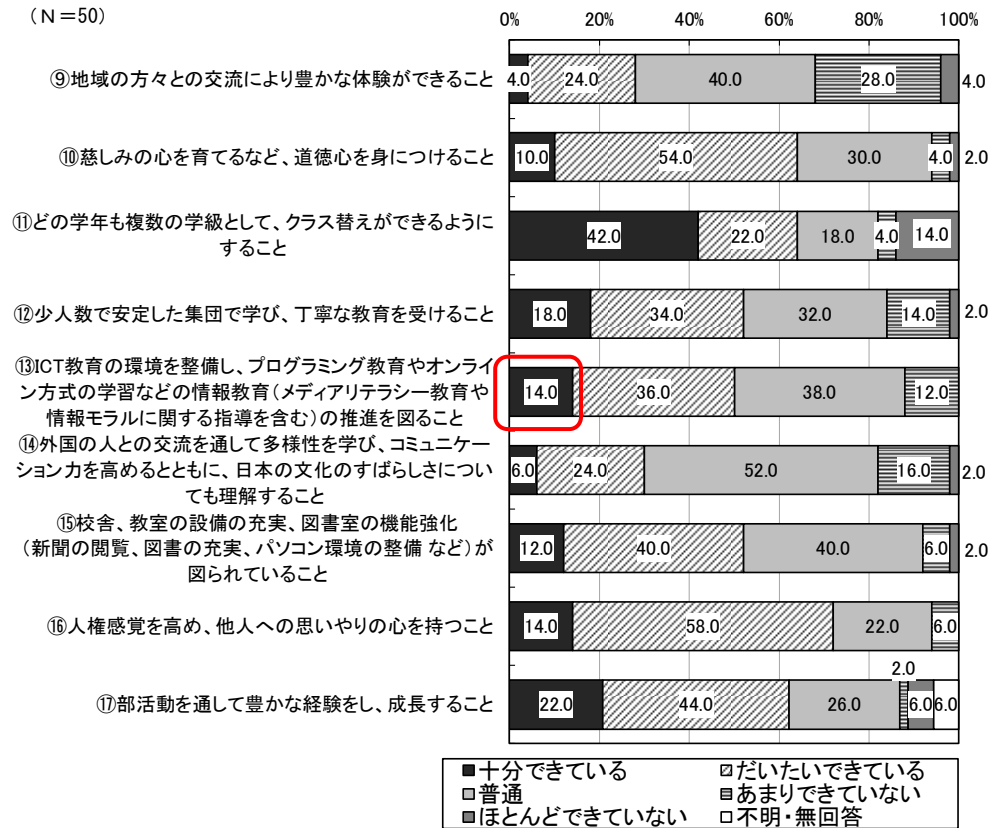
小学校教育の各項目の達成状況（小学校教員調査）

(N=84)



中学校教育の各項目の達成状況（中学校教員調査）

(N=50)



小学校との関わりで地域に期待すること

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、小学校教員のすべての調査において、小学生の子どもたちと地域の関わりについて、登下校の安全をサポートしてくれることを期待する人が多くなっています。

また、地域住民の調査において、小学校との関わりで継続的に協力できることで、登下校の安全をサポートすることという回答が 50%を超えています。



保護者、教員のニーズと地域住民にできることが一致しており、地域で子どもたちの安全をサポートしていくことが重要です。

また、小学校教員の調査では、地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれることを期待する人が 70%を超えています。

一方で、地域住民の調査において、地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援できると回答した人は 20%程度となっています。

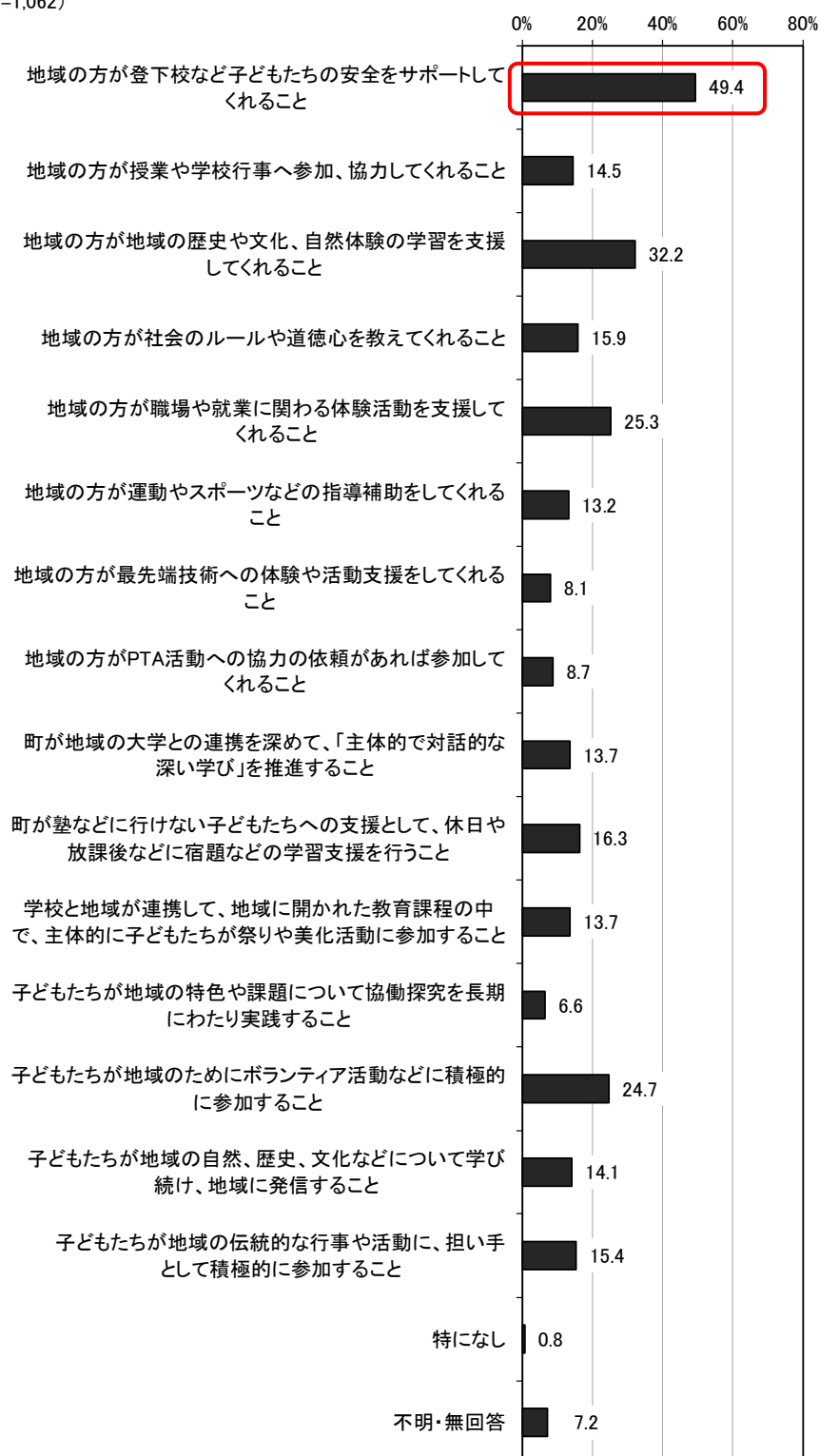


小学校のニーズに対し、地域で対応できる人が限られていることから、地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援できる人と学校をつなぐ取組を充実するとともに、これらの学習支援ができる人材を育成することが重要です。

ただし、このような取組をすべて教員が担うことは、業務の増加につながり、働き方改革に逆行することになります。学校と地域をつなぐコーディネーターの存在が必要であり、そのようなシステムづくりが求められます。

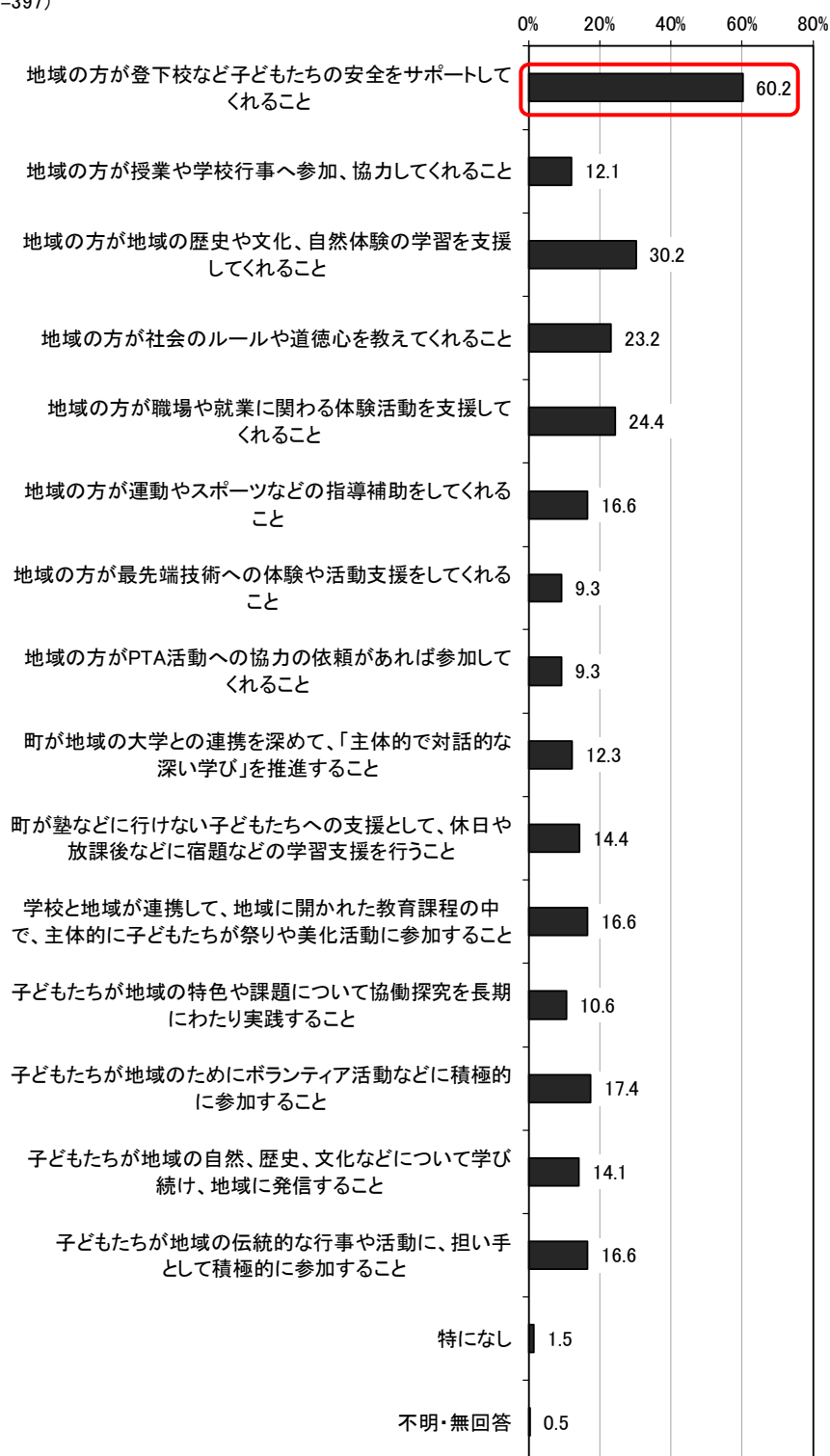
小学校との関わりで地域に期待すること（小中学生保護者調査）

(N=1,062)



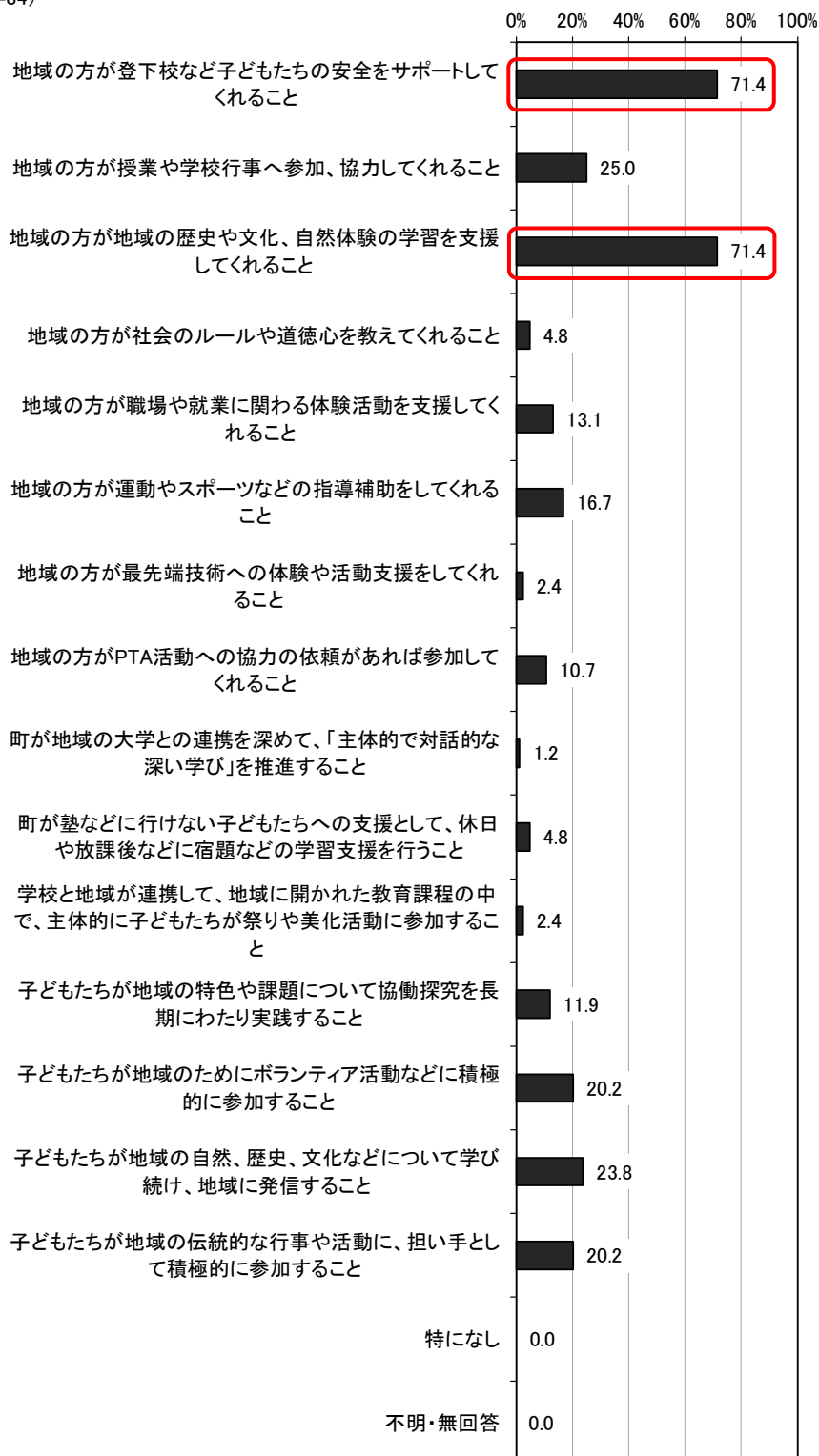
小学校との関わりで地域に期待すること（幼稚園・幼稚園保護者調査）

(N=397)



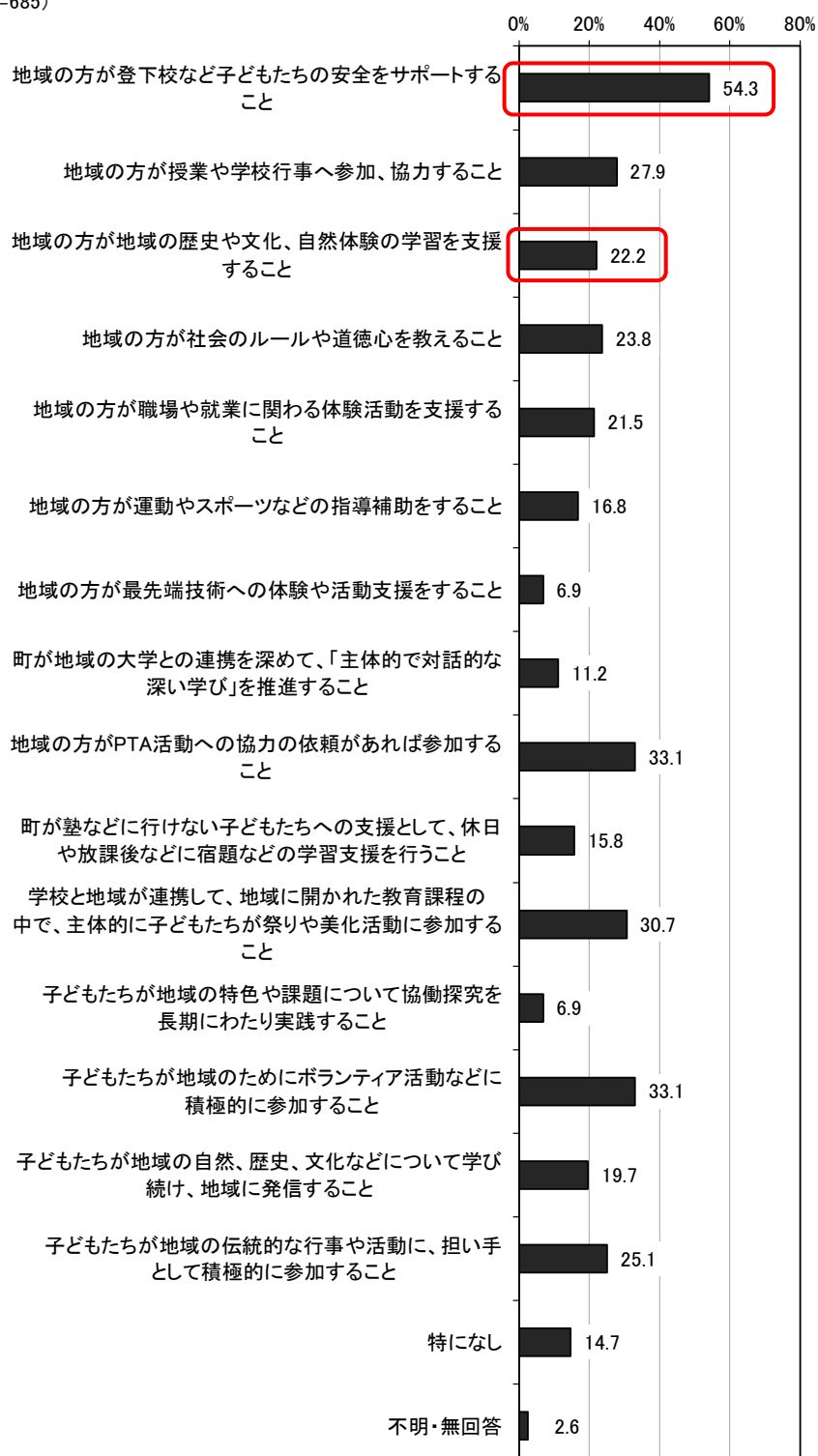
小学校との関わりで地域に期待すること（小学校教員調査）

(N=84)



小学校との関わりで地域に期待すること（地域住民）

(N=685)



中学校との関わりで地域に期待すること

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、中学校の教員のすべての調査において、中学生の子どもたちと地域の関わりについて、職場や就業に関わる体験活動の支援を期待する人が多くなっています。

一方で、地域住民の調査において、中学校との関わりで継続的に協力できることで、職場や就業に関わる体験活動を支援できると回答した人は 20%程度となっています。

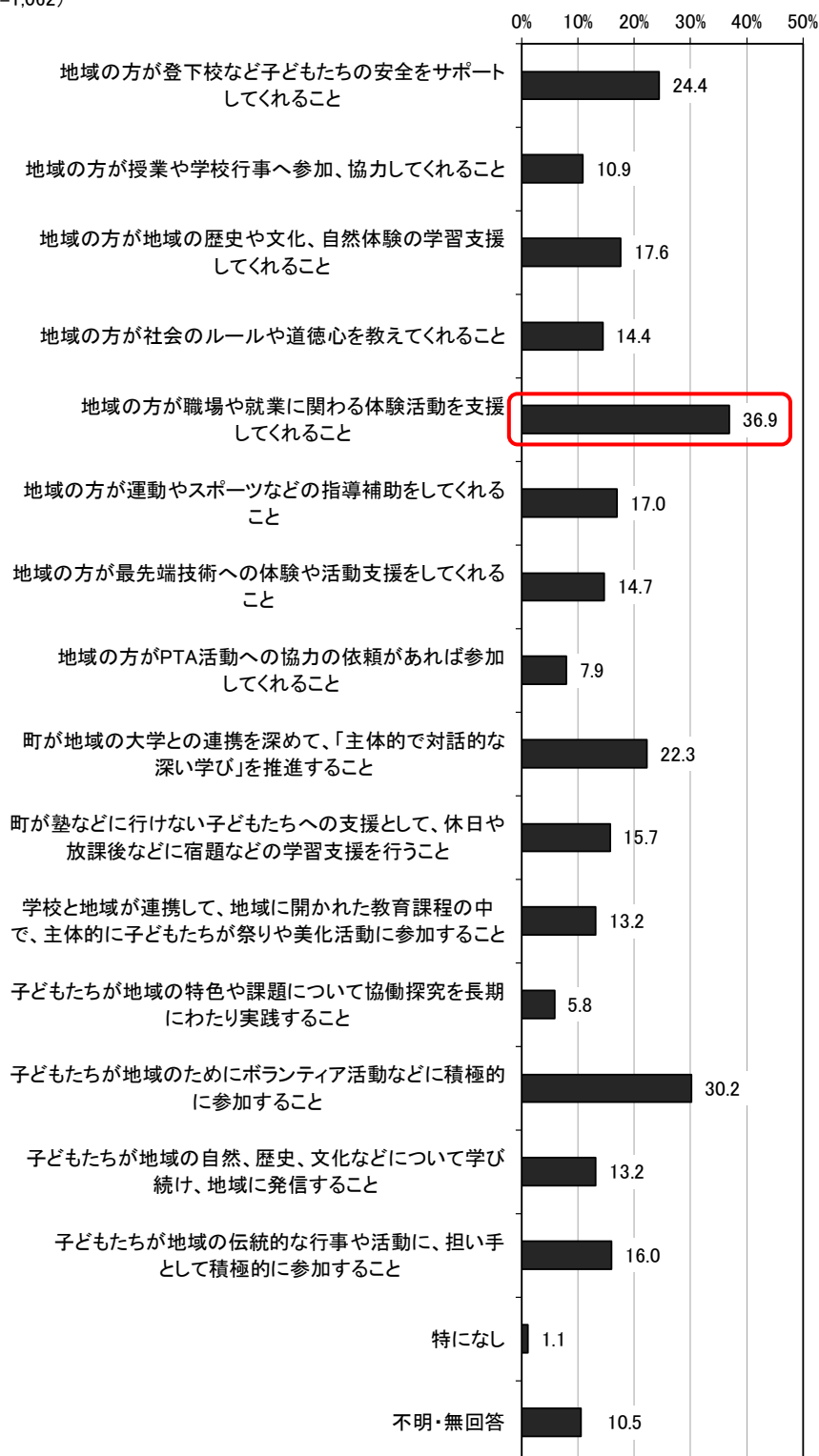


保護者や中学校のニーズに対し、地域で対応できる人が限られていることから、職場や就業に関わる体験活動を充実するとともに、これらの支援ができる人材を発掘・育成することが重要です。

このような取組をすべて教員が担うことは、業務の増加につながり、働き方改革に逆行することになります。学校と地域をつなぐコーディネーターの存在が必要であり、そのようなシステムづくりが求められます。

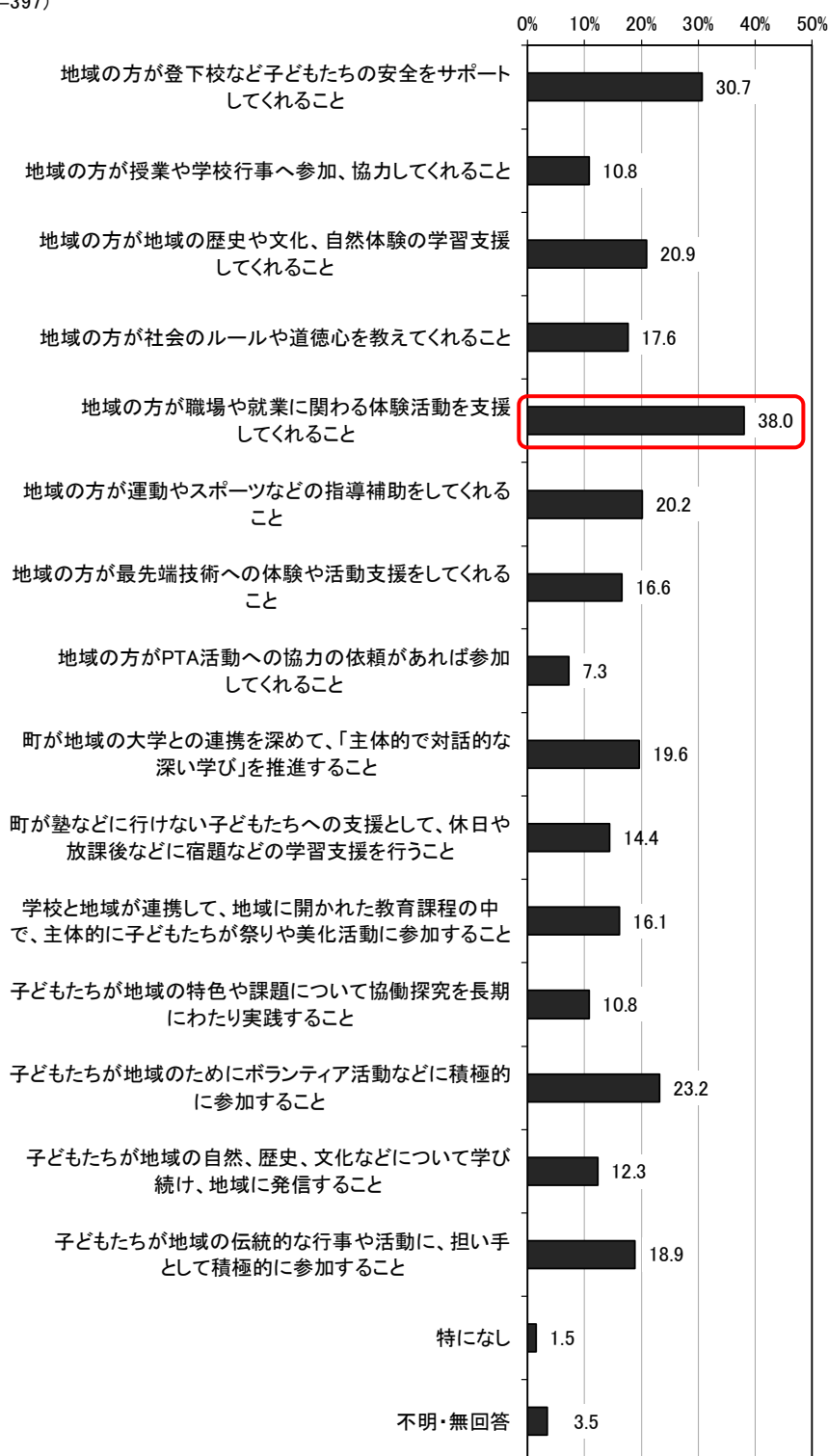
小学校との関わりで地域に期待すること（小中学生保護者調査）

(N=1,062)



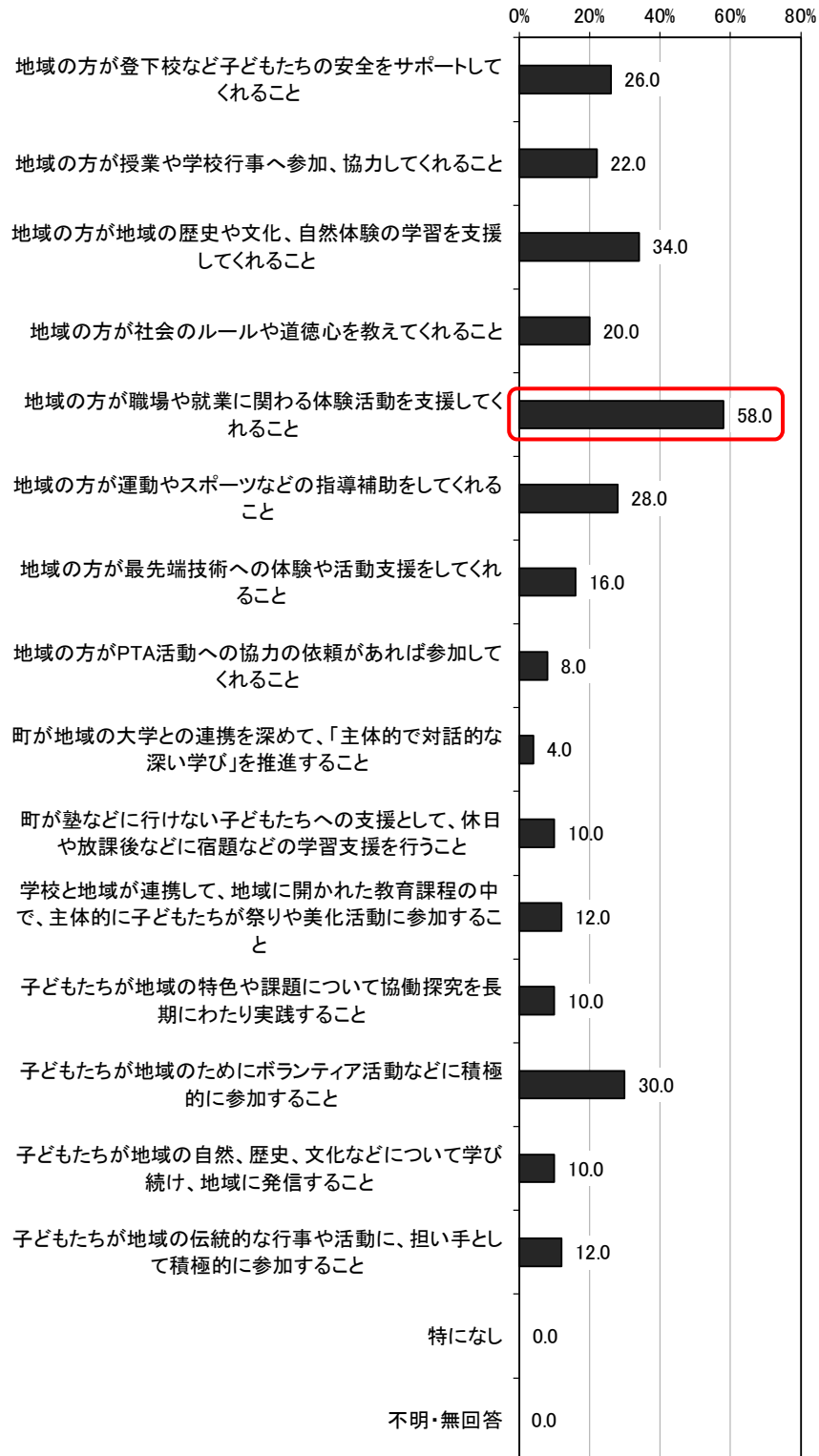
小学校との関わりで地域に期待すること（幼稚園・幼稚園保護者調査）

(N=397)



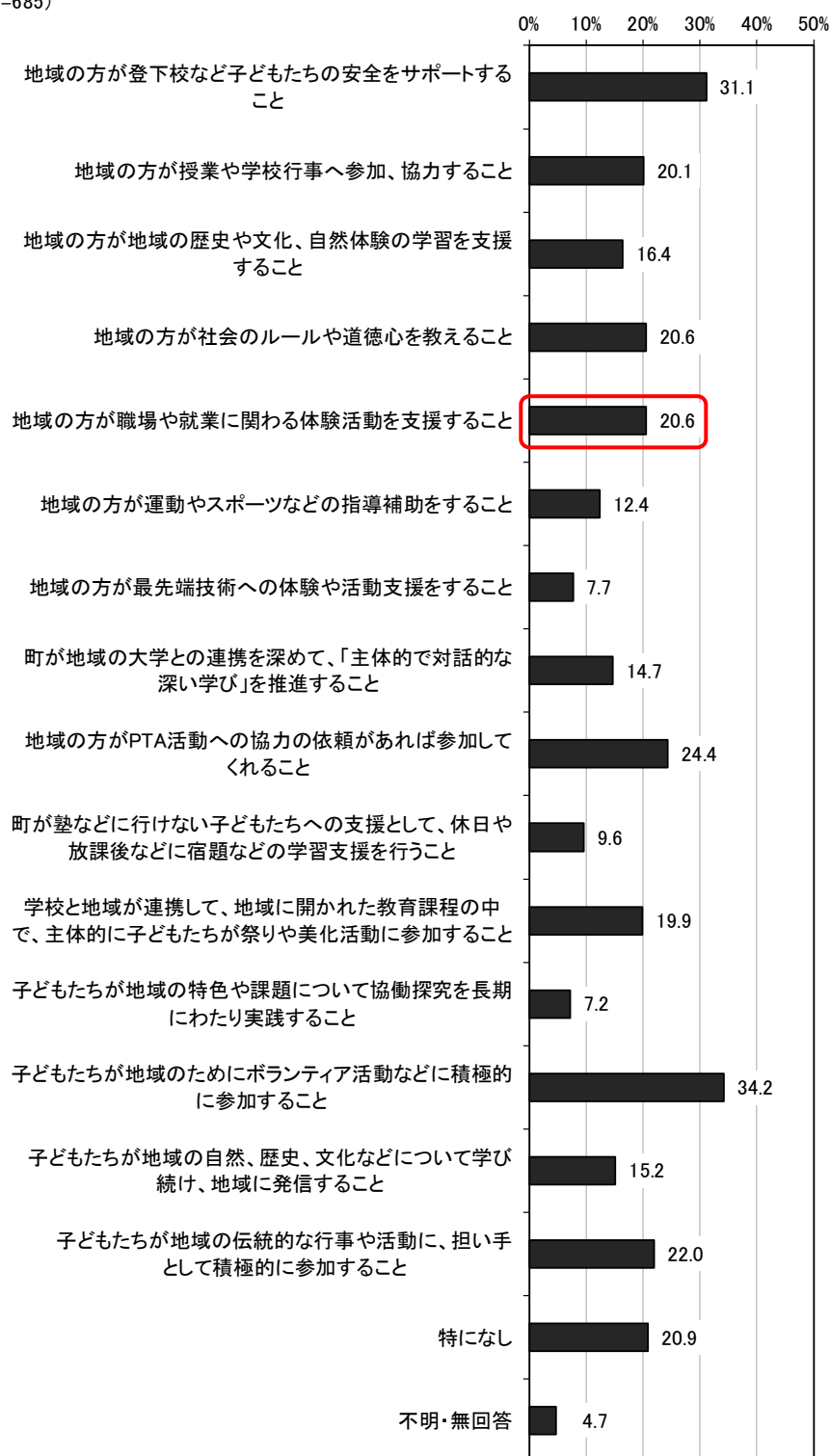
小学校との関わりで地域に期待すること（小学校教員調査）

(N=50)



小学校との関わりで地域に期待すること（地域住民）

(N=685)



他校との交流等について

小中学生保護者調査において、他校との交流について、他の項目と比べて満足度が低く、不満を感じる人が多くなっています。

また、小学校教員調査、中学校教員調査において、他校との交流ができていない(「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合計)という回答が 50%を超えています。



教員・保護者ともに、町全体での交流が課題だと考えており、積極的に対応していくことが重要です。

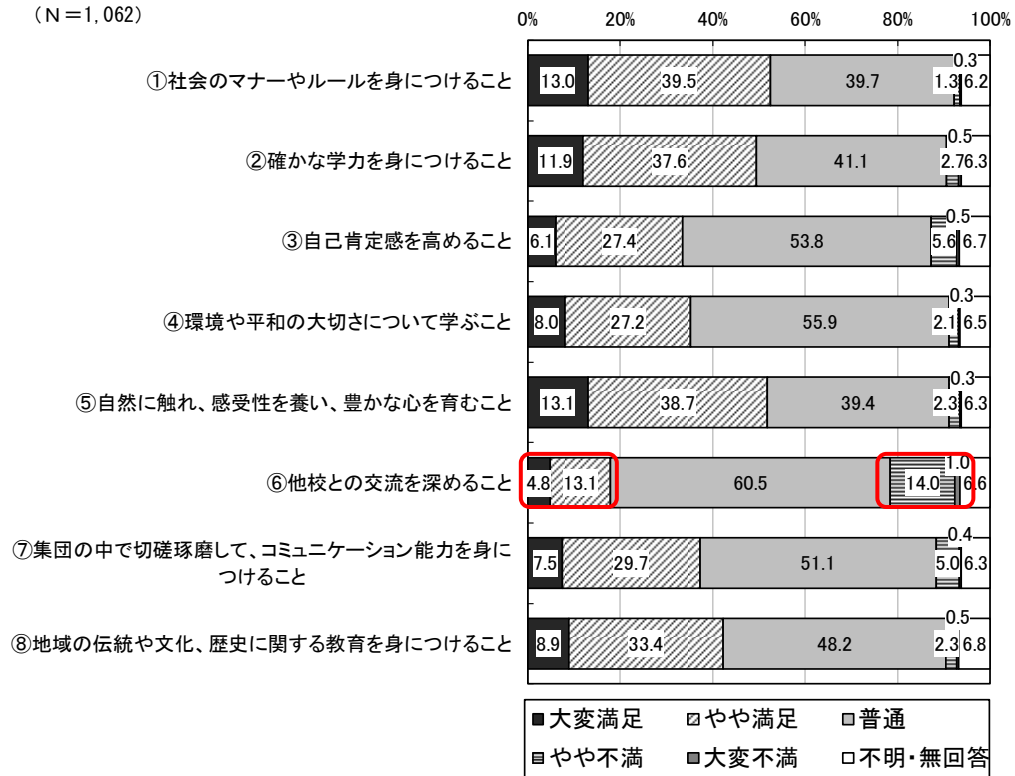
コーディネーターや人材バンク、予算的支援により町全体でカリキュラムをつくって、探究的なプロジェクト学習を協働で展開することが期待されます。

また、町内には自然、歴史、大学等、魅力的な資源・教材が豊富にあります。地域の人々は学校に対して協力的であり、地域の教育力として大きな資本となります。

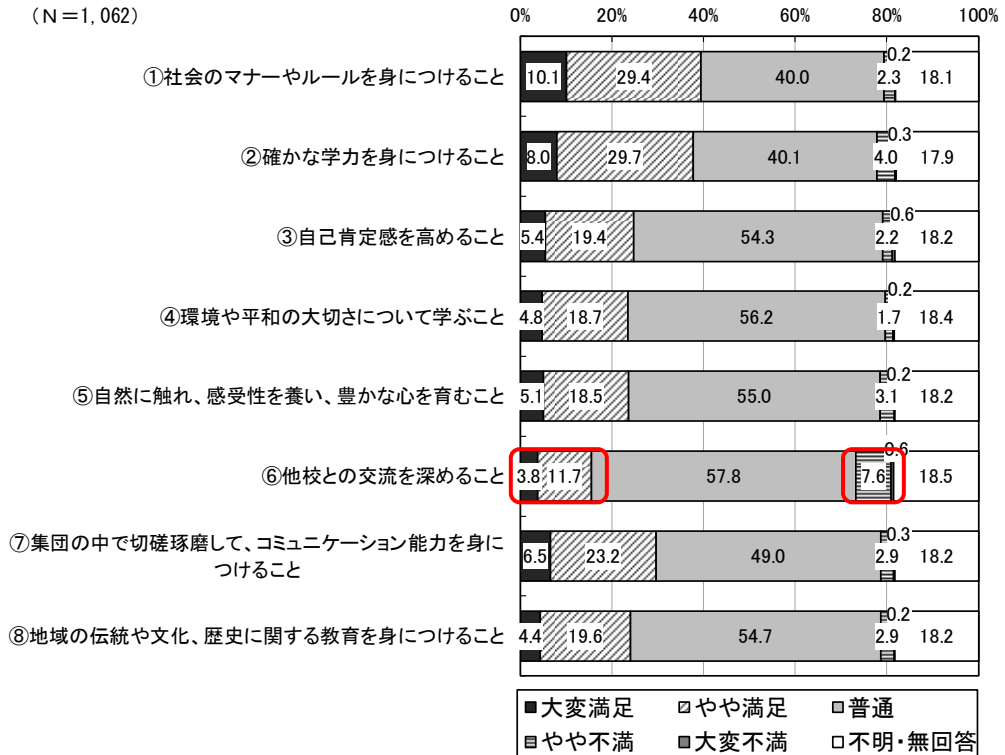
これらの地域資源、資本を活用し、旧町村のエリアを越えた取組、協働が必要です。ICT 等を活用することで、地域全体で学び合いが深まるよう、今後のカリキュラムを協働で開発していく必要があります。

他校と交流について（小中学生保護者調査）

< 小学校 >

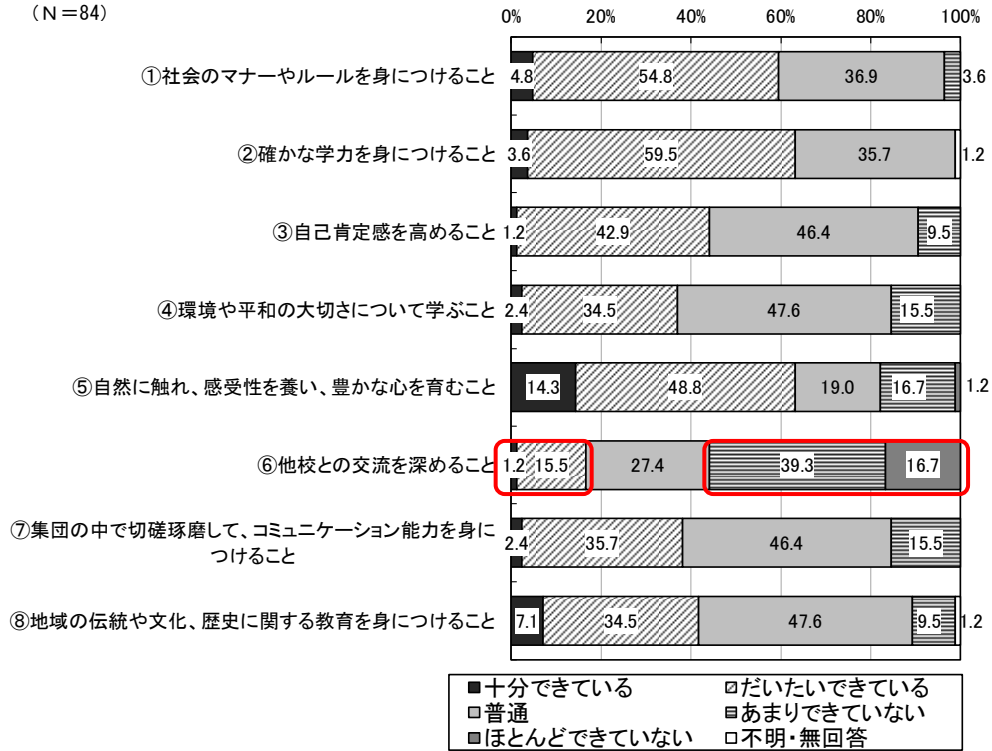


< 中学校 >



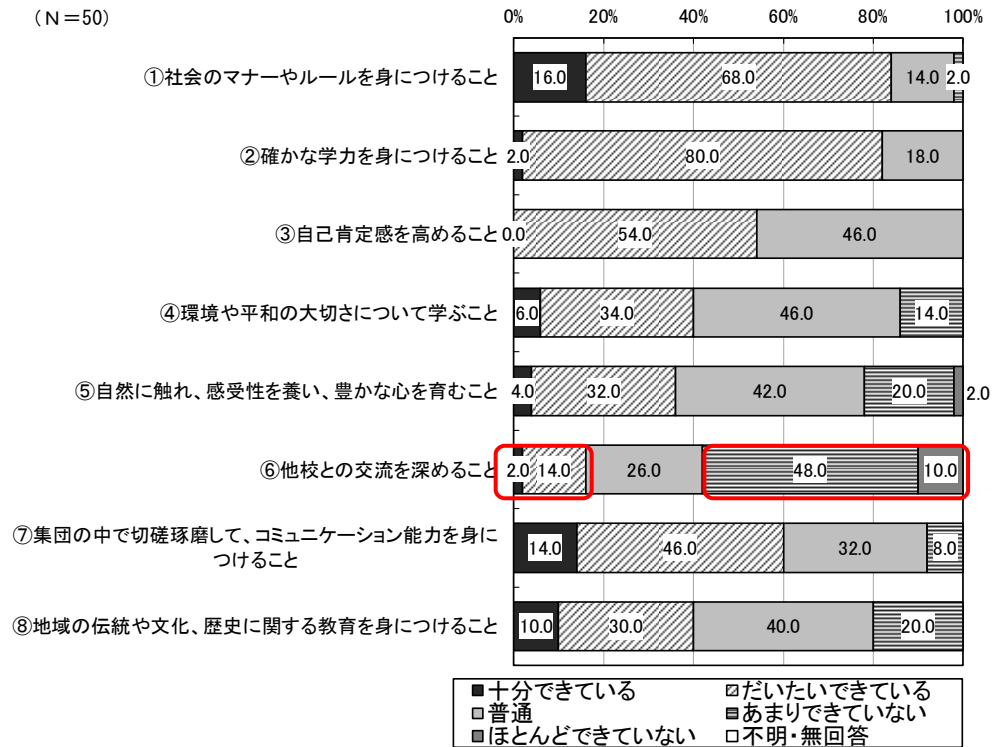
他校と交流について（小学校教員調査）

(N=84)



他校と交流について（中学校教員調査）

(N=50)



コロナ禍への対応について

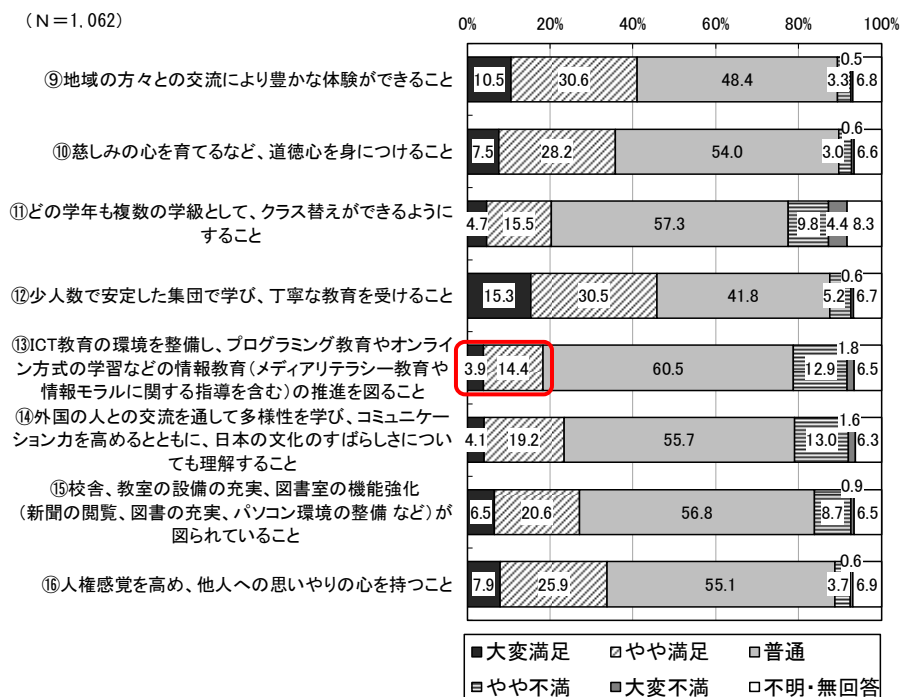
小中学生保護者調査において、ICT 教育環境の整備について満足度が低くなっており、ICT を活用し、リモートやオンライン型の授業ができる環境を整備する必要があります。



対面型の教育とのバランスが大切で、色々な状況に対応できる備えが必要です。
また、ICT の活用に当たっては、教員の研修も必要です。

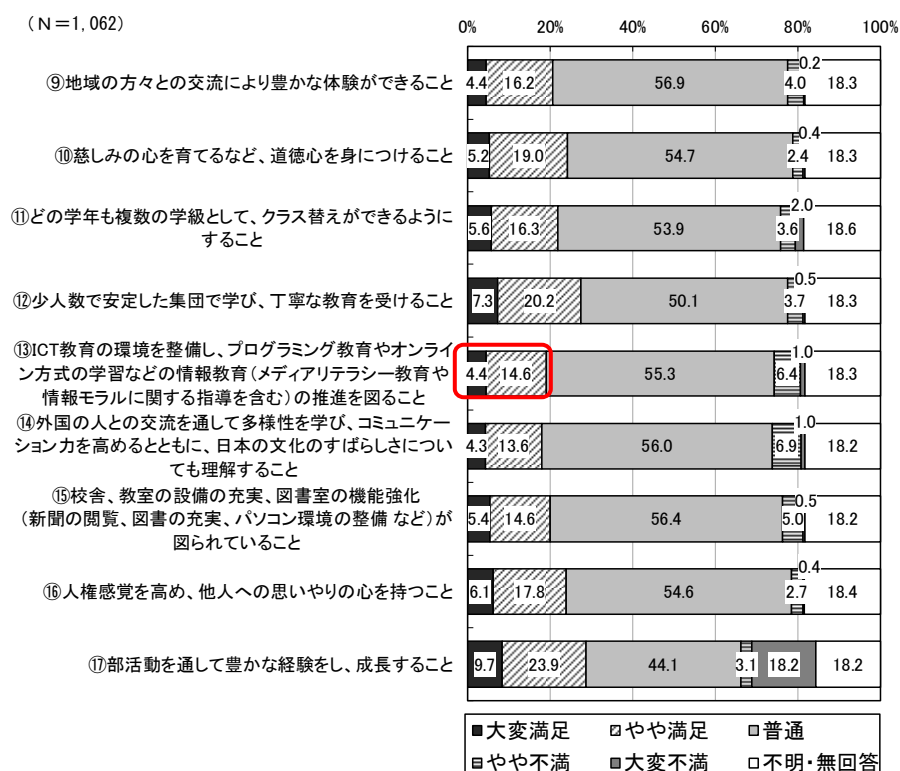
< 小学校 >

(N=1,062)



< 中学校 >

(N=1,062)



学級・学年の規模について

小学校について、1学級最低 10 人は必要で、20 人前後の人数が適正だと答える教員が多くなっています。

また、1学年の児童数について、20～30 人が適正だという回答が多く、約 60 人まで回答が広がっていることから、1学級 20 人前後で1学年が2～3の学級から成り立つことを適正と考える教員が多くなっています。

中学校について、1学級最低 20 人は必要で、20 人前後～30 人の人数が適正だと答える教員が多くなっています。

また、1学年の生徒数について、40～49 人が適正だという回答が多く、約 110 人前後まで回答が広がっていることから、1学級 30 人前後で1学年が3～4の学級から成り立つことを適正と考える教員が多くなっています。



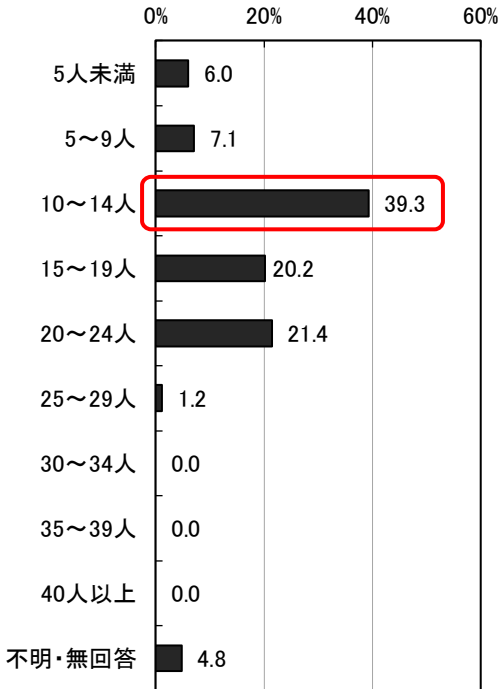
このような集団だと、部活動や委員会活動が充実する、クラス替えが可能になるという意見がありました。

こうした環境は、子どもたちの成長や学びを支えるだけでなく、多様な教員の集団の中で日々学び続けるということは、教員の成長にとっても大切な環境です。複数の教員が学年を運営することで互恵的な学び合いが生まれ、教員の資質能力の向上にもつながります。

最低限必要だと思う児童数（小学校）について（小学校教員調査）

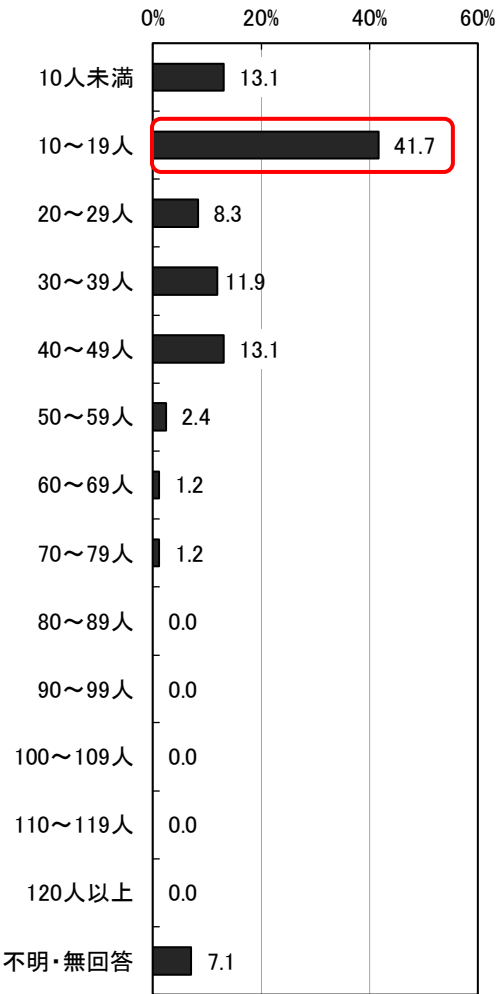
< 1 学級に最低必要だと思う人数 >

(N=84)



< 1 学年に最低限必要だと思う人数 >

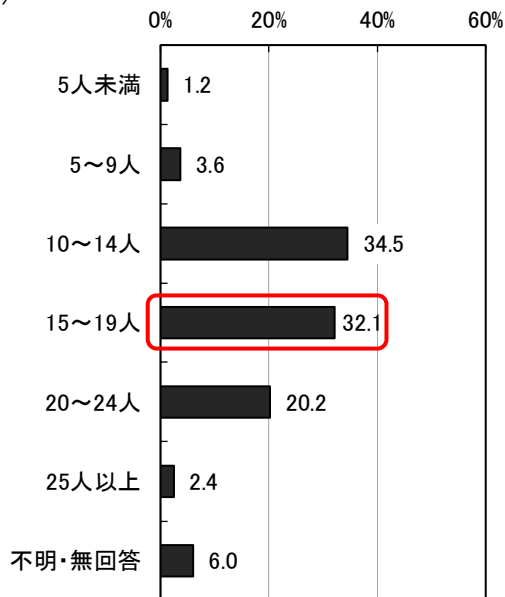
(N=84)



1 学級の児童数（小学校）について（小学校教員調査）

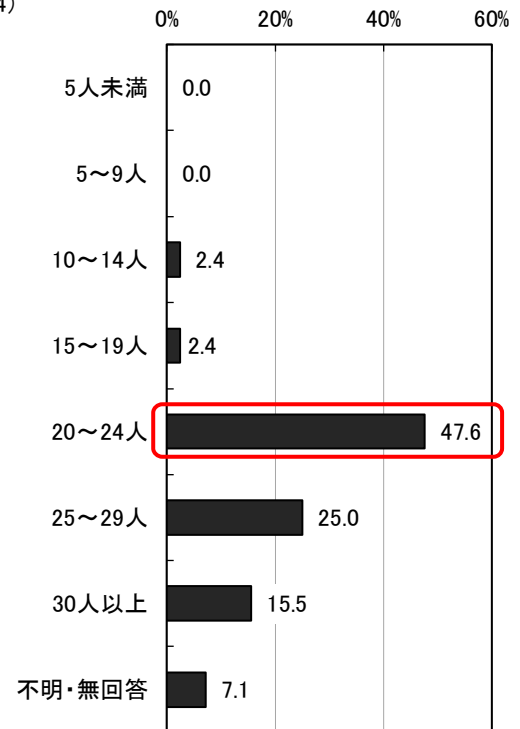
< 1 学級の適正規模だと思う人数（何人～） >

(N=84)



< 1 学級の適正規模だと思う人数（～何人） >

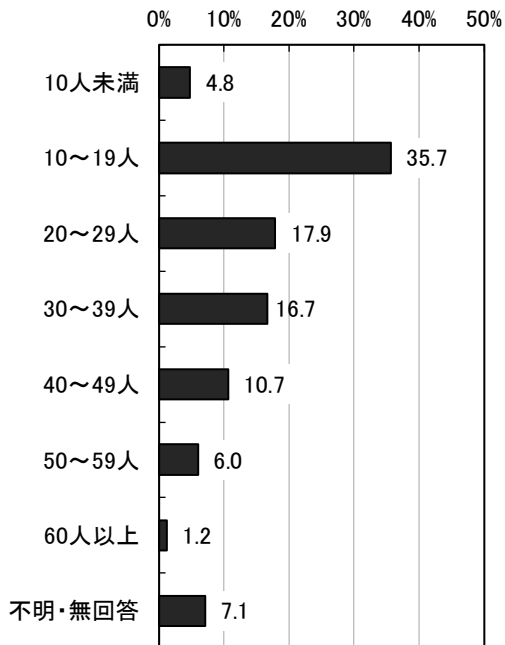
(N=84)



1 学年の児童数（小学校）について（小学校教員調査）

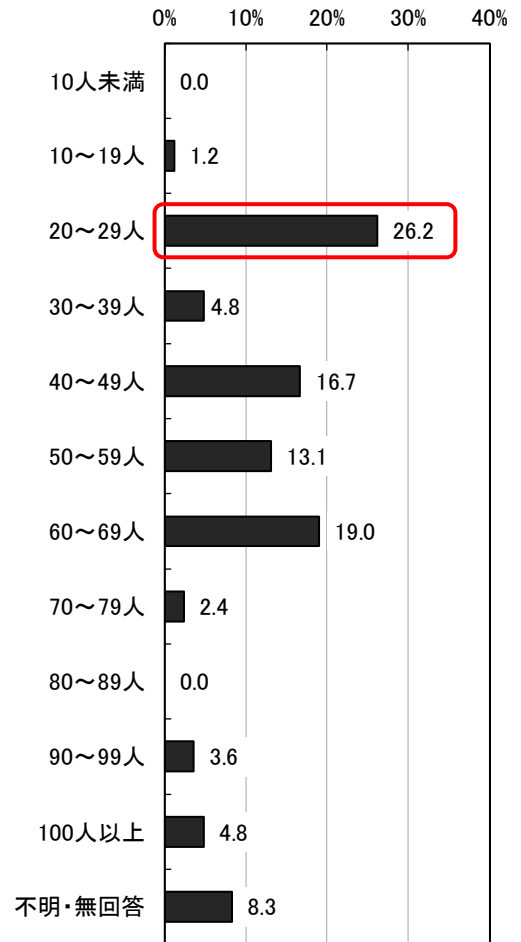
< 1 学年の適正規模だと思う人数（何人～） >

(N=84)



< 1 学年の適正規模だと思う人数（～何人） >

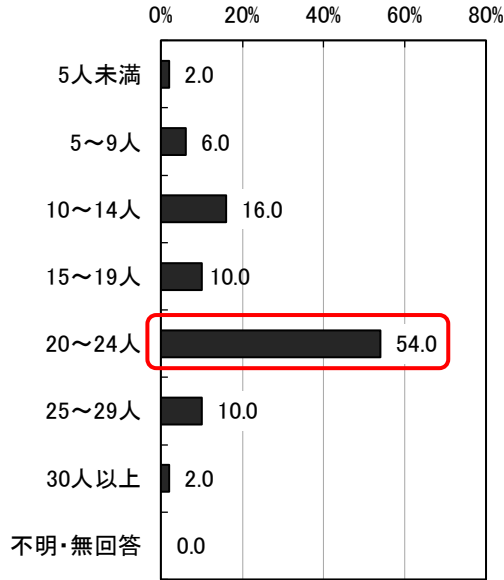
(N=84)



最低限必要だと思う生徒数（中学校）について（小学校教員調査）

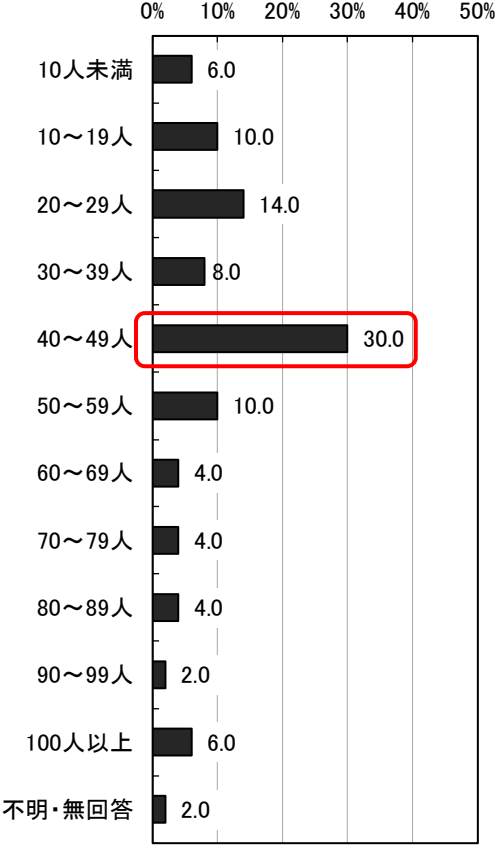
< 1 学級に最低必要だと思う人数 >

(N=50)



< 1 学年に最低限必要だと思う人数 >

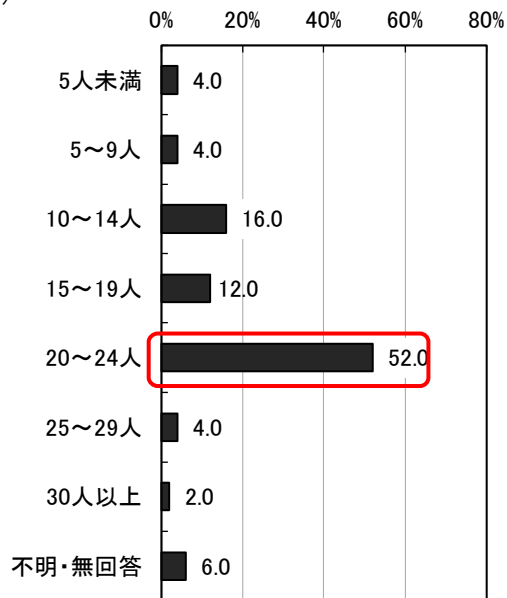
(N=50)



1 学級の生徒数（中学校）について（中学校教員調査）

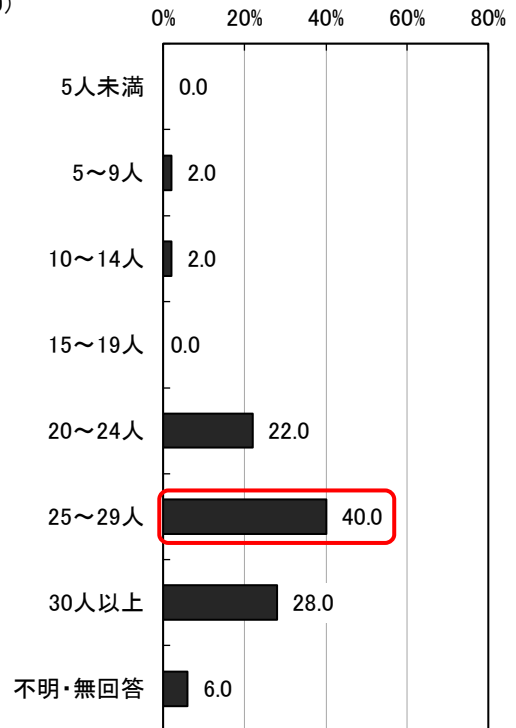
< 1 学級の適正規模だと思う人数（何人～） >

(N=50)



< 1 学級の適正規模だと思う人数（～何人） >

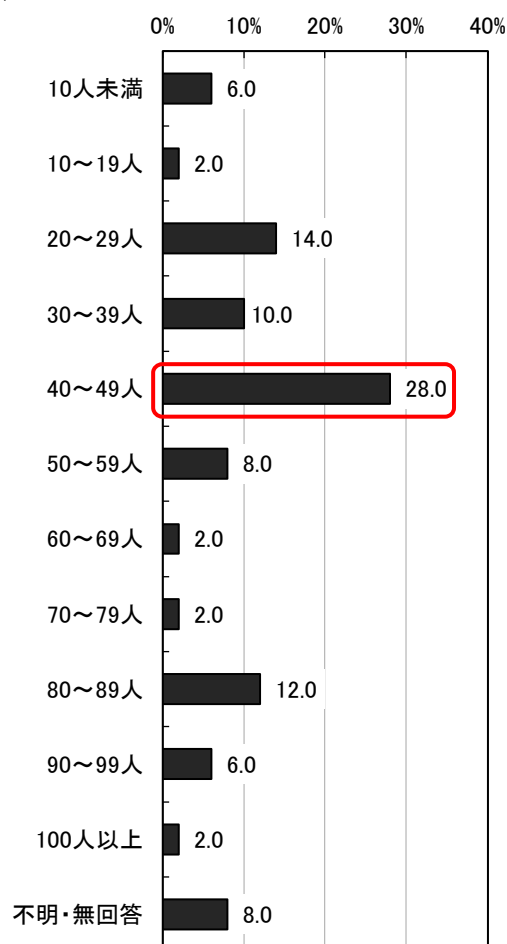
(N=50)



1 学年の生徒数（中学校）について（中学校教員調査）

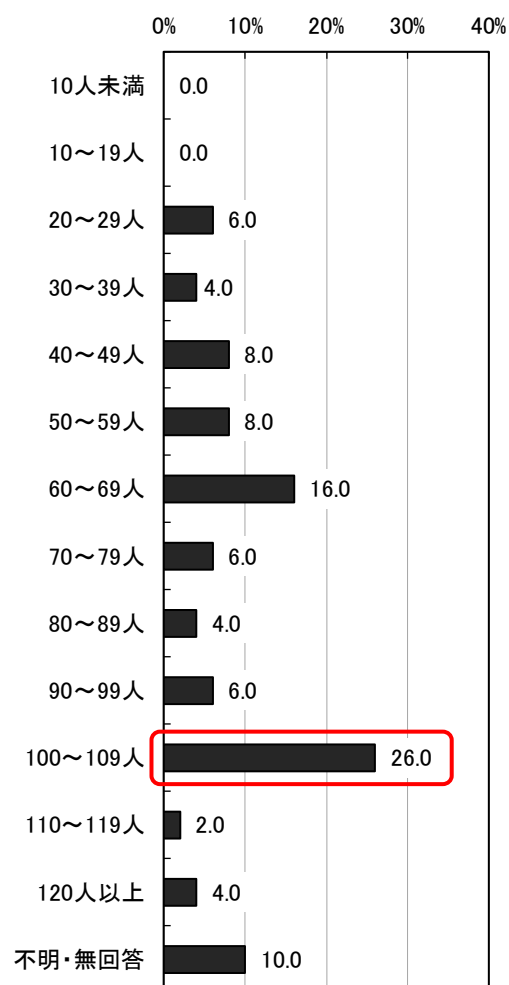
< 1 学年の適正規模だと思う人数（何人～） >

(N=50)



< 1 学年の適正規模だと思う人数（～何人） >

(N=50)



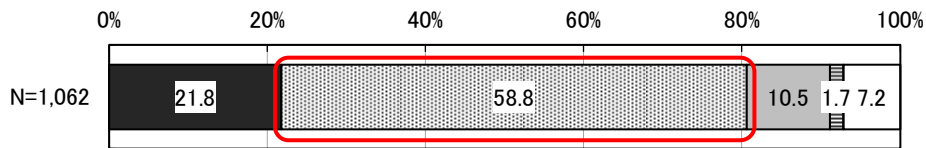
小学校の統合

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、地域住民、小学校の教員のすべての調査において、ある程度の適正人数を確保するために、小学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えており、統廃合を必要と考える声が多くなっています。

特に幼稚園・幼稚園保護者調査では、統廃合は仕方ないという回答が 65%を超えており、小中学生保護者や地域住民よりも統廃合を必要と考えていることが伺えます。

また、小学校の統合については、地域によって統廃合に対する考え方が異なっています。

小学校の統廃合について（小中学生保護者調査）



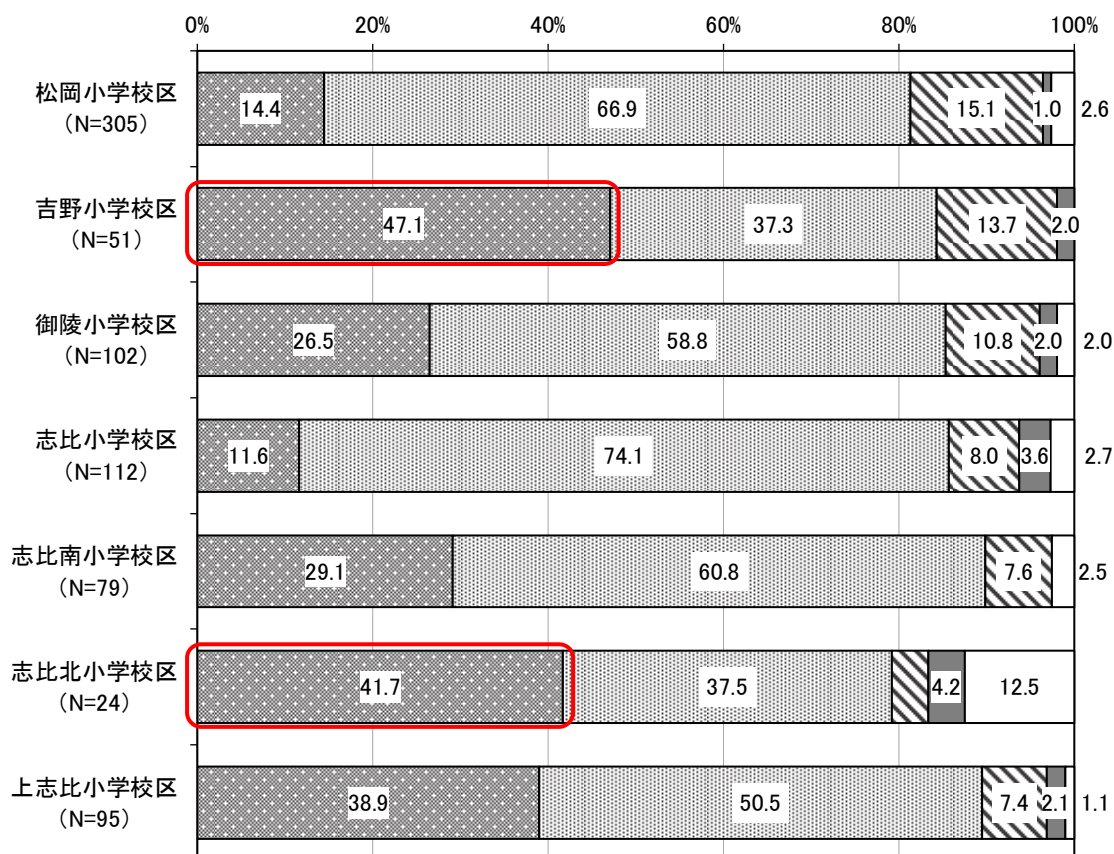
- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ▣ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、他の地域と異なり、学校の相続を希望する人が40%を超え、最も高くなっています。

また、御陵小学校や志比南小学校、上志比小学校に通う児童の保護者は、約30～40%の人が小学校の存続を希望しており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

一方で、松岡小学校や志比小学校に通う児童の保護者は、約70%の人が統合を仕方ないと考えており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が大きくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



どの中学校に通う生徒の保護者も、小学校の統合を仕方ないと思う人が 50%を超えています。

一方で、上志比中学校に通う生徒の保護者は、小学校の存続を希望する人が 30%を超えており、他の地域よりも高くなっています。

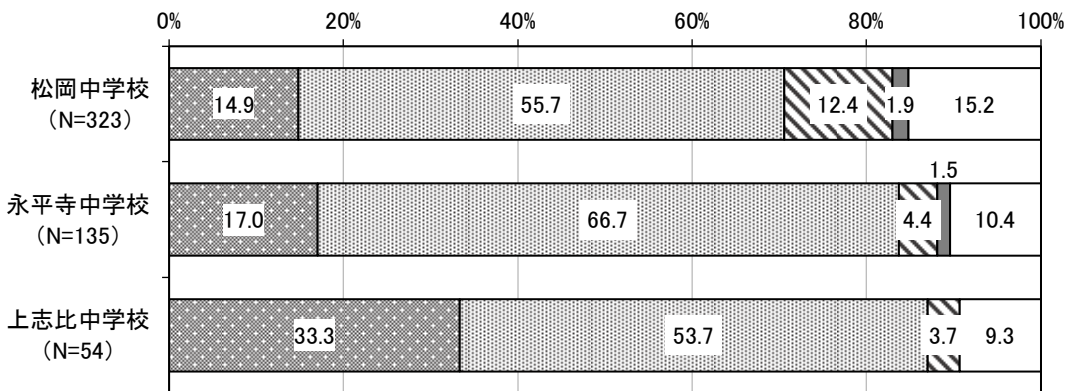
■いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい

■ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う

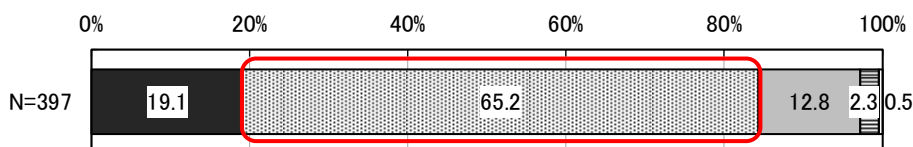
□小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない

■その他の意見

□不明・無回答



小学校の統廃合について（幼稚園・幼稚園保護者調査）

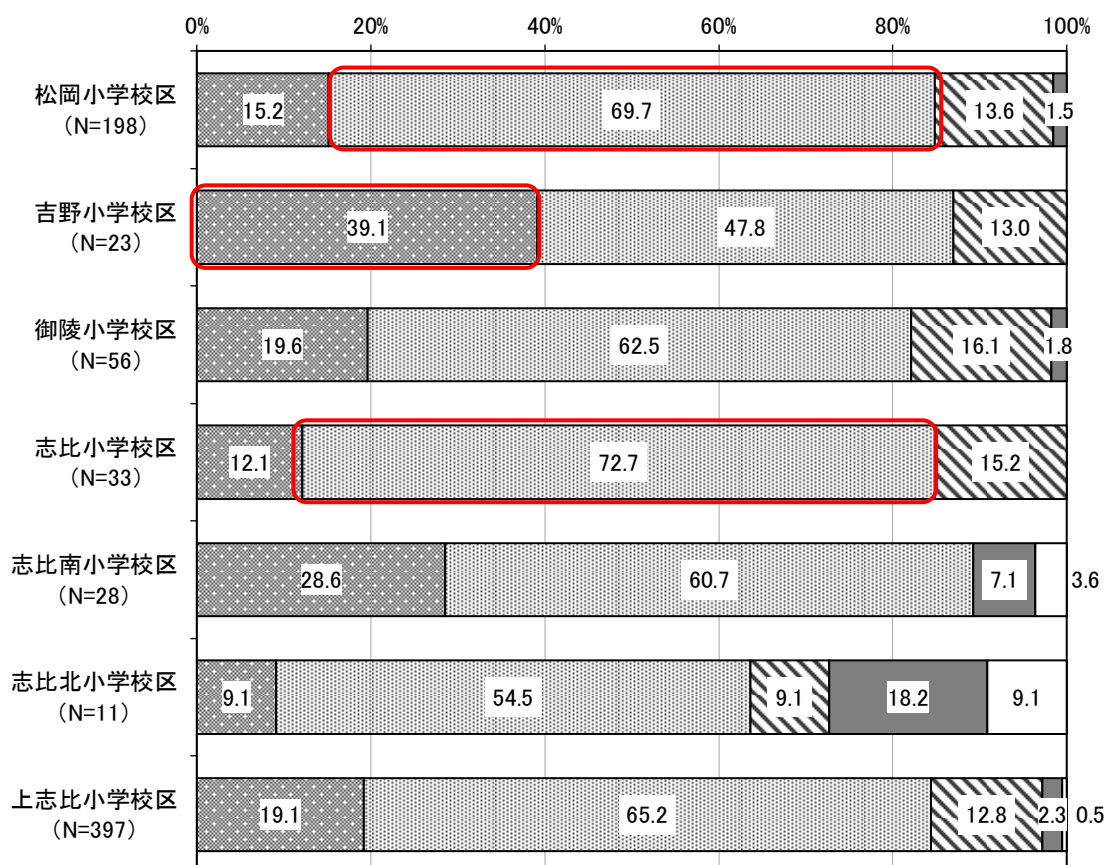


- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

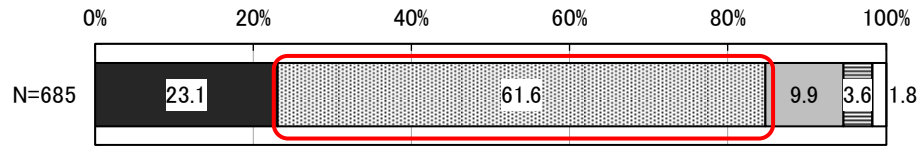
ほとんどの小学校区において、統合などを仕方ないと思う人が50%を超えています。その中でも、松岡小学校区と志比小学校区では、統合などを仕方ないと思う人が約70%と、他の地域よりも高くなっています。

一方で、吉野小学校区は小学校の存続を希望する人が約40%と、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



小学校の統廃合について（地域住民調査）



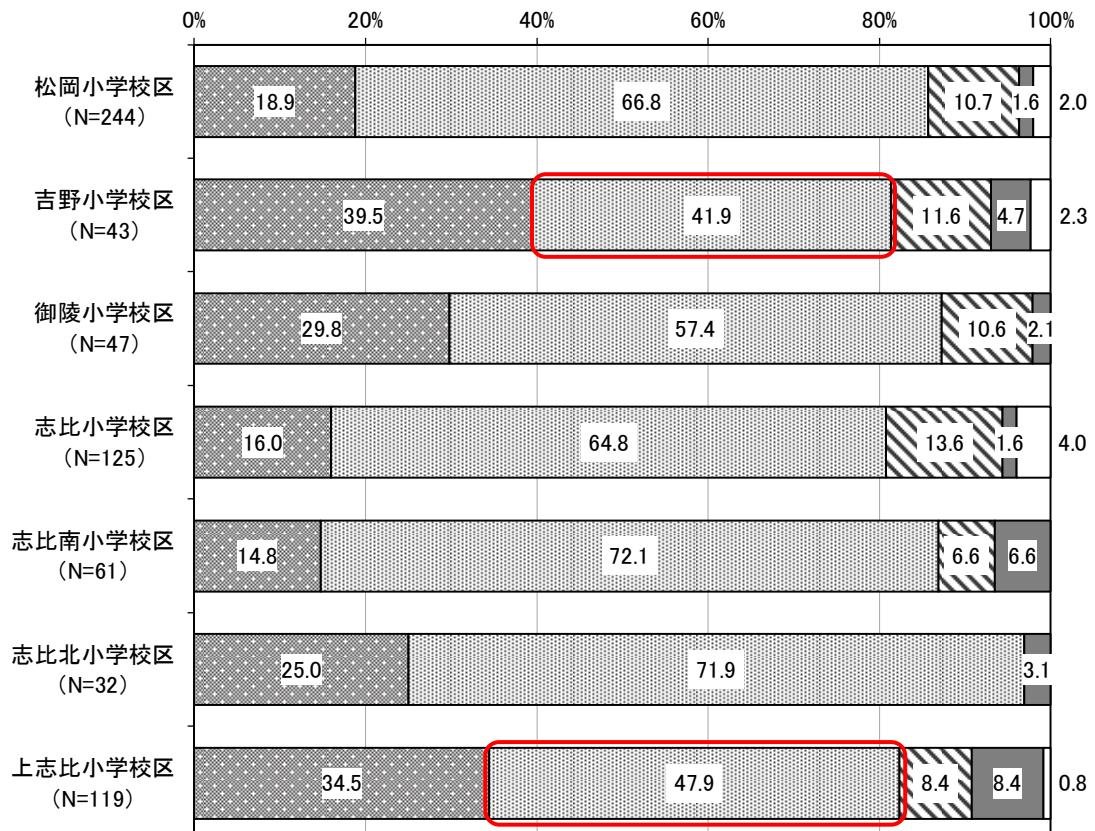
- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

どの地区でも、ある程度の適正人数を確保するために、小学校の統合などは仕方ないと思う人が多くなっています。

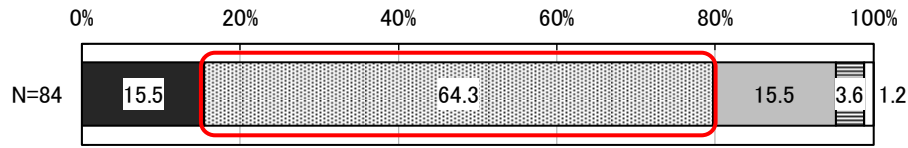
一方で、吉野小学校区、御陵小学校区、志比北小学校区、上志比小学校区では、小学校の存続を希望する人が約 30～40%と、他の小学校区よりも高くなっています。

その中でも、吉野小学校区と上志比小学校区は、統合を仕方ないと思う人が 40%程度と、他の小学校区よりも低くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



小学校の統廃合について（小学校教員調査）

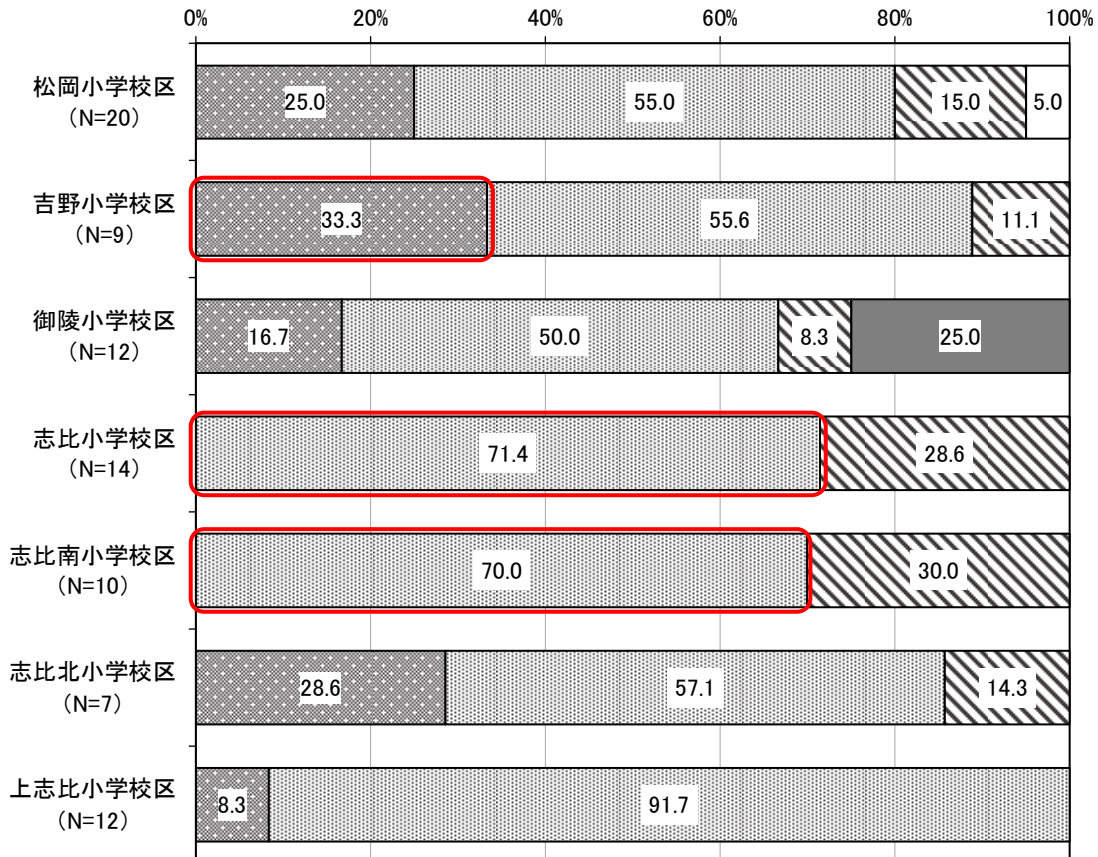


- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

どの小学校でも、統合などを仕方ないと思う人が50%を超えています。その中でも、志比小学校と志比南小学校では、統合などを仕方ないと思う人が約70%と、他の地域よりも高くなっているほか、小学校の存続を希望する人が見られません。

一方で、吉野小学校は小学校の存続を希望する人が30%を超え、他の地域よりも多くなり、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

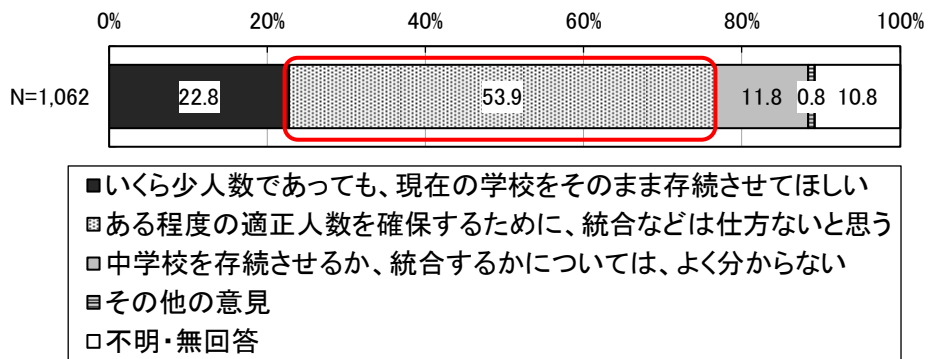


中学校の統合

小中学生保護者、幼稚園・幼稚園保護者、地域住民、中学校の教員のすべての調査において、ある程度の適正人数を確保するために、中学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えており、統廃合を必要と考える声が多くなっています。

特に幼稚園・幼稚園保護者調査では、統廃合は仕方ないという回答が 65%を超えており、小中学生保護者や地域住民よりも統廃合を必要と考えていることが伺えます。

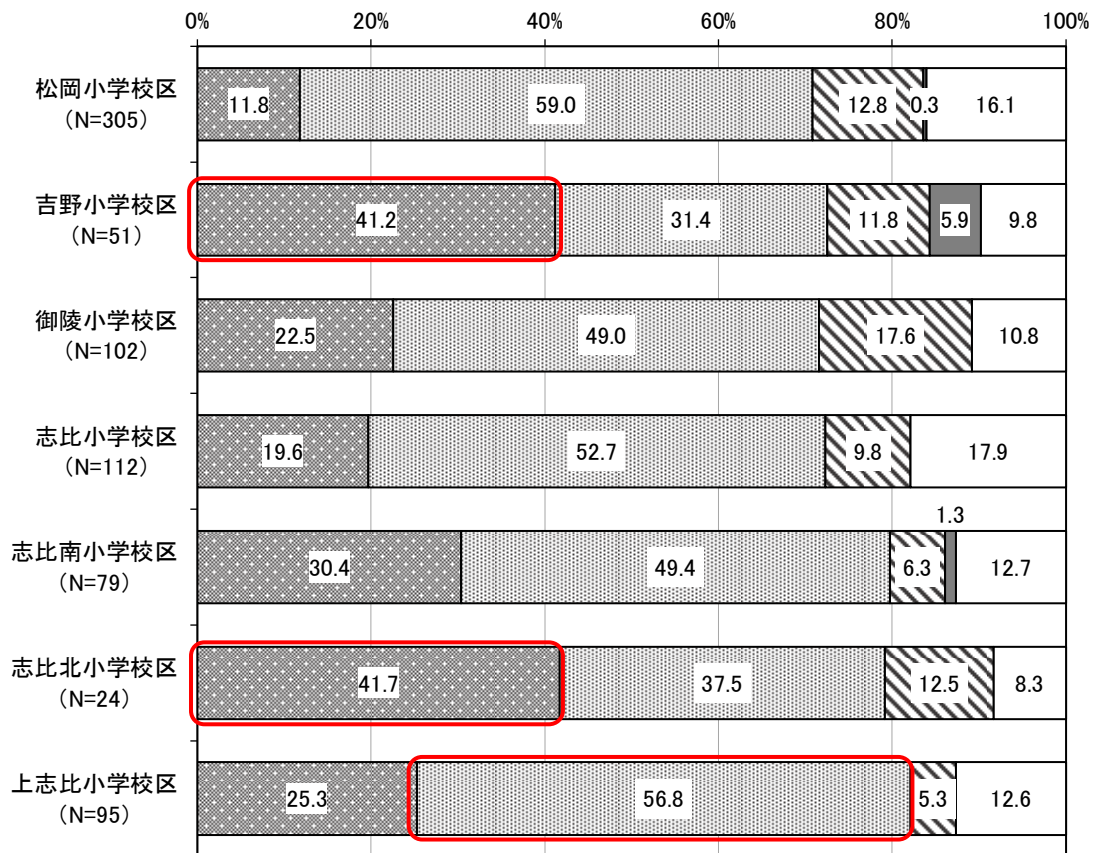
中学校の統廃合について（小中学生保護者調査）



吉野小学校や志比北小学校に通う児童の保護者は、他の地域と異なり、中学校の存続を希望する人が40%を超え、最も高くなっています。

また、地域住民調査と比較すると、小学生保護者において上志比小学校区のみ、統合を仕方ないと思う人の割合が高くなっています。

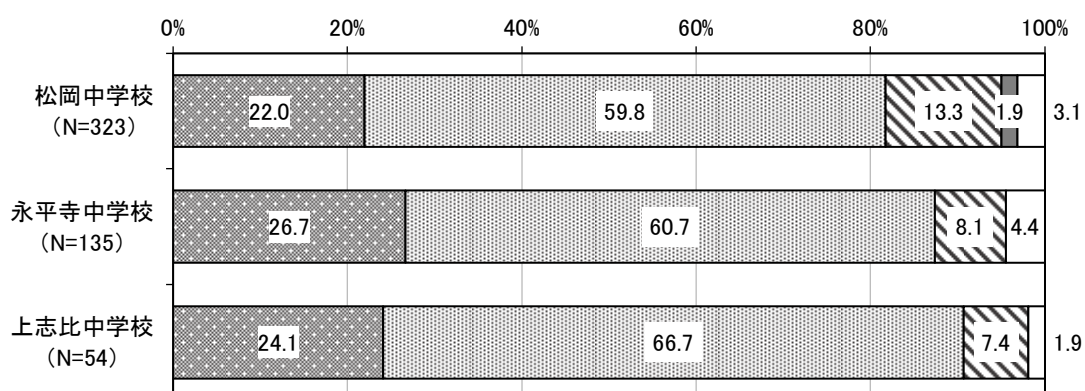
- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続してほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



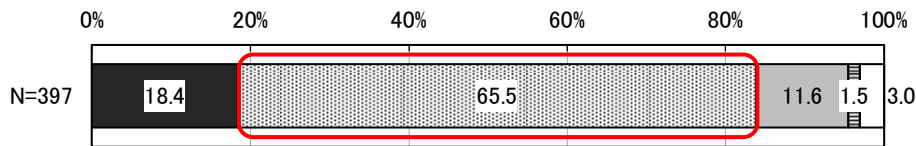
どの中学校に通う生徒の保護者も、中学校の統廃合を仕方ないと思う人が 50%を超えています。

また、どの中学校に通う生徒の保護者も中学校の存続を希望する人が 20%台となっており、大きな差はみられません。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



中学校の統廃合について（幼稚園・幼稚園保護者調査）

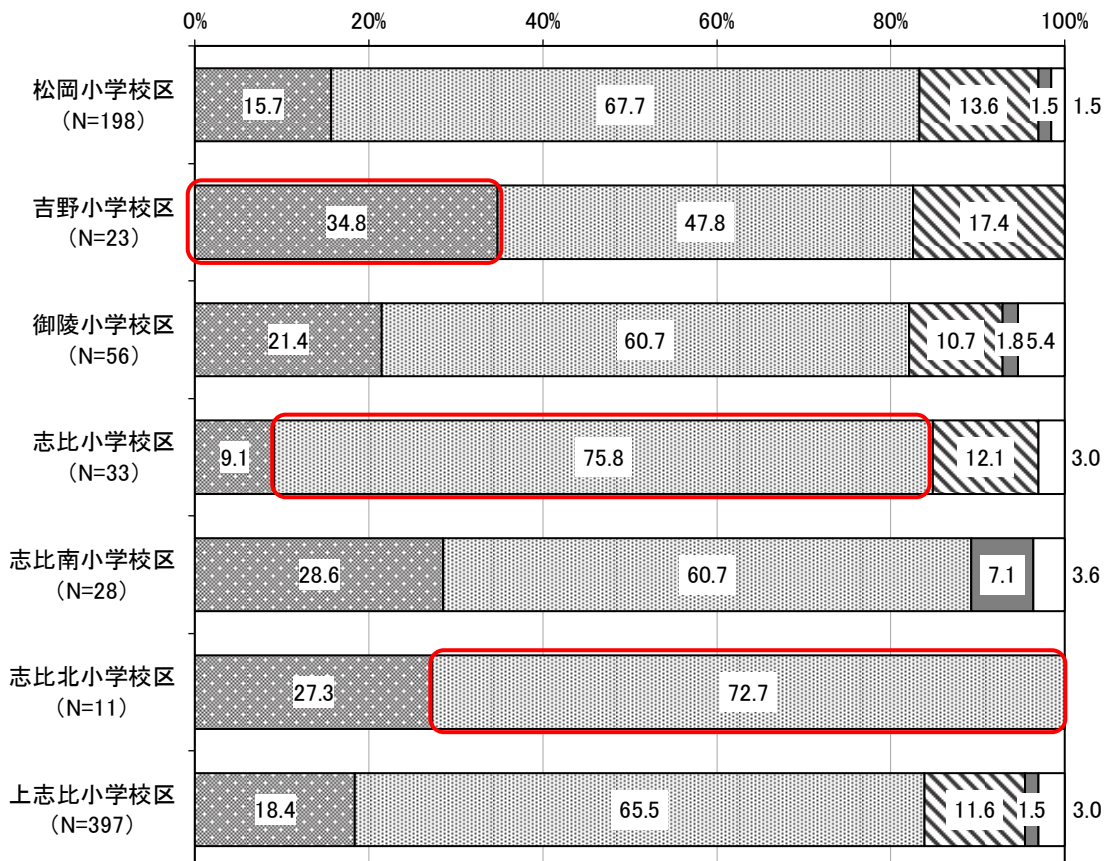


- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

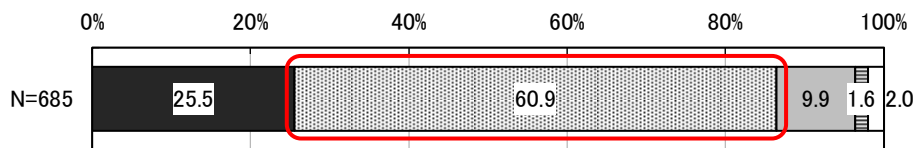
ほとんどの小学校区において、統合などを仕方ないと思う人が 60%を超えています。その中でも、志比小学校区と志比北小学校区では、統合などを仕方ないと思う人が 70%を超え、他の地域よりも高くなっています。

一方で、吉野小学校区は中学校の存続を希望する人が約 35%と、他の地域よりも多くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



中学校の統廃合について（地域住民調査）



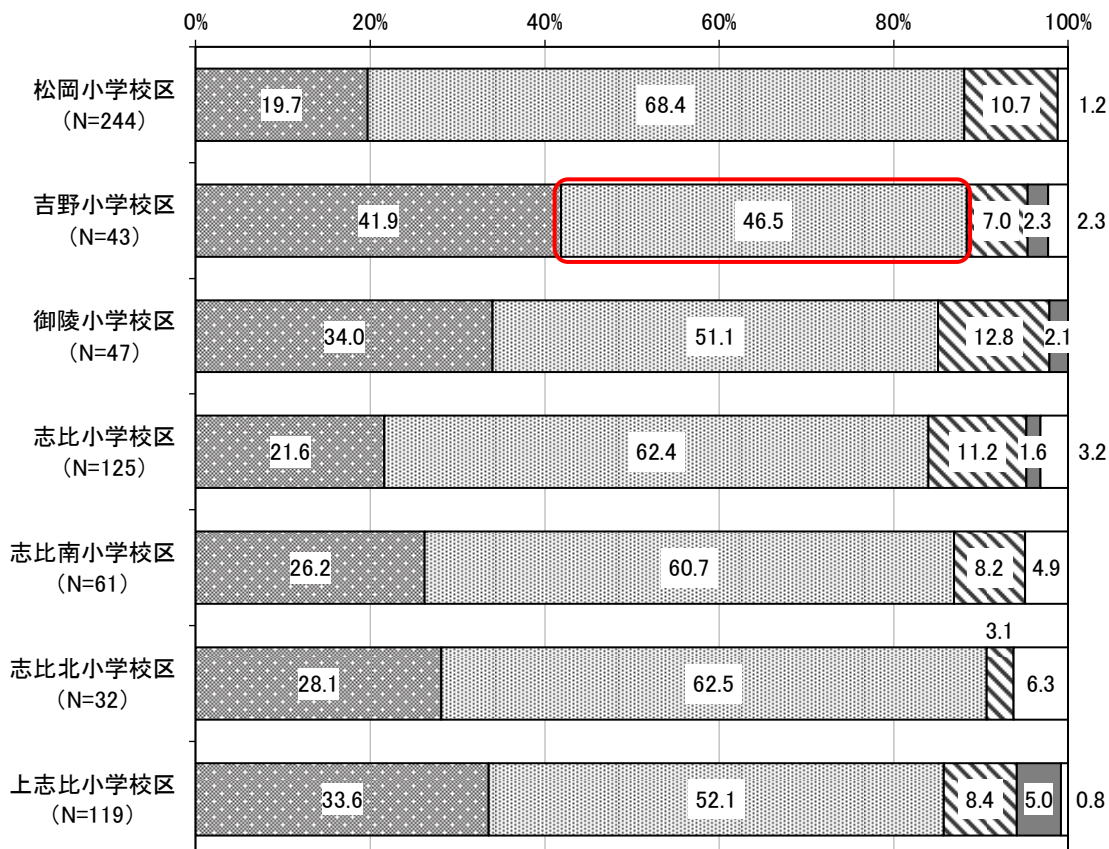
- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

どの地区でも、ある程度の適正人数を確保するために、中学校の統合などは仕方ないと思う人が多くなっています。

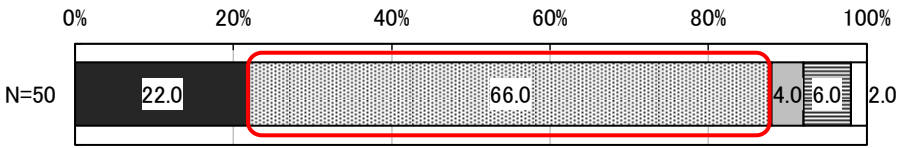
一方で、吉野小学校区、御陵小学校区、上志比小学校区では、中学校の存続を希望する人が30%を超えており、他の小学校区よりも高くなっています。

その中でも、吉野小学校区は、統合を仕方ないと思う人が約40%と、他の小学校区よりも低くなっており、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



中学校の統廃合について（中学校教員調査）

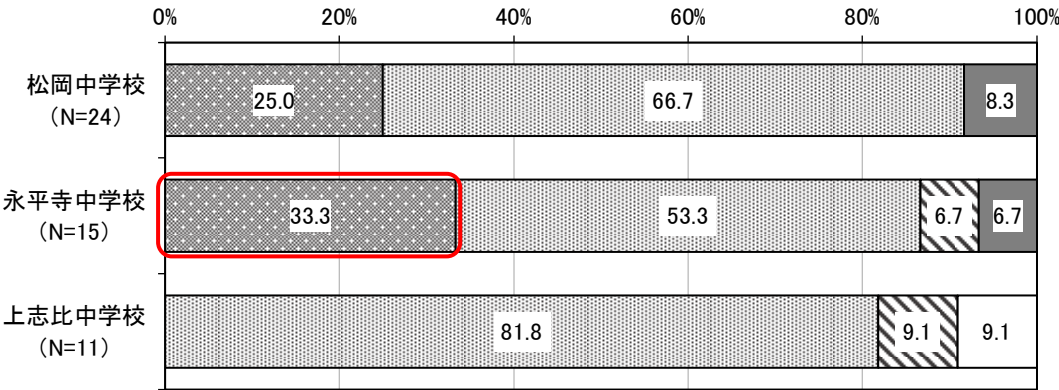


- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 中学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答

どの中学校教員でも、統合などを仕方ないと思う人が 50%を超えています。その中でも、上志比中学校では、統合などを仕方ないと思う人が約 80%と、他の中学校よりも高くなっているほか、中学校の存続を希望する人が見られません。

一方で、永平寺中学校は中学校の存続を希望する人が 30%を超え、他の地域よりも多くなり、統合を仕方ないと思う人と存続を希望する人の割合の差が小さくなっています。

- いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい
- ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う
- 小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない
- その他の意見
- 不明・無回答



高校生について

学校の規模についてはちょうど良かったという回答が多くなっていますが、地域によって傾向に違いがみられました。

少人数教育により、きめ細かな教育を受けることができた、すぐに友達になり、他の学年とも交流することができたという声が多くみられました。



少人数教育という環境だけでなく、豊かな自然環境の中で成長できた、地域との交流や社会学習が充実していた、スキー教室をはじめ他の学校ではできないことができたという声も多くみられ、故郷を思う気持ちが強く、自分が住んでいる地区への愛着が深いこともうかがえました。

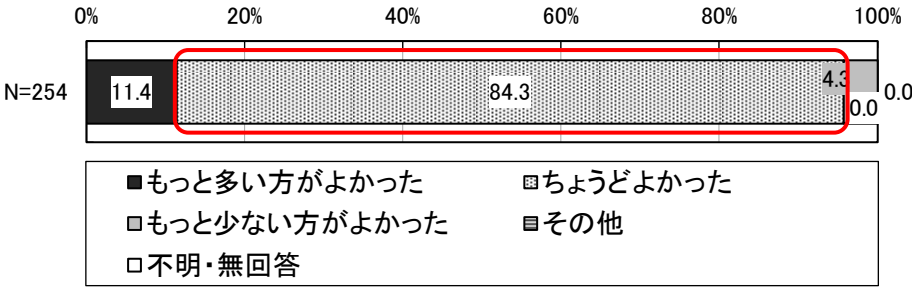


教育について、永平寺町という大きいエリアでの学びや相互交流を増やすと良いという意見が見られました。また、宿題に苦労したという声も多くみられました。

基礎基本の定着として必要なことではありますが、教員主導の知識の詰め込み、反復による教育だけでなく、自律的な学びが重要です。

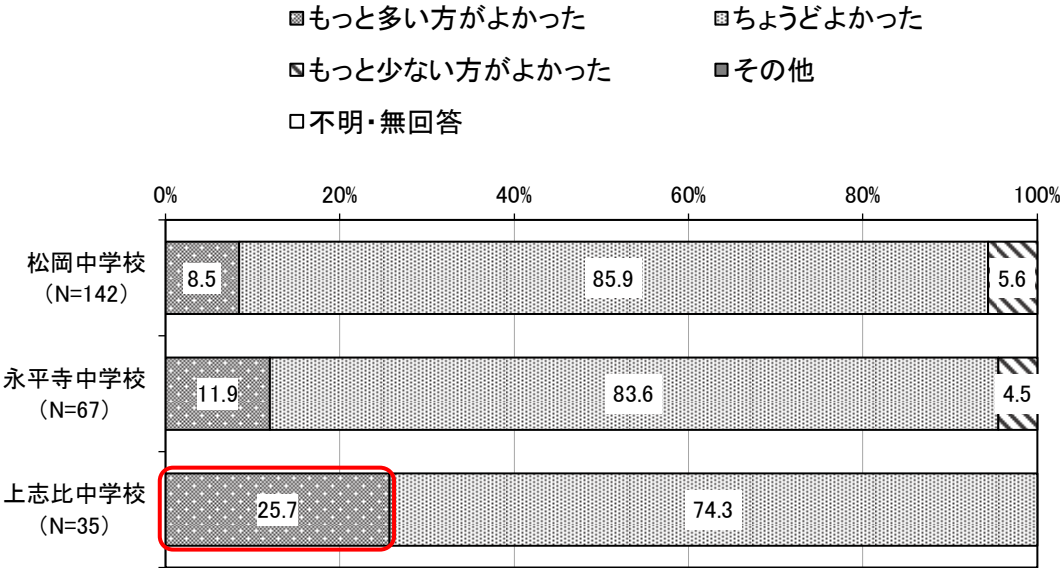
基礎基本とのバランスのもと、個別最適化の教育、探究的な学び、協働の学びを推進していくことが必要です。

通っていた小学校の1学級あたりの児童数について（高校生調査）

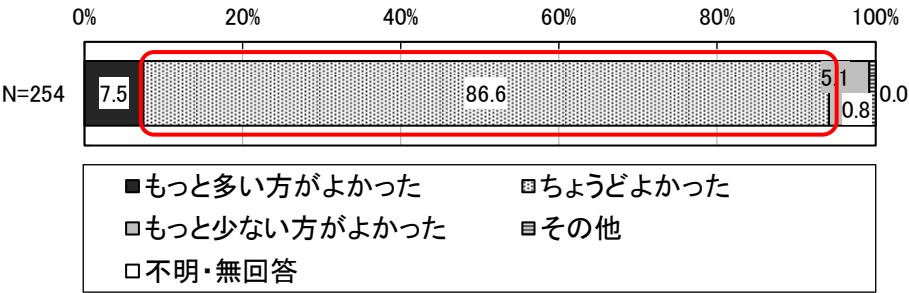


どの中学校においても、自分の通っていた小学校の1学級あたりの児童数をちょうどよかったと考える人が70%を超えています。

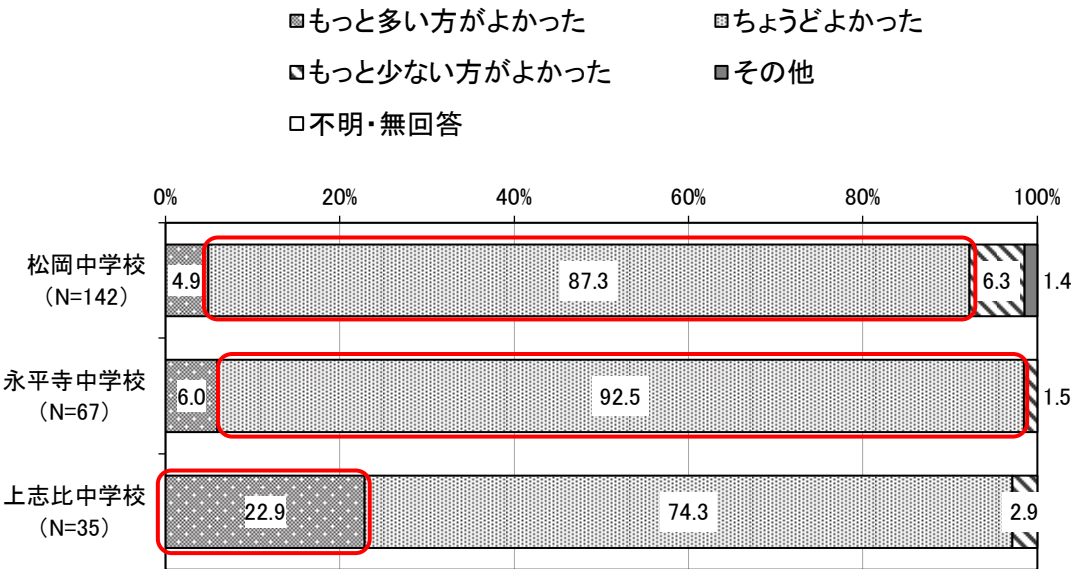
その中で、上志比中学校では、児童数をもっと多い方がよかったと考える人が25.7%となっており、他の中学校よりも10ポイント以上高くなっています。また、他の中学校と異なり、もっと少ない方がよかったという回答が見られません。



通っていた中学校の1学級あたりの児童数について（高校生調査）



どの中学校においても、自分の通っていた中学校の1学級あたりの生徒数をちょうどよかったと考える人が70%を超えており、特に松岡中学校と永平寺町学校では約90%となっています。その中で、上志比中学校では、児童数をもっと多い方がよかったと考える人が22.9%となっており、他の中学校よりも15ポイント以上高くなっています。



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，
協働的な学びの実現～（答申）

令和 3 年 1 月 2 6 日

中 央 教 育 審 議 会

第 I 部 総論

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

また、学習指導要領の改訂に関する「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28（2016）年 12 月 21 日中央教育審議会。以下「平成 28 年答申」という。）においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。

- このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

- この資質・能力とは、具体的にはどのようなものであろうか。中央教育審議会では、平成 28 年答申において、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代になる可能性を指摘した上で、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにする必要性等を指摘した。とりわけ、その審議の際に AI の専門家も交えて議論を行った結果、次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力などが挙げられた。

また、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じて体力の向上、健康の確保を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。

- 国際的な動向を見ると、国際連合が平成 27（2015）年に設定した持続可能な開発目標（SDGs）¹などを踏まえ、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、持続可能な社会づ

¹ 「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載されている 2030 年を期限とする開発目標のこと。

くりにつなげていく力を育むことが求められている。また、経済協力開発機構（OECD）では子供たちが 2030 年以降も活躍するために必要な資質・能力について検討を行い、令和元（2019）年 5 月に“Learning Compass 2030”を発表しているが、この中で子供たちがウェルビーイング（Well-being）²を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されている。

- これらの資質・能力を育むためには、新学習指導要領の着実な実施が重要である。このことを前提とし、今後の社会状況の変化を見据え、初等中等教育の現状及び課題を踏まえながら新しい時代の学校教育の在り方について中央教育審議会において審議を重ねている最中、世界は新型コロナウイルス感染症の感染拡大という危機的な事態に直面した。感染状況がどうなるのかという予測が極めて困難な中、学校教育を含む社会経済活動の在り方をどうすべきか、私たちはどう行動すべきか、確信を持った答えは誰も見いだせない状況が我が国のみならず世界中で続いている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う甚大な影響は、私たちの生命や生活のみならず、社会、経済、私たちの行動・意識・価値観にまで多方面に波及しつつある。この影響は広範で長期にわたるため、感染収束後の「ポストコロナ」の世界は、新たな世界、いわゆる「ニューノーマル」に移行していくことが求められる。

- 「予測困難な時代」であり、新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言えよう。

- また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、例えばテレワーク、遠隔診療のように、世の中全体のデジタル化、オンライン化を大きく促進している。学校教育もその例外ではなく、学びを保障する手段としての遠隔・オンライン教育³に大きな注目が集まっている。ビッグデータの活用等を含め、社会全体のデジタルトランスフォーメーション

² OECD は「PISA2015 年調査国際結果報告書」において、ウェルビーイング（Well-being）を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働き（functioning）と潜在能力（capabilities）である」と定義している。

³ 遠隔・オンライン教育等の定義については、以下のとおり。

- ① 「遠隔・オンライン教育」とは、遠隔システムを用いて、同時双方向で学校同士をつないだ合同授業の実施や、専門家等の活用などを行うことを指す。また、授業の一部や家庭学習等において学びをより効果的にする動画等の素材を活用することを指す（文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」（令和元（2019）年 6 月））。
- ② 「遠隔教育」とは、遠隔システムを活用した同時双方向型で行う教育のことを指す（遠隔教育の推進に向けたタスクフォース「遠隔教育の推進に向けた施策方針」（平成 30（2018）年 9 月））。
- ③ 「遠隔授業」とは、遠隔教育のうち授業で遠隔システムを使うものを指す（合同授業型、教師支援型、教科・科目充実型のいずれかの類型）（遠隔教育の推進に向けたタスクフォース「遠隔教育の推進に向けた施策方針」（平成 30（2018）年 9 月））。

⁴加速の必要性が叫ばれる中、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT はもはや必要不可欠なものであることを前提として、学校教育の在り方を検討していくことが必要である。

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

- 新しい時代の学校教育の在り方を検討するに当たっては、まず、我が国の学校教育の現状を踏まえることが必要である。このため、日本型学校教育と言われる我が国の学校教育の成果、そして変化する時代の中で直面する課題について整理することとしたい。

(1) 日本型学校教育の成り立ちと成果

- 明治5（1872）年の「学制」公布以降、義務教育制度の草創期は、就学率も低く、年齢も知識の習得状況も相当差がある状況であった。そういった状況下で、共通の学習内容も読み書き計算など最低限なものとなり、等級制、すなわち進級における徹底した課程主義が取られていた。明治23（1890）年前後に知・徳・体を一体で育む形でカリキュラムの内容が拡張・体系化され、学校の共同体としての性格が強まった。また、留年や中途退学の多発等により、進級した子と落第した子が入り混じった不安定な児童集団が構成されるなどの課題も浮き彫りとなり、学級集団としての学級が成立し、20世紀初頭以降、就学率の上昇とともに学年学級制（年齢主義）が一般化した。
- 戦後は、憲法および教育基本法の理念の下、学校教育法により、義務教育期間の9年制や小学校、中学校、高等学校等の今日まで続く学校教育制度の基本が形成されるとともに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律（義務標準法）、義務教育費国庫負担法、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律などにより、教育機会の均等と教育水準の維持・向上の基盤となる制度が構築された。これにより、質の高い学校教育を全国どこでも提供することが可能となり、国民の教育水準が向上し、我が国の社会発展の原動力となった。
- こうした制度の下、学校が学習指導のみならず、生徒指導等の面でも主要な役割を担い、様々な場面を通じて、子供たちの状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、全ての子供たちに一定水準の教育を保障する平等性の面、全人教育という面などについて諸外国から高く評価されている。
- 例えば、OECDによる我が国の教育政策レビューによれば、国際的に比較して、日本の

⁴ デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation：DX）とは、将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。

児童生徒及び成人は、OECD 各国の中でもトップクラスの成績であり、日本の教育が成功を収めている要素として、子供たちに対し、学校給食や課外活動などの広範囲にわたる全人的な教育を提供している点が指摘されている⁵。

○ また、文部科学省が全国の小・中学校において毎年実施している全国学力・学習状況調査においても、成績下位の都道府県の平均正答率と全国の平均正答率との差が縮小するなどの全体的な底上げも確実に進んでいる⁶。

○ 同じく全国学力・学習状況調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」、「学校のきまり（規則）を守っているか」などの規範意識に関する質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は9割程度と高い水準になっている⁷。震災の際、略奪や暴動もなく、支援物資をもらうために混乱なく並ぶ姿を世界が賞賛したという事例にも表れるように、日本人は礼儀正しく、勤勉で、道德心が高いと考えられており⁸、また、我が国の治安の良さは世界有数である⁹。これは、全人格的な陶冶、社会性の涵養を目指す日本型学校教育の成果であると評価することができる。

（２）新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された学校の役割

○ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られ、地域によっては約3カ月もの長期にわたって子供たちが学校に通えない状況が生じた¹⁰。この前例のない状況の中で、全国の学校現場の教職員、教育委員会や学校法人

⁵ OECD「Education Policy Review of Japan」（平成30（2018）年7月27日）及びOECD「国際成人力調査（Programme for the International Assessment of Adult Competencies：PIAAC）」（平成25（2013）年10月8日）

⁶ 文部科学省・国立教育政策研究所「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書」

⁷ 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学6年生の割合は95.2%、中学3年生の割合は94.4%、「学校のきまり〔規則〕を守っていますか」という質問に対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学6年生の割合は92.4%、中学3年生の割合は96.1%だった（文部科学省・国立教育政策研究所「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書」）。

⁸ 統計数理研究所「日本人の国民性調査（第13次調査）」（平成27（2015）年2月）によると、日本人の長所として挙げられるものを具体的な10個の性質の中からいくつでも選んでもらったところ、「勤勉」、「礼儀正しい」、「親切」を挙げる人が7割を超えた。

⁹ 法務省「令和元年度版犯罪白書」によると、日本における殺人、強盗、窃盗等の発生件数・発生率は、フランス、ドイツ、英国、米国に比して最も低い。

¹⁰ 令和2（2020）年2月27日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部において、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における全国一斉の臨時休業を要請する方針が内閣総理大臣より示された。このことを受け、小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）、中学校（義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を含む。）、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）、特別支援学校及び高等課程を置く専修学校の設置者に対して、令和2（2020）年3月2日から春季休業の開始日までの間、学校保健安全法第20条に基づく臨時休業が要請された（令和2年2月28日文科初第1585号

「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について（通知）」）。その結果、令和2（2020）年3月16日時点で、小学校、中学校、義務教

などの教育関係者におかれては、子供たちの学習機会の保障や心のケアなどに力を尽くしていただいた。学校再開後においてもその影響は今もなお残っており、引き続き、実態に応じた取組に尽力いただいている。

- 一方、当たり前のよう存在していた学校に通えない状況が続いた中で、子供たちや各家庭の日常において学校がどれだけ大きな存在であったのかということが、改めて浮き彫りになった。「勉強が遅れることが不安」「部活を頑張りたいのに」「友達に会いたい」という子供たちの声が日本中にあふれた。また、家庭の社会経済文化的背景（Economic, Social and Cultural Status : ESCS）に格差がある中で、子供たちの学力格差が拡大するのではないかという指摘や、生活習慣の乱れに伴う心身の健康課題の深刻化や家庭における児童虐待の増加に関する懸念もある。学校という子供の居場所がないことで、多くの保護者が就労面で課題を抱えるとともに、子育てに関する負担が増大し、大きなストレスを抱えるようになったという指摘もある。さらに、学校の臨時休業が続いた影響により、学校再開後の登校を躊躇する子供もいるのではないかという指摘もある。
- こうした学校の臨時休業に伴う問題や懸念が生じたことにより、学校は、学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながるができる居場所・セーフティネットとして身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割をも担っていることが再認識された。特に、全人格的な発達・成長の保障、居場所・セーフティネットとしての福祉的な役割は、日本型学校教育の強みであることに留意する必要がある。
- なお、臨時休業からの学校再開後には、限られた時間の中で学校における学習活動を重点化する必要が生じたが、そのような中でもまず求められたのは、学級づくりの取組や、感染症対策を講じた上で学校行事を行うための工夫など、学校教育が児童生徒同士の学び合いの中で行われる特質を持つことを踏まえ教育活動を進めていくことであり、これらの活動を含め、感染症対策を講じながら最大限子供たちの健やかな学びを保障できるよう、学校の授業における学習活動の重点化や次年度以降を見通した教育課程編成といった特例的な対応がとられた¹¹。このように我が国の学校に特徴的な特別活動が、子供たちの円滑な学校への復帰や、全人格的な発達・成長につながる側面が注目された。

（３）変化する社会の中で我が国の学校教育が直面している課題

- 我が国の 150 年に及ぶ教科教育等に関する蓄積を支えてきた高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により、日本型学校教育が上述のような高い成果を挙げ、

育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の、公立 98.9%、国立 100%、私立 97.8%が臨時休業を実施した。

¹¹ 「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方向性等について（通知）」（令和 2（2020）年 5 月 15 日 2 文科初第 265 号）参照。

また現代社会において不可欠な役割を学校が担うようになっている一方で、社会構造の変化の中で、課題が生じていることも事実である。

①社会構造の変化と日本型学校教育

- 高度経済成長期以降、義務教育に加えて、高等学校教育や高等教育も拡大し大衆化する中で、一定水準の学歴のみならず、「より高く、より良く、より早く」といった教育の質への私的・社会的要求が高まるようになった。このような中で、学校外にも広がる保護者の教育熱に応える民間サービスが拡大するとともに、経済格差や教育機会の差を背景に持った学力差が顕在化した。経済至上主義的価値観の拡大の中で学校をサービス機関としてみる見方も強まっているという指摘もある。
- 我が国の教師は、子供たちの主体的な学びや、学級やグループの中での協働的な学びを展開することによって、自立した個人の育成に尽力してきた。その一方で、我が国の経済発展を支えるために、「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」上質で均質な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた中で、「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、「自ら課題を見つけ、それを解決する力」を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分なされていないのではないかという指摘もある。
- 学習指導要領ではこれまで、「個人差に留意して指導し、それぞれの児童（生徒）の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」（昭和 33（1958）年学習指導要領）、「個性を生かす教育の充実」（平成元（1989）年学習指導要領等）等の規定がなされてきた。
その一方で、学校では「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増えていったという指摘もある。社会の多様化が進み、画一的・同調主義的な学校文化が顕在化しやすくなった面もあるが、このことが結果としていじめなどの問題や生きづらさをもたらし、非合理的な精神論や努力主義、詰め込み教育等との間で負の循環が生じかねないということや、保護者や教師も同調圧力の下にあるという指摘もある。
- また、核家族化、共働き家庭やひとり親家庭の増加など、家庭をめぐる環境が変化するとともに、都市化や過疎化等により地域の社会関係資本が失われ家庭や地域の教育力が低下する中で、本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられるようになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担を増大させてきた¹²。

¹² 中央教育審議会「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」（平成 31（2019）年 1 月 25 日）参照。

②今日の学校教育が直面している課題

- 現在の学校現場は以下に挙げるような様々な課題に直面している。日本型学校教育が、世界に誇るべき成果を挙げてくることができたのは、子供たちの学びに対する意欲や関心、学習習慣等によるものだけでなく、子供のためであればと頑張る教師の献身的な努力によるものである。教育は人なりと言われるように、我が国の将来を担う子供たちの教育は教師にかかっている。しかしながら、学校の役割が過度に拡大していくとともに、直面する様々な課題に対応するため、教師は教育に携わる喜びを持ちつつも疲弊しており、国において抜本的な対応を行うことなく日本型学校教育を維持していくことは困難であると言わざるを得ない。

(子供たちの多様化)

- 特別支援学校や小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は増加し続けており¹³、小・中・高等学校の通常の学級においても、通級による指導を受けている児童生徒が増加する¹⁴とともに、さらに小・中学校の通常の学級に 6.5%程度の割合で発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒（知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面での著しい困難を示す児童生徒）が在籍しているという推計もなされている¹⁵。

また、特別支援学校に在籍する子供たちの約 3 割弱は、複数の障害を併せ有しており、視覚と聴覚の双方に障害のある「盲ろう」の子供たちもいる¹⁶。

さらに、特定分野に特異な才能のある児童生徒¹⁷の存在も指摘されている。

- さらに、学校に在籍する外国人児童生徒に加え、日本国籍ではあるが、日本語指導を必要とする児童生徒も増加しており、日本語指導が必要な児童生徒（外国籍・日本国籍含む。）は 5 万人を超え、10 年前の 1.5 倍に相当する人数となっている¹⁸。また、約 2 万人の外国人の子供が就学していない可能性がある、又は就学状況が確認できて

¹³ 文部科学省「学校基本調査」によると、特別支援学級に在籍する児童生徒の数は、平成 25（2013）年度には小学校 120,906 人、中学校 53,975 人となっており、令和元（2019）年度には小学校 199,564 人、中学校 77,112 人となっており、増加傾向にある。

¹⁴ 文部科学省「学校基本調査」及び「通級による指導実施状況調査」によると、通級による指導を受ける児童生徒の数は、平成 25（2013）年度には小学校 70,924 人、中学校 6,958 人、平成 30（2018）年の高等学校 508 人となっており、令和元（2019）年度には小学校 116,633 人、中学校 16,765 人、高等学校 787 人となっており、増加傾向にある。

¹⁵ 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（平成 24（2012）年 12 月）

¹⁶ 文部科学省「令和元年度学校基本調査」によると、特別支援学校に在籍する幼児児童生徒のうち、25.7%は複数の障害を併せ有している。

¹⁷ 特定分野に特異な才能のある児童生徒については、本文 43p 参照。

¹⁸ 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成 30 年度）」によると、平成 30（2018）年度の日本語指導が必要な児童生徒数は 51,126 人となっている。また、同調査によると、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する公立小学校・中学校は 8,377 校である。

いない状況にあるという実態が示されている¹⁹。こうした中、平成 31（2019）年 4 月から、新たな在留資格「特定技能」が創設されたことにより、今後、更なる在留外国人の増加が予想されている。

- 加えて、我が国の 18 歳未満の子供の相対的貧困²⁰率は 13.5%であり、7 人に 1 人の子供が相対的貧困状態にあるとされる²¹。毎日の衣食住に事欠く「絶対的貧困」とは異なるものの、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にあると言われている。
- 様々な生徒指導上の課題も生じている。令和元（2019）年度の小・中・高等学校におけるいじめの認知件数や重大事態の発生件数、暴力行為の発生件数、不登校児童生徒数はいずれも増加傾向にあり、過去最多となっている²²。加えて、令和元（2019）年の小・中・高等学校における児童生徒の自殺者数も減少するに至っていない²³。いじめの認知件数の増加は、いじめを初期段階のものも含めて積極的に認知し、その解消に向けた取組のスタートラインに立っているとも評価できるが、いじめの重大事態の発生件数の増加は、憂慮すべき状況である。また、児童生徒の自殺も後を絶たず、極めて憂慮すべき状況である。さらに、児童相談所における児童虐待相談対応件数についても増加傾向にある²⁴。
- このような中で、学校は、全ての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境であることや、これまで以上に福祉的な役割や子供たちの居場所としての機能を担うことが求められている。家庭の社会経済的な背景や、障害の状態や特性及び心身の発達の段階、学習や生活の基盤となる日本語の能力、一人一人のキャリア形成など、子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題となっている。

（生徒の学習意欲の低下）

- 文部科学省・厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）」によると、「楽しいと思える授業がたくさんある」という質問に対して、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は、第 13 回調査（中学 1 年生時点）では 74.8%，第 15

¹⁹ 文部科学省「外国人の子供の就学状況等調査」（令和 2（2020）年 3 月）によると、令和元（2019）年 5 月 1 日時点で就学していない可能性がある、又は就学状況が確認できていない状況にある外国人の子供の数は 19,471 人となっている。

²⁰ 相対的貧困とは、世帯の所得がその国の等価可処分所得の中央値の半分に満たない状態のこと。

²¹ 厚生労働省「2019 年国民生活基礎調査」

²² 令和元（2019）年度はいじめの認知件数は 609,421 件、重大事態の発生件数は 717 件、暴力行為の発生件数は 78,787 件、不登校児童生徒数は 231,372 人となっている（文部科学省「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」）。

²³ 厚生労働省・警察庁「令和元年中における自殺の状況」によると、令和元（2019）年中の小・中・高等学校における児童生徒の自殺者数は 399 人となっている。

²⁴ 厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数＜速報値＞」

回調査（中学3年生時点）では69.2%となっているが、これに対して、第16回調査（高等学校1年生時点）では66.3%、第17回調査（高等学校2年生時点）では56.4%となるなど、全体的な傾向として、特に高等学校において生徒の学校生活等への満足度や学習意欲が低下している。

- 高等学校への進学率が約99%²⁵に達し、多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、生徒の多様な実情・ニーズに対応して生徒の学習意欲を喚起し、必要な資質・能力を確実に身に付けさせ、またその可能性及び能力を最大限に伸長するべく、高等学校の特色化・魅力化を推進することが求められている。

（教師の長時間勤務による疲弊）

- その一方で、教師の長時間勤務の状況は深刻であり、特に近年の大量退職・大量採用の影響等により、教師の世代交代が進み若手の教師が増えてきた結果、経験の少なさ等から、中堅・ベテラン教師と比べて勤務時間が長時間化してしまったことや、総授業時数の増加、部活動の時間の増加などにより、平成28（2016）年度の教員勤務実態調査によると、平均すると小学校では月に約59時間、中学校では月に約81時間の時間外勤務²⁶がなされていると推計されている。こうした長時間勤務も一つの要因として考えられる公立学校の教育職員の精神疾患による病気休職者数についても、ここ数年5,000人前後で推移²⁷している。
- また、学校における新型コロナウイルス感染症対策のための指導上の工夫や消毒等の対応、学校再開後にもなお影響が残る子供の心のケアや保護者への対応により、教師の多忙化に更に拍車がかかっているのではないかと懸念する声もある。
- さらに、公立学校教員採用選考試験における採用倍率の低下傾向も続いている。特に、小学校では、平成12（2000）年度採用選考においては12.5倍だった採用倍率が令和元（2019）年度には2.8倍となっており、一部の教育委員会では採用倍率が1倍台となっている²⁸。採用倍率の低下傾向は、定年退職者数や特別支援学級・通級による指導を受ける児童生徒数の増加等に伴う採用者数の増加や民間企業の採用状況等の様々な要因が複合的に関連していると考えられる。
- また、学校へ配置する教師の数に一時的な欠員が生じるいわゆる教師不足も深刻化しており必要な教師の確保に苦慮する例が生じている。教師不足の深刻化は、産

²⁵ 文部科学省「令和元年度学校基本調査」

²⁶ 厚生労働省の過労による労災補償認定における労働時間の評価目安の一つとして、発症前1か月概ね100時間を超える時間外労働、発症前2～6か月平均で月80時間を超える時間外労働が認められる場合は、業務と発症との関連性が強いと評価できるとされている。

²⁷ 平成30（2018）年度中における教育職員の精神疾患による病気休職者数は5,212人（全教育職員数の0.57%）（文部科学省「平成30年度公立学校教職員の人事行政状況調査」）。

²⁸ 文部科学省「令和元年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について」

休・育休を取得する教師数の増加等に加え、これらにより不足した教師を一時的に補うための講師登録名簿の登載者数の減少等の要因が関連していると考えられる。

（情報化の加速度的な進展に関する対応の遅れ）

- 情報化が加速度的に進む Society5.0 時代において求められる力の育成に関する課題が指摘されている。
- 数学や科学に関するリテラシーは引き続き世界トップレベルである一方、言語能力や情報活用能力、デジタル時代における情報への対応（複数の文書や資料から情報を読み取って根拠を明確にして自分の考えを書くこと、テキストや資料自体の質や信ぴょう性を評価することなど）などの課題がある。また、子供たちのデジタルデバイスの使用について、我が国では、学校よりも家庭が先行し、「遊び」に多く使う一方「学び」には使わない傾向が明らかになった²⁹。
- Society5.0 時代を見据えた国家戦略（AI 戦略 2019）において、データサイエンス・AI の基礎となる理数分野の素養や基本的情報知識を全ての高等学校卒業生が習得することを目標に掲げている一方、高等学校の現状をみると、生徒の約 7 割が在籍する普通科においては文系が約 7 割といった実態³⁰があり、多くの生徒は第 2 学年以降、文系・理系に分かれ、例えば、普通科全体のうち「物理」履修者は 2 割といった実態があるなど、特定の教科について十分に学習しない傾向にあると指摘されている³¹。
- （少子高齢化、人口減少の影響）
- 我が国では、少子高齢化が急速に進展した結果、平成 20（2008）年をピークに総人口が減少に転じている³²。
- こうした少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化は、世界でまだどの国も経験をしたことのないものであり、我が国の学校教育制度の根幹に影響を与え、また、先に述べた採用倍率にも影響を及ぼしている。少子化の進展により小学校と中学校が 1 つずつしかないという市町村が 233 団体（13.3%）、公立高等学校の立地が 0 ないし 1 である市町村は 1,088 団体（62.5%）という現状²⁵も踏まえ、学校教育の維

²⁹ 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能 7 OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）—2018 年調査国際結果報告書』（令和元（2019）年 12 月 9 日）

³⁰ 国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系進路選択に関する調査研究最終報告書」（平成 25（2013）年 3 月）

³¹ Society5.0 に向けた人材育成にかかる大臣懇談会・新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース「Society5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」（平成 30（2018）年 6 月 5 日）

³² 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」の中位推計（出生中位・死亡中位）の結果に基づけば、令和 35（2053）年には日本の総人口は 1 億人を下回ることが予測されている。また、15 歳から 64 歳の生産年齢人口は平成 29（2017）年の 7,596 万人（総人口に占める割合は 60.0%）が令和 22（2040）年には 5,978 万人（53.9%）に減少すると推計されている。

持とその質の保証に向けた取組の必要性が生じている。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大により浮き彫りとなった課題)

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休業措置が長期にわたって実施される中で、全国の学校現場は、電子メール、ホームページ、電話、郵便等のあらゆる手段を活用して子供たちや保護者とつながることによる心のケアや、また、教科書や紙の教材、テレビ放送、動画の活用等により、子供たちの学習機会の保障などに取り組んだ³³。
- しかしながら、公立学校の設置者を対象とした文部科学省の調査³³では、ICT環境の整備が十分でないこと等により、このような状況で学びの保障の有効な手段の一つとなり得る「同時双方向型のオンライン指導」の実施状況は、公立学校の設置者単位で15%に留まっている。また、学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、「何をして良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られたことから、これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないかという指摘もある。
- 新型コロナウイルス感染症の感染収束が見通せない中であって、各学校は、感染防止策を講じながらの学校教育活動の実施に努めている。一方、公立小中学校の普通教室の平均面積は64 m²³⁴であり、一クラス当たりの人数が多い学校では、クラス全員で一斉に授業を行おうとすれば、感染症予防のために児童生徒間の十分な距離を確保することが困難な状況も生じている。新型コロナウイルス感染症が収束した後であっても、今後起こり得る新たな感染症に備えるために、教室環境や指導体制等の整備を行うことが必要であるとともに、学校においては平常時から児童生徒や教師がICTを積極的に活用するなど、非常時における子供たちの学習機会の保障に向けた主体的な取組が求められる。

(4) 新たな動き

- こうした多くの課題がある中、令和時代の始まりとともに、「新学習指導要領の全面实施」、「学校における働き方改革」、「GIGAスクール構想」という、我が国の学校教育にとって極めて重要な取組が大きく進展しつつある。国においては、こうした動きを加速・充実しながら、新しい時代の学校教育を実現していくことが必要である。

³³ 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた公立学校における学習指導等に関する状況について（令和2（2020）年6月23日時点）」参照。

³⁴ 文部科学省「公立学校施設の実態調査」（令和元（2019）年度）に基づき算出。

①新学習指導要領の全面实施

- 平成 28 年答申に基づき、平成 29（2017）年に新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、平成 30（2018）年に新しい高等学校学習指導要領、平成 31（2019）年に新しい特別支援学校高等部学習指導要領が公示され、幼稚園は令和元（2019）年度、小学校等は令和 2（2020）年度、中学校等は令和 3（2021）年度から全面实施され、高等学校等は令和 4（2022）年度から年次進行で実施されることとなっている。
- 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたといった時代背景を踏まえた上で、新しい学習指導要領では資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱に整理した上で、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、学校教育を学校内に閉じず、地域の人的・物的資源も活用し、社会との連携及び協働によりその実現を図る「社会に開かれた教育課程」を重視するとともに、学校全体で児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的・目標の実現に必要な教育内容等の教科等横断的な視点での組立て、実施状況の評価と改善、必要な人的・物的体制の確保などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の確立を図ることとしている。また、各教科等の指導に当たっては、資質・能力が偏りなく育成されるよう、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこととしている。

②学校における働き方改革の推進

- 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」（平成 31（2019）年 1 月 25 日 中央教育審議会）に基づき、文部科学省では、学校における働き方改革を強力に推進するため、文部科学大臣を本部長とする「学校における働き方改革推進本部」を設置し、文部科学省が今後取り組むべき事項について工程表を作成し、勤務時間管理の徹底や学校及び教師が担う業務の明確化・適正化、教職員定数の改善充実、専門スタッフや外部人材の配置拡充など、学校における働き方改革の推進に取り組んでいる。
- 令和元（2019）年の臨時国会において、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を「指針」に格上げすること等を内容とする「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律」が令和元（2019）年 12 月 4 日に成立し、同月 11 日に公布され、各地方公共団体においては、同法改正等を踏まえ、条例や教育委員会規則等の整備を進めている。学校における働き方改革を着実に推進していくことにより、教師が子供たちに対して真に必要な教育活動を効

果的に行うことができるようになる環境に大きく寄与することが期待される。

③GIGA スクール構想

- 中央教育審議会初等中等教育分科会では、本諮問「新しい時代の初等中等教育の在り方について」を審議する中で、これからの学びを支える ICT や先端技術の効果的な活用方法について特に優先して審議を行い、令和元（2019）年 12 月には「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ」を示した。
- このことも踏まえ、令和元（2019）年度補正予算において、児童生徒向けの 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれ、GIGA スクール構想を進めていくこととなった。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえて編成された令和 2（2020）年度 1 次補正予算では、GIGA スクール構想の加速のための予算が計上された。両補正予算の金額は、文部科学省所管分で総額 4,610 億円に上るものである。
- これにより、令和時代における学校の「スタンダード」として、小学校から高等学校において、学校における高速大容量のネットワーク環境（校内 LAN）の整備を推進するとともに、令和 2（2020）年度中に義務教育段階の全学年の児童生徒 1 人 1 台端末環境の整備を目指し、家庭への持ち帰りを含めて十分に活用できる環境の整備を図ることとなった。
- この GIGA スクール構想の実現により、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても不安なく学習が継続できることを目指すとともに、これまでの実践と ICT の活用を適切に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質を向上させることが期待される。

3. 2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

- 第 2 期、第 3 期の教育振興基本計画で掲げられた「自立」、「協働」、「創造」の 3 つの方向性を実現させるための生涯学習社会の構築を目指すという理念を踏まえ、学校教育においては、2.（3）で挙げた子供たちの多様化、教師の長時間勤務による疲弊、情報化の加速度的な進展、少子高齢化・人口減少、感染症等の直面する課題を乗り越え、1. で述べたように、Society5.0 時代を見据えた取組を進める必要がある。これらの取組を通じ、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

- このためには、2.（1）で述べてきた明治から続く我が国の学校教育の蓄積である「日本型学校教育」の良さを受け継ぎながら更に発展させ、学校における働き方改革とGIGA スクール構想を強力に推進しながら、新学習指導要領を着実に実施することが求められており、必要な改革を躊躇なく進めるべきである。
- その際、従来の社会構造の中で行われてきた「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、本来の日本型学校教育の持つ、授業において子供たちの思考を深める「発問」を重視してきたことや、子供一人一人の多様性と向き合いながら一つのチーム（目標を共有し活動を共に行う集団）としての学びに高めていく、という強みを最大限に生かしていくことが重要である。
- 誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、学習指導要領前文において「持続可能な社会の創り手」を求める我が国を含めた世界全体で、SDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいる中で、ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」と名付け、まずその姿を以下のとおり描くことで、目指すべき方向性を社会と共有することとしたい。

（1）子供の学び

- 我が国ではこれまでも、学習指導要領において、子供の興味・関心を生かした自主的、主体的な学習が促されるよう工夫することを求めるなど、「個に応じた指導」が重視されてきた。
- 平成28年答申においては、子供たちの現状を踏まえれば、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要であり、各学校が行う進路指導や生徒指導、学習指導等についても、子供一人一人の発達を支え、資質・能力を育成するという観点からその意義を捉え直し、充実を図っていくことが必要であるとされている。また、特に新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視する必要があるとされている。
- 同答申を踏まえて改訂された学習指導要領の総則「第4 児童（生徒）の発達の支援」の中では、児童生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることについて示された。また、その際、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境

を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることについても示された。

- 現在、GIGA スクール構想により学校の ICT 環境が急速に整備されており、今後はこの新たな ICT 環境を活用するとともに、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要である。

- その際、平成 28 年答申において示されているとおり、基礎的・基本的な知識・技能の習得が重要であることは言うまでもないが、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力等こそ、家庭の経済事情など、子供を取り巻く環境を背景とした差が生まれやすい能力であるとの指摘もあることに留意が必要である。「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開していくことによって、学校教育が個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育んでいくことが求められる。

同答申を踏まえて改訂された学習指導要領の総則「第 3 教育課程の実施と学習評価」の中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について示された。

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業の長期化により、多様な子供一人一人が自立した学習者として学び続けていけるようになっているか、という点が改めて焦点化されたところであり、これからの学校教育においては、子供が ICT も活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくこと³⁵ができるよう、「個に応じた指導」を充実することが必要である。この「個に応じた指導」の在り方を、より具体的に示すと以下のとおりである。
- 全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。
- 基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

³⁵ 平成 28 年答申において、育成を目指す資質・能力である「学びに向かう力・人間性等」の中に「主体的に学習に取り組む態度」等が含まれ、「主体的に学習に取り組む態度」については「学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかどうかという、意思的な側面」を捉えて評価し、育成していくものとされている。

- 以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」であり、この「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。
- これからの学校においては、子供が「個別最適な学び」を進められるよう、教師が専門職としての知見を活用し、子供の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め、広げる学習を充実させる観点から、カリキュラム・マネジメントの充実・強化を図るとともに、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。
- その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を蓄積・分析・利活用することや、教師の負担を軽減することが重要である。また、データの取扱いに関し、配慮すべき事項等を含めて専門的な検討を進めていくことも必要である。
- 子供がICTを日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったたりする等の効果が生まれることが期待される。
国においては、このような学習者やICT活用の視点を盛り込んだ「個別最適な学び」に関する指導事例を収集し、周知することが必要である。
- さらに、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。
- 「協働的な学び」においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。「協働的な学び」において、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠であり、知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達

する Society5.0 時代にこそ一層高まるものである。

- また、「協働的な学び」は、同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他の学校の子供との学び合いなども含むものである。知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」のよさを生かし、学校行事や児童会（生徒会）活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実することで、子供が自らのこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、自己肯定感を育むなどの取組も大切である。
- さらに、ICT の活用により、子供一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」もまた発展させることができる。ICT を利用して空間的・時間的制約を緩和することによって、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能となることから、その新たな可能性を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくことが求められる。
- 学校における授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。その際、家庭や地域の協力も得ながら人的・物的な体制を整え、教育活動を展開していくことも重要である。
国においては、このような「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の重要性について、関係者の理解を広げていくことが大切である。
- したがって、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」とする。
- 以上のことを踏まえ、各学校段階において以下のような学びの姿が実現することを目指す。

①幼児教育

- 幼稚園等の幼児教育が行われる場において、小学校教育との円滑な接続や特別な配慮を必要とする幼児への個別支援、質の評価を通じた PDCA サイクルの構築が図られるなど、質の高い教育が提供され、良好な環境の下、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる。